屋川・伊尾川・桑名川・加洛戸川（路）・鍋田川・筏川・其外枝川、桑名・四日市・熱田湊迄、同所より志州鳥羽、夫より海岸通江戸迄、川支出水等ニて散木有之候節、又ハ海上難船と見請候ハヽ、川附海付ニても村々早速罷出、紛失無之様大切ニ取計、其所ニ集置、最寄御代官え致注進、可請差図旨、先達て川附海付村々え触渡候へ共、前々川筋ニおゐて御買上材木、不埒之義いたし候族も有之哉ニ相聞候、今般之御用材は別て大切之儀、御用之御差支ニ相成候ては不容易儀ニ付、領主地頭之家来ヵ村方之もの差出、右川下ケ中出水之節ハ勿論、夜中等別て被心附、又ハ難船と見請候ハヽ、早速罷出、御用材紛失無之様大切ニ取計、都て不取締之義無之様厳敷可被申付候、尤御領私領共飛驒郡代大井帯刀・美濃郡代柴田善之丞・御代官多羅尾轍之助手附手代相廻、村々におゐて不届之儀いたし候族於有之ハ召捕候筈ニ付、其段も可被相心得候

一 此度　御男子様御誕生被為　在候処、　思召有之候ニ付、表向御弘は不被　仰出、御名之儀ハ松平亀五郎様と奉称候旨、御達

八月

神無月廿日三井様より白木状箱入参ル

以手紙致啓上候、寒冷御座候え共、弥御安全被成御勤珍重奉存候、然は此間御陣屋ニて被申聞候大割答之儀、平島より別紙案文到来申候に付、致順達候、御披見可被下候、且拙者え之来紙も相添懸御目申候、御一覧可被下候

一 御用金持参ニて拙者共出府之儀、日限治定いたし度奉存候ニ付、明日平島屋敷へ罷出、松原氏え御相談申度奉存候間、貴様乍御苦労当方へ向御出可被下候、御同伴申度奉存候、乍序御約速（束）得御意度如此御座候、以上

加藤逸之助

安中弁治様
要用

以剪紙致啓上候、寒冷之節各様弥御安全被成御勤珍重奉存候、然は此間御相談申候大割微細帳一条、知行所庄屋共へ申渡候処、元方惣代庄屋へ其訳追々頼入置候由、且ハ立合ニ罷出候者計ニては難取計趣ニも申聞候ニ付、其訳申達候処、尤之筋ニも被存候、附てハ猶又其趣各様ニも御談及候様被申付候間、御勘考之上可然御取計御座候様致度、右可得御意候様致度、如此御座候、以上

十月廿日　　山本祐左衛門
　　松原牧右衛門
　　加藤辰右衛門
河田唯右衛門様
大塚茂一郎様

（表紙）
「
天保十己亥紀
稔内記様
孟春　御用所㊞
」

一 将軍宣下ニ付御本家様へ御三所様より御状之事
一 公儀御触村方・御家来・寺院へ触之事
一 年始飛脚江戸表より帰村之事ヵ新加納御陣屋より高割金江戸表より返却之事
一 御本家家老喜平太御懸合之事
一 犬山町方卯かい屋町出火ニ付見舞御状之事
一 犬山成瀬主殿頭様御家督ニ付御使者御差出し之事
一 加納藩中出火ニ付御見舞御状弐通差出候事
一 村方之もの共御足軽申付次第之事
一 村方八十八歳御褒美被下候事
一 山田長重郎屋鋪新規御取建之事
一 公儀御触書尾州様御逝去ニ付御停止之次第之事
一 永井山城守様御家督御祝儀御使者ヵ進物之事

触書御家来分え
申達覚

旧臘従　公儀、博奕諸勝負近来等閑ニ相成、依之厳敷被仰出候、然ル処村方之内不埒成ものも可有之哉ニ相聞、以之外之事ニ候、此上心得違之者於有之は急度仕置可申付候、尤宿借候ものは重科可申付候、以来は五人組々之内ニ壱人ニても心得然ル処、近頃心得違之ものも有之哉ニ相聞、以之外之事候、以後心得違之者於有之は厳敷申付候、若宿借候もの有之候ハヽ、重科申付候、尤召遣ニ至迄得と可申付候、依之隠目附為相廻、見合次第届出候旨申付置候、此段相心得可申候事

亥正月四日　　御役所御印

安中弁治印
長瀬席平印
宮川孫市印
永井七兵衛印
長瀬勘六印
木藤右衛門印
堀半左衛門印
金子作右衛門印

追て早々順達、留より左之者共えも相廻可有之候事

後藤万蔵印
小野木市蔵印

名前下ニ印形可致事

村々触書留
申渡覚

一 旧臘押詰従　公儀、博奕諸勝負之儀近来等閑相成、依之厳敷被仰出候、然ル処村方之内不埒成ものも可有之哉ニ相聞、以之外之事ニ候、此上心得違之者於有之は急度仕置可申付候、尤宿借候ものは重科可申付候、以来は五人組々之内ニ壱人ニても心得

違候者ハ、其五人組之者共不残厳敷咎メ申付候、依之早速打寄り相互ニ吟味合可申候、勿論隣村近郷え参り候ものも有之哉ニ相聞、不埒至極候、夫々隠目付を以為相廻、見当次第召捕候旨申付置候、右之段厚相心得候様、早々小前末々ニ至迄不洩様急度可申触もの也

亥正月四日　　御役所御印

前渡村
本郷両組
山東組
村役人共

追て早速可相触候、尤村役人共ニも能々気を付、不埒之者も有之候ハ、早々訴可申候、若隠置外より相聞候ハ、厳敷申付候、勿論女・子供・召遣ニ至迄得と可申付置候、尚寺院えも此段可相触候、以上

御請書

御触之趣一同承知奉畏候、小前末々ニ至迄得と相触、是亦奉畏候、然ル上は急度相守可申候、若心得違之者も御座候ハ、早速御訟訴（ママ）奉申上候、以上

亥正月　　前渡村両組
庄屋　竹右衛門印
同　市右衛門印
与頭　兵四郎印
同　卯兵衛印

山東組
庄屋　民右衛門印
与頭　新左衛門印

御地頭所
御役所

二月廿五日新加納御陣屋より廻文平島表より順達、松原牧右衛門殿より添手紙左ニ

山本祐左衛門様　松原牧右衛門

以剪紙致啓上候、暖和相成候処弥御安全可被成勤、珍重之御儀奉存候、然は河田氏より御連名来紙順達致候之間御落手可被下候、付てハ明廿六日四ツ時少林寺へ御出会いたし、可罷出奉存候、此段三井表より相談申来ニ付如此御座候、右御承知被下候、御出会待入候、以上

二月廿六日

尚々、廻文之文言之内書損哉、明廿日と相認メ有之候え共、明廿六日之義と推察いたし候、宜御勘考可被下候、以上

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様　　河田唯右衛門
山本祐左衛門様

以切紙致啓上候、然は江戸表より来候品御渡申候間、明廿日御一緒ニ御出可被成候、右迄得御意度如此御座候、以上

二月廿五日　　河田唯右衛門

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山本勇左衛門様

右ニ付山本祐左衛門罷出候、峨一郎罷出相渡し申候河田喜平太殿より之手紙、左ニ懸合

御札致拝見候、然は　先般公儀　御移替相済候に付、左京殿え各様御三名ニて恐悦被仰上候御書状被遣之、則差出候処、右御文面ニ宜御取次と申儀有之候え共、右は左京殿限被承置候迄ニて、何方えも被相達候儀は先例無之候間、宜御取次被申候御文面御除、御認直御引替可被成候、此段従拙者可及御懸合旨被申付、如是御座候、恐惶謹言

二月十五日　　河田喜平太

坪内太郎兵衛様
坪内金三郎様
坪内嘉兵衛様

坪内太郎兵衛様　　河田喜平太様
坪内金三郎様
坪内嘉兵衛様

一筆致啓上候、然は今般西丸御普請ニ付高割上納金之義、御触面之趣御承知有之、依之各様御三人より金三拾六両御上納被成度段、左京殿え御書状を以御差出ニ付、宜取計可申旨被仰越候段致承知、則差出候処、御紙面之趣被致一覧候、然ル処、左京殿ニは当時結構御役被相勤候ニ付、旁以冥加之為上納金被致度旨被相願、金弐百両上納被致候、依之五千五百三拾三石分高割金は上納ニ不及候旨被仰渡候間、各様高割金差出ニ不及候、依之右紙面ハ金子共其儘被致返却候間、御落手可被成候、此段拙者可得御意旨被申付、如是御座候、恐惶謹言

二月十五日　　河田喜平太

坪内太郎兵衛様
坪内金三郎様
坪内嘉兵衛様

三月二日出し高島様向差出し候、御本家家老え年始御飛脚懸合手紙、左ニ

一筆致啓上候、追日暖気相催候処、弥々御堅勝被成御勤珍重奉存候、然は当春定例年始飛脚差立候処、行違之筋御座候ニ付、飛脚は一先立帰り申候、然処此節御返書御渡相成候間、右請取飛脚壱人差立候様、新加納御陣屋ニて家来え御達御座候ニ付、依之今般飛脚差立申候間、此者へ御返書御渡し越可被下候、右之段得貴意度如斯御座候、恐惶謹言

三月　　坪内嘉兵衛

河田喜平太様

二月廿六日新加納ニて請取御連名御状、同晦日私共三人三井御屋敷ニて出会、相談返答手紙左ニ治定候ニ付、三月四五日之内

差出候筈相成候

一筆致啓上候、然は西丸御普請ニ付御触面之趣、高割当り金三拾六両拙者共より上納仕候処、此節　左京様結構御役被為蒙仰候、旁以冥加之御為ニ金弐百両御上納被成候趣、就てハ拙者共より之高当り不及上納金ニハ候段、御思召之由被仰下候え共、御承知之通拙者共御朱印連名高之内ニ候えは、冥加之為上納仕度奉存候、此段今一応御掛合ニ及申候間、可然御取計被下度、何分宜頼入存候、恐惶謹言

三月　　坪内嘉兵衛
　　坪内金三郎
　　坪内太郎兵衛

河田喜平太様

一筆致啓上候、然は先般　公儀御移替相済候ニ付、御祝書差出候処、文面ニ宜御取次と申義相認メ候処、右ヲ除キ候様被仰下、委細致承知候え共、先例と申ハ誓紙等相認メ差上候事ニ御座候えは、恐悦も御取次被下候義と奉存、相認候義ニ御座候、此段御勘考可被下候、仍て今一応御懸合為可得御意度如此御座候、恐惶謹言

三月　　坪内嘉兵衛
　　坪内金三郎
　　坪内太郎兵衛

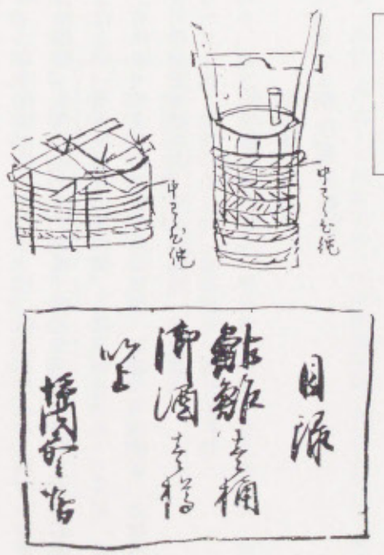
河田喜平太様

三月九日犬山え御使者山本祐左衛門相勤、右次第、尤犬山本町木綿屋庄兵衛え問屋より案内ニ付罷越、仕度之上、案内有之候ニ付問屋え罷出候処、同所え詰合御取次役深津磯之右衛門、同人え口上手控・目録・樽肴差出候事

口上手控

春暖之節御座候え共、主殿頭様益御勇健被成御座、恐慶之御儀奉存候、然は今般御家督無御滞被蒙　仰、重畳目出度御儀奉存候、右御祝儀申上候、朝迄聊両種以使者目録之通進上之仕候、此段可然御執成可被下候、以上

三月九日　　坪内嘉兵衛使者
　　山本祐左衛門



問屋ニて御料理出ル、村上佐兵衛挨拶いたし候、右御料理畢、深

津磯之右衛門罷出、御使者御口上之趣・進物等之儀急便江戸表え申遣候旨申聞、相済候ニ付旅宿木綿屋え引取候ハヽ、御勝手次第御引取之旨申越候事

三月廿六日

一　昨夜加納御家中壱軒出火之趣、安池様より被及御知ニ付、御書相認明朝足軽夫を以差遣候事

三月廿二日

一　東組村役人共久平・庄平召連相出候

申渡覚

久平
庄平

一　今般村方筋目出入之儀願出候処、其方共儀ハ右出入ニ不抱候段、神妙之事ニ候、依之格別之訳柄を以足軽格被仰付候、尤一代名字帯刀御免被仰付候事

一　年始・暑寒・五節句、羽織袴ニて御台所え罷出候事

一　以来御用之節ハ両人共御遣ヒ被成候間、此段申渡置候事

件之趣申渡候間、心得違無之様万端厚相心得候事

右之通山本祐左衛門列席、山田長重郎申儀也、申渡書壱通ツヽ下遣ス事

四月朔日

一　東組村役人共、文左衛門祖母つや并親類之もの召連出候

文左衛門祖母　つや

其方儀当亥八十八歳ニ相成候ニ付、為御褒美と銀三両被下置候事

文左衛門

右様被　仰付候間、難有相心得、精々心付介抱可致事

件之趣、於御白洲ニ御用番山田長重郎申渡、山本祐左衛門列席、畢て、つや儀　奥御次之間え山本召連出候、山田列座、　御上御一統様方御盃被下、御肴三方ニ長熨斗、箱入御盃御下ケニ相成、夫より扇子并紙ニ紅ニて寿之文字色々手を以為認候事

同二日

一　寿之餅五ツ・米計懸ケ五本献上致候、依之南鐐一片為御肴料被下候事

一　三井・平島表えも寿之大餅一ツヽ・米計懸ケ壱本・寿扇壱本献上致、依之書状差添遣候ハヽ、三井様より青銅四拾疋・鰹節弐本・田作壱袋被下候、平島様より南鐐一片被下候事、依之翌日御礼ニ差出、尤書面差添遣候事

申渡書付下ケ遣ス也　銀

八十八歳
御褒美
三両
右東組百姓
文左衛門祖母
つやえ

杉原紙

四月朔日

一　山田長重郎平信晴、屋鋪被　仰付、金拾五両御下ケニ相成候、依之今日普請場所縄張、早速屋鋪地地形ニ取懸らセ候、尤野口

村古家相求候事

四月十一日

公儀御触写新加納御陣屋より差越し候ニ付、左之通

申達覚

一 去頃　尾張様御逝去ニ付、普請は今日より三日、鳴物は七日可為停止候、早々順達可有之事

亥四月十一日　御役所印

常貞寺
桃春院
久昌寺
妙智庵

右同断　申達覚

長瀬勘六　安中弁治郎
長瀬席平　宮川孫市
永井七兵衛　金子作右衛門
村瀬半左衛門　鈴木藤右衛門

触書　寺院　安中弁治郎様

右同断　申渡覚　早々相廻へく也

触書　御役所　後藤万蔵様

後藤万蔵　鈴木市蔵　田中億助
田□千助

申渡覚

一 去頃　尾州様御逝去ニ付、普請は今日より三日・鳴物七日可為停止候、早々小前末々ニ至迄不洩様可相触もの也

亥四月十一日　御役所印

前渡村三組
村役人

九日御使者之様子左ニ候

一 加納表御家督御使者山本祐左衛門相勤、供方若党壱人・鑓・箱・草履り取り・合羽籠壱人、御両家様同様、平島松原牧右衛門殿、三井加藤録見殿、供方同断、釣台之人足当方壱人・三井壱人、平島ニて宰領壱人、六ツ半過出立、三井様え廻り候処、加藤支度手間取候趣ニ付、夫より平島様出会、御用物取調、四ツ時頃出かけ、二文字屋長七方着候節九ツ時過、夫より同人御懸り御役人中相達、少々手間取候趣、御殿ニて惣御家中御家督之御祝酒之由ニ付、手廻次第御沙汰之趣ニ付、差控居候処、夕六ツ時相成、二文字屋案内ニて脇本陣罷越、御進物玄関式台ニて取次之者へ相渡ル、取次御役人として千石鉏左衛門殿出張、玄関二間目ニて御使者請口上申述、手控口上書渡ス、江戸表へ相達可申旨答有之、夫より重役共申付候間、かけ合之御料理進上候様被申付候間、いつ右御広へ御通り申候、御案内願挨拶相済候上、玄関より四ツ目座敷、御料理左ニ

壱味噌 吸物 ロゆす ニあゆ 蓮芋から 二ツ 大猪口 孟添 二 硯 三番 ふたみがしたけ たまこ 中孟添 四 丼 芋に附 拝せ 五番 ん 後大孟 壱合余入

右一ケ相済、御膳分　めし汁 切身 岩竹　平 長いも 新かつを 香物 瓜

すあへ 大こん 切身　焼物 あゆ　右相済

御引手弐百疋　白木へき

引取口上

金弐百疋

今日不存寄御料理被仰付并御目録頂戴仕、難有仕合奉存候、引取之上銘々主人も申聞、御礼は可被申上候え共、先御取成を以宜敷様御取繕御礼可被仰上可被下候、奉願候、申引

一 明日御挨拶御状之儀、千石鉏左衛門殿へ私共三人連名ニて、平島より使遣ス筈引合ニ候間、銘々御主人様方之平島ニて出来、御差出し相成候様、加藤より為念平島様へ使遣し候筈ニ引合至事

口上手控　坪内嘉兵衛使者　山本祐左衛門

御進物

御取次　仙石金左衛門殿

御吟味方　田中熊右衛門殿

坪内嘉兵衛使者
山本祐左衛門

口上手控

山城守様益御勇健被為成御座、恐慶之御儀奉存候、今般御家督被為蒙　仰、目出度御儀奉存候、依之御祝為可申上両種進上之仕候、右之趣御祝被申上候間、可然様御取繕被仰上可被下候

八月九日

御進物入用

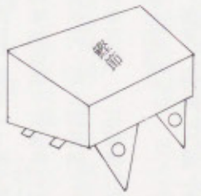
覚

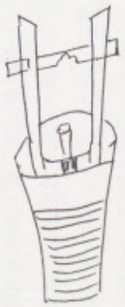
一 四拾三匁五分　鰹節三十本　一 弐拾弐匁五分　友白髪九升
一 拾四匁四分　右箱三ツ　此三ツ
〆五拾七匁九分　一 弐拾七匁五分　右之樽

山田屋
源三郎

〆四拾九匁五分

亀七





右御割合御三所
御壱ケ所御出分
三拾五匁八分
内弐分弐朱渡し、松原へ
外二文字屋挨拶百疋　御一ケ所五匁ツ、
一ケ所下共支度料九百文ツ、
御三所様御割合
〆四拾匁七分四り
外支度召つれ御物いたし候ニ付追て割合筈

八月十二日金三朱遣し

十月十三日新加納御陣屋より組頭兵四郎相渡シ、左ニ

坪内嘉兵衛様　河田喜平太

一筆致啓上候、然は前渡村百姓共村方致離散候者共被申付候儀ニ付、追々及御掛合候え共、御取用無之段甚不都合之儀と被存候、依之以別紙被相達候条、其趣得と御心得可成候、尤吟味之儀は追て被及沙汰候間、左様御承知被成候、右ニ付八月四日附御書状御返報は別段不得御意候、此段可得御意旨被申付如斯御座候、恐惶謹言

九月廿九日　河田喜平太

坪内嘉兵衛様

十月十九日

一加納表御使者飯田甚助殿妙知庵へ着、同庵より届有之、夫より甚平を以、山田宅休足有之候様案内申入、夫より用意仕案内申遣ス、御玄関へ相懸り進物孫市請取、御使者座敷通り、御使者之間進物かさり置、山本祐左衛門罷出、御使者口上相請、継上下、答、嘉兵衛儀も出府中ニ付、御口上之趣江戸表へ近便之節申達候、先々可然御取成を以宜敷様御礼被仰上被成下候様と申、進物・口上手控請取、麁末料理ニても被進候之処、御承知之通り山辺、早速ニ魚類等も手ニ入不申候間、麁末支度進上仕候、おゆりと御休足被成下候と申、支度出ス

御膳分　三ツわん　すまし汁

飯　平　連こん　青こんふ　長いも　するめ　鴨なとうふ　猪口な人しん

焼物　二才ひしき

幸うりに参り候間、二ツ百文ニ求候、一ツ出ス

右相済　目録百疋　御使者え定例取計

山本口上、先刻御噺申上候通り山辺御座候間、魚類等も不都合ニ候間、麁酒ニて進上候処甚不都(ママ)ニ候え共、軽少目録被進候、御笑納被成下候様申、差出、引、猶又先例も御使者之節麁紙被進候間、是又御笑納と申、差引、答ニ、いろ〳〵御叮嚀之御儀忝奉存候、一礼相済引取、孫市市作下座敷迄罷出、祐左衛門儀式台迄送り

若党　御新□へ通し支度出ス　下共

宰領　平　鴨な人しん　四人同様

香物

御酒料として　下共四人

弐人弐拾疋ツ、　拾疋ツ、

使

一坪内嘉兵衛様え

鰯　一連

御樽代金弐百疋

口上

冷気之砌弥無御障珍重存候

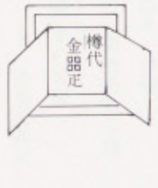
先達て家督被　仰ニ付

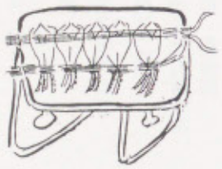
御祝被下忝存候右為御答礼

両種目録之通令進入候

此段江戸表より申付越候

十月十九日





一十月十五日若殿様御袴着ニ付、御内祝赤飯出来、餅米弐斗壱升・交米三升・小豆弐升八合、尤先例わ、他所御出入、其外村方之者共、御出入迄御重之内被下候処、今年江戸御出府御留主中之儀ニ候間、御内祝のミいたし置、重之内御配之処左ニ

三井　安池様　岡崎芦庵　ばゝ　山本　薬師　少林寺

平島　小島市兵衛　苅谷春貞　山東くよ　山田　久昌寺

孫市儀鰯献上候ニ付一重被下

名古屋山中・矢島様弐重

〆拾六軒赤飯配、寿留女添

金三郎様御袴御着用、寿山様御祝儀御土産物（老海五ツ　ひな一本　御酒）

安池様鰯一わ　矢島様（御帯一筋　ほら一本）

山田長重郎（扇箱三本入　老海五ツ）　山本祐左衛門よりほら弐本

孫市より鰯一わ

金三郎様・寿山様御奥御通り、寿山様金三郎様御名代として

若殿様へ御袴御着、用意牧（巻）鰯・八寸長のし・三宝・三ツ組盃

右御祝酒相済、ひろふた（御上下　御肩）　ごはんあきの方へ御向ニて（御膳さし）

御差用也、夫より薬師御参詣、御供方左ニ

中小姓（上下）宮川慶治　文右衛門　利左衛門　文左衛門　御箱角左衛門

御　駕　籠　御鑓喜右衛門

（上下）同長瀬米久五郎　治　平　御長柄傘柳蔵（※）

（※）御草履取治平　御馬口鉞治　山本祐左衛門袴　若党庄左衛門

御初穂下し、御帰り祐左衛門宅御立寄被仰付ニ付、二本入扇箱・

御かし献、夫より荷稲（ママ）様御参詣、右相済

三ツ組盃　硯蓋（そうめん　大こん　岩竹　切身　三島のり）　御膳分　飯　汁（とうふ）

すあへ（長いも　れんこん　糸こんにゃ　人しん　こんふ　坪めき）　引て　平（したけ　長いも　ちくわ）　焼物（二才）

猪口（たこ　こんにゃ）

右之通り御客様・御家内様同様

後盃

白三味
吸物二才　硯ふた　九年坊　長いも　老海したけ　角ゆへし　井こんにや　井なからしあへ　井はへ

大平かふら　あんかけ　作身　ほら大こん　赤のり　ちしや　吸物鴨せり　大平青ミ　長いも　いたん　人しん　魚

井□□

井たこ　吸物あられ　うすゆき

下々

次計

平いも　こほう　とうふ　するめ　大こん　坪人しん　れんこん　とうふ　すあへ　焼物平島様御持　矢島様御持　いな

硯蓋いも　あひ　とうふ　ゆへし　みかん　鉢三味大こん　さより　に附

下々迄御酒・御膳分被下候事

薬師へ御供方之者共へも被下候

御召寄之者共　山田家内　孫市　慶治郎

山本家内　くよ　春貞儀病気ニ付断

は、くの儀差支ニ付断

安池様御出之筈之処、御用ニ付御断御使来候

矢島様御出之筈、是も腫物出来ニ付断

十二月廿一日

一　名古屋横井伊折介様より御役替被遊候ニ付御挨拶、白木御状箱来ル、右本紙江戸表へ差出

御返書左ニ

貴札拝見仕候、先般結構御役被蒙　仰候ニ付軽少品進上之候処、右御挨拶被入御念、貴墨殊ニ見事之御荷籠送被下、千万忝仕合奉存候、右貴答御礼申上度、以愚札如此御座候、恐惶謹言

十二月廿一日　坪内嘉兵衛

定昌（花押）

横井伊折介様

（表紙）

「天保十一年

庚子年記録

正月

御用所」

天保十一庚子年

一　二月廿四日御本家様御転役小普請御支配之事

一　二月廿九日少林寺開板披露御使者之事

一　三月朔日平島様御隠居様上薗様初節句之事

一　正月五日出払之者村帰之事届書

一　三月村方出入江戸下り届書事

一　宗門人別調印之事

一　尾州様御家督之節御挨拶銀弐枚来ル事

一　尾州様御官位御返事之事

一　左京様御伝役（転カ）ニ付高役金再応沙汰之事

一　文化年中村方取扱儀定書之事

一　三井様より江戸御出府御留主見舞之事

一　新加納御陣屋へ人別宗門差出し候事、尤文化文政年中之今度村方出入ニ付入用之由

一　小普請金新加納へ差出ス之事

一　八月廿一日加納様御在城之由申来ル之事

一　永井様御初入ニ付御祝書出し之事、九月相廻し候字庄屋見せ候ニ付留置

一　小普請金請取六月・十一月両度

一　長根山下廻り立木御払新田儀蔵へ払十一月十一日

一　十一月廿七日尾州草井村案（内脱カ）名古屋御勘定役前川原見分村役人尋罷出候事

一　尾州様御家督御祝儀之事

一　十二月廿七日江戸御出府村出入之節入用村役引請之処口々ニ付今度河内屋柳蔵ニて三拾三両借入証文之事

二月廿六日尾州草井村より前川原案内、流材さかし候ニ付、村方惣方罷出駈合、役人宮田村川目附神谷与八郎、草井村川庄屋幸助外人足弐拾人召つれ候て、隠木三本見出候て草井村へ釣行候処、押留駆合ニて神谷手結いたし候、草井村幸助え駈合、其内五左衛門と申者神谷召つれ候、人足船かへニて五左衛門打候ニ付、其場所ニふし候ニ付、村役駈合、百姓孫右衛門草井召取候ニ付、猶又引戻候様掛合いたし候処、其ケ敷殊ニ五左衛門たをれ居候、旁以御出役之儀願出候ニ付、孫市遣し右役人え駈合候、

一　右返書来る事

一　永井様御初入御使者之事

一　殿様御帰着先触之事

一　殿様御帰り御供立之事并献上之品之事

一　永井様御用人中より御使者御挨拶之事并返書之事

一　御払山四ケ所之事
一　苅谷幸右衛門より御役替為知之事
一　坪内権左衛門様西　御丸御書院番御役ニ付御祝書之事
二月廿四日
一　新加納御陣屋より廻文平島表より順達
以手紙致啓上候、然は左京様御儀、今般小普請組支配え御転役被為蒙　仰候段、江戸表より申来候間、此旨宜御達被成候様致度、右得御意度如斯御座候、以上
二月廿四日　　大塚茂一郎
　　河田唯右衛門
加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山本勇左衛門様

猶々、本文御転役ニ付、御支配下村々高役金御取立、早々御差出し可被成候、以上
一　松原牧右衛門添手紙左ニ
以手紙致啓上候、春寒之節御座候え共弥御安全被成御勤、珍重奉存候、然は御本家御転役ニ付為知之廻文到来致候ニ付、順達仕候間御落手可被下候
一　御知行所高役金之儀、御承知之通り差出申候儀無之、右答方之義文通ニて申遣候方可然哉之段、三井表より相談申来候、且又

右御祝書ハ勿論、御肴代百疋被進候様被□□候段被申越候、然ル処此節嘉兵衛様御儀御在府中之儀、此段如何御取扱御座候哉と奉存候、否御報ニ被仰聞可被下候、右得貴意度如此御座候、以上
二月廿四日
右返し
今般御高役金之儀、御両家様より新加納表へ可然御掛金可下候、御承知之通出府中之儀ニ候間、御両家様ニ御順じ申上候、答遣し御治定之上、猶又江戸表へ相尋取計可申候旨申遣し、尤廿四日戸村惣右衛門様御立寄ニ付取込、御答迄申遣し、又御祝書之儀ハ御肴代等は、江戸表ニて御取計御座候哉奉存候、右之始末も重便申遣し候と申答也
一　十一月五日村役共より届左ニ
御届奉申上候事
一　去三月中より村出之者、江戸表におゐて御本家様より御地頭様え御頼被成下置、格別之御慈悲を以帰村被　仰候、私共ニおゐても難有仕合ニ奉存候、右一同不残帰村仕候故御届奉申上候、但し前書不残と奉申上(検脱)え共、治吉壱人ハ出払中ニ病死仕候間、是又奉申上候、以上
子ノ正月五日　　前渡村西組
　　庄屋市右衛門○
御地頭所　　組頭宇　平○
御役所

一　二月十九日江戸下しニ付書附
乍恐以書附奉申上候
一　今般村方出入之儀ニ付、無拠江戸表　御本家様え奉歎願候処、厚キ以御　思召を御取上ニ相成、旧冬帰宿被　仰付、難有仕合ニ奉存候、此度出府可致様被　仰付奉畏、依之御請書奉差上候、以上
天保十一年子三月　　三株惣代
　　儀右衛門○
御地頭様　　同断　治左衛門印
御役所
右之通り御請書奉差上候ニ付、奥印仕奉差上候、以上
　　西組庄屋市右衛門○
　　組頭　宇　平○

乍恐以書附ヲ御届ケ奉申上候
　　東組百姓
惣代　奥右衛門印
同断　庄左衛門印
同断　清右衛門印
右之者召連、明廿一日江戸表え出立仕候間、此段御達奉申上候、以上
二月廿日　　東組組頭
　　兵四郎印

上
三株惣代
政右衛門
藤蔵
市左衛門

乍恐奉願上候御事
当子年宗門一札之儀ハ、例年之通当月十三日、去亥年請帳ニ相洩候人数迄不残判形相済候之処、五人組帳計当日相済不申、然処今十九日右帳面ニ調印可仕旨、依御触罷出、組合之趣拝見仕候処、去ル戌年迄之組合とは相違仕罷在候、右は東組・西組と御分被遊候より組合も違仕候事と奉存候、組分之儀は新法之事ニ御座候え共、昨亥年之儀は多人数留守之事故、其余は老人或は子供又ハ女計ニて、何之差別無之調印仕候え共、当年之儀は先規之通ニ被成下候様、江戸表迄出願仕候之処、此節於　御本家様御吟味中ニて、勿論訴答共惣代之者彼地ニ罷在候事故、右以惣代、組合違ひ之姿ニ分調印仕候哉、又は先振之通ニ罷成候哉之段奉伺、御下知ニ随て調印仕度、何分差縺中ニ御座候えは、御伺之趣相済候迄、五人組帳調印之儀乍恐御延引被成下候様奉願上候、右願之趣御聞済被下置候ハ、難有仕合奉存候、以上
但与左次組合共先規之通ニ相心得、無筆ニて何心なく調印仕候間、消印之儀奉願上候、以上
天保十一年子三月　　三株惣代
　　政右衛門印
　　同断　藤　蔵印

御地頭所様
御役所

同断　市左衛門印

右之通奉願上候ニ付、奥印仕奉差上候、以上

西組組頭
卯　平印

坪内嘉兵衛様　津田太郎左衛門

一四月十日松原牧右衛門殿、御留主御見舞兼高役金之儀、新加納御陣屋より沙汰有之ニ付、答方井廻文持参相談之有(ママ)ニ付、御出府中之儀ニ候間御両家様ニ御断及申上候趣申ニ付、返事左ニ申遣し候筈、夫より三井表へも立寄相談之筈

以手紙致啓上候、然は左京様御儀　御伝(絵カ)役ニ付、高役金御差出可被成旨得御意置候処、今以何等之御答無之ニ付、右高役金明十日迄ニ御差出可被成候様いたし度候間、右迄得御意度如斯御座候、早々以上

四月九日　大塚茂一郎
河田唯右衛門

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山田勇左衛門様

右ニ付返事左ニ

御紙面致拝見候、然は左京様御伝役ニ付高役金之儀御申越被下、御紙面之趣申達候処、右は天保七申年御火消御役之節も出金方御断ニ可為置候、然処其節拙者共よりも同断之次第印紙を以差出し可申よし御演舌付、則相認差出し申置候、此度之儀とても同様之儀ニ御座候間、左様御承知可被下候、此段及御答候様被申付如此御座候、以上

四月　山本
河田唯右衛門様　松原
大塚茂一郎様　右松原下案文也　加藤

乍恐以口上書奉申上候御事

去ル文化年中小株三苗差入組候節、済口御規定連印書付之儀ニ付、今般於江戸表　御殿様　御本家様御相談被為在候付、右年中村役井御出入惣代茂兵衛、夫々え右連印帳可差上之旨被　仰付候え共、乍恐私共計之了簡ニは難取計奉存候間、江戸表惣代之者えも以文通一応及相談、其上ニて御答可奉申上候間、右懸合中御日延奉願上候、以上

天保十一年子四月

茂兵衛倅　園右衛門印
喜藤治跡　勝右衛門印
惣左衛門様
元蔵倅　新兵衛印

御地頭所様
御役所

右之通り奉願上候ニ付、奥印仕奉差上候、以上

組頭　卯　平○

五月廿九日新加納御陣屋より使左ニ

以手紙致啓上候、然は江戸表より封状三通到来いたし候間、為持進申候間御入手可被下候

一其御支配下前渡村庄屋竹右衛門井三株と唱候もの共之内惣代弐人共、御召連御出御座候様いたし度、右迄得御意度如此御座候、以上

五月廿九日　河田唯右衛門
大塚茂一郎

山本祐左衛門様

右返事遣し置

一六月朔日罷出候、先達御沙汰御座候人別書、文化年中九年より文政十二迄差出候様申来候間、先達中取次計之助殿井村方文化年中取扱印紙、是以御陣屋へ差出候様申参り候間、此段も御承知被下候申候、尤竹右衛門・惣代三人罷出候、惣左衛門・清右衛門・新兵衛、右書附差出候

同二日

祐左衛門病気ニ付、代人孫市を以宗門帳持せ遣、供壱人、左ニ口上書遣し

口上覚

一今般江戸表旦那方より人別宗門帳差出候様被申越有之候処、猶又御陣屋より御沙汰有之ニ付取調候処、先般御陣詰(屋敷カ)御当番衆中迄申入置候通り、先年入置候長持之内鼠(虱カ)宿り候ニ付、古キ宗門帳難用意候様相成候趣、先役相勤候者共より申伝聞候、猶又今般残り人別宗門帳相改候処、不足之分有之候え共、取調差出申候間、此段御承知可被成下候、以上

一文化九より七ヶ年之内、同十五年寅年分、禅宗一冊・五人組合帳一冊〆弐冊

一文政二卯年禅宗・浄土真宗共　二冊
同三辰年　同断
同四巳年　見当り不申ニ付御断
同五午年　禅宗・五人組合帳　二冊
同六未年　同断　二冊
同六申(ママ)年　同断　二冊
同七酉年　同断　二冊
同八戌年　同断　二冊
同九亥年　浄土真宗　一冊
同十子年　五人組合帳　一冊
同丑(ママ)年　禅宗・浄土真宗　二冊
〆弐拾冊

右之通り御座候、以上

六月二日　山本祐左衛門
新加納御陣屋
御当番衆中様

覚

一　金六両也

右は当子年小普請金書面之通被成御差出、慥ニ請取申候、以上

子六月十日　　河田唯右衛門印

山本祐左衛門殿

右は当年は中屋ニて金子手形ニて差出し候、御取次今尾計之助殿

子六月十六日新加納御陣屋より廻文左ニ

一　以手紙致啓上候、然は　公儀より七ケ年め毎之御改人別書付之儀、先例之通御取調、来ル十八日迄ニ御差出可被成候、右得貴意度如此御座候、以上

七月十六日　　大塚　茂一郎

河田唯右衛門

加藤辰右衛門様

松原牧右衛門様

山本祐左衛門様

以手紙致啓上候、残暑強御座候処弥御安全被成御勤、珍重奉存候、然は新加納御陣屋より之廻文壱通、致順達候間御落手可被下候、右迄如此御座候、以上

七月十六日　　松原牧右衛門

山本祐左衛門様

右ニ付新加納御陣屋へ答左ニ申遣ス

御廻状人別御改之儀当十八日迄取調可差出旨、委細致承知候、然処、旦那知行所之儀御直証文之例ニ御座候えは、取調江戸表旦那方へ可差出候間、左様御承知可被下候、右之段得貴意度如此御座候、以上

七月十八日　　山本祐左衛門

河田唯右衛門様

大塚茂一郎様

右ニ付、村方・御家来・寺院方へ廻文左ニ申遣ス

以剪紙申達候、然は人別御改ニ付、村内男女訳いたし明十七日迄取調、早々差出可申もの也

七月十六日　　御役所印

前渡村

三組

庄屋へ

組頭へ

以剪紙申達候、然は人別御改ニ付、明十七日迄先例之通り御取調、御差出可被成候、以上

七月十六日　　山本祐左衛門

常貞寺様　久昌寺様

桃春院様　妙知庵様

以剪紙申達候、然は人別御改ニ付、明十七日迄取調、早々御

差出可被成候もの也

七月十六日　　山本祐左衛門

安中弁治殿　長瀬竹右衛門殿

宮川孫市殿　永井七兵衛殿

長瀬勘六様　金子作右衛門殿

長瀬席平殿　村瀬半左衛門殿

鈴木藤右衛門殿

人別御改之覚

一　人数六百六拾七人　　濃州各務郡前渡村

内男三百四拾弐人

女三百弐拾五人

外ニ

僧弐人　柳宗　桃春院

尼四人　同宗　妙智庵

尼弐人　日蓮宗　久昌寺

坊主弐人・女五人　浄土真宗　常貞寺

坊主女壱人　同宗　諦定

都合六百八拾三人

右は私知行所百姓并寺惣人数相改、当子年当歳以上之男女相改申候処相違無御座候、仍て如件

天保十一子年七月　　坪内嘉兵衛○

坪左京殿　　（書判）

御家来惣人数五拾四人

内男弐拾三人　御家来分先例御書出しニ相成不申と奉

女参拾壱人　存候、御勘考

惣〆七百三拾七人

七月十八日出ス

八月十四日加納より御足軽使、白木状箱来ル、左ニ

坪内嘉兵衛様御内　永井肥前守内

山本祐左衛門様　安池治太夫

杉井伝右衛門

山田長重郎様　安池新八郎

以前（剪）紙致啓上候、弥御堅固被成御勤珍重奉存候、然は肥前守儀在所え之御暇被　仰出ニ付、追々爰許え被相登候、然ル処蔵敷俟約被申付、年々往来之儀ニも御座候間、道中も省略至て人少ニて被致旅行候間、若為御馳走御役人中被成御差出候御沙汰も御座候ハヽ、不一通堅被及御断候、且又在着後為御歓御使者・御音物等御座候ても、省略中之儀被及御断候えは、却て失礼ニも相成候ニ付、堅被及御断候、此段何も様迄拙者共より宜敷得御意旨、江戸表肥前守方より被申付越候間、如此御座候、以上

八月十四日　　安池新八郎

新貝七之丞

杉井伝右衛門

永田図書

安池治太夫

山本祐左衛門様
山田長重郎様

追て肥前守儀、去ル九日江戸表被致出立候様ニ申来候、道中無滞候ハヽ、来ル廿一日爰許え可被致着候間、別段為御知不申上候、以上

八月廿五日安池様より幸便ニ付手紙来ル、右は今般永井様御初入之事ニ付、御倹約ニ付御音物等御断之儀は定式ニ有之候、此度は御初入之事にも御座候間、寛政三亥年・享和二戌年御初入之節之通り、御三家様より御使者有之方可然と奉存候、尤来月朔日二日之頃ニて可然と奉存候、其方様より之御口上は、御両家様御同様ニと、兼て此段江戸表より申付越候と御認メ可被成候、尤御口上手控之事御座候

右ニ付廿六日三井加藤へ内談、祐左衛門罷出候処、先年と違、別て今般之御用人中より之御状御念入候ニ付、見合候方可然と申事ニ付、同様承知之旨申置引取、三井様・平島様御初入ニて御祝書左ニ

一 御書面致拝見候、如仰冷気御座候へ共、各様弥御安全被成御勤珍重奉存候、然ハ肥前守儀先達て被致初入候砌、不一通御使者御贈物等被及御断候、乍去初入之儀、旁其御方々様ニおゐても御心済も被成兼候ニ付、是迄先例も御座候間、御使者御贈物等御取計被成度旨、段々御配慮之趣御内々為御問合、各様より拙者共迄被仰越候、御帯面之趣委細致承知候、就ては御先例之通、御使者は御祝儀之義思召次第御取計被成候様奉存候、右御報可得御意如是御座候、以上

九月廿日　安池新八郎
新貝七之丞
杉井伝右衛門
永田図書
安池次太夫

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様

追て御端書御別紙之趣、是又致承知候、御三所様御同様御承知可被下候、以上

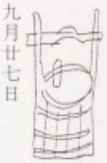
廿二日来ル

別紙之通申来り候間、御承知之上可然被仰上可被下候、何卒山本氏へも宜御通達可被下候

一 御進物之儀ハ、此方より岐阜亀七方へ可申付候、出来之日限相定り候ハヽ、又々可申上候、其上前日ニ加納迄向々御通達仕度奉存候、宜御勘考可被下候、以上

九月廿日　松原氏より
加藤様

山本祐左衛門加納行之御使者相勤候事、尤御両家様御同様、平島屋敷へ出合、進物左ニ



御三所様
御同様也

九月廿七日

金壱両松原牧右衛門へ渡ス

松原より順達十月四日

一 金壱両　　鮎十五入寿し桶三　別紙通り
一 拾四匁四分　　友白髪九升　此三升三樽
一 拾九匁五分　　白木樽三ツ
　弐〆弐百八文　　二文字屋支度代弐拾人分
〆銀壱両弐分ト三匁九分　此弐〆(銀カ)弐百〇八文
此三ツ割一分分ン
　（三拾壱匁三分　　（弐〆弐百〇八文三ツ割一分分ン
　（此金弐分ト百四拾六文　（七百三十六文
合〆弐分ト八百八拾弐文
　　此弐朱ト六十弐文
合金弐分弐朱ト六拾弐文
　右御一ヶ所御出分也
右之通御割合申上候、以上　　松原より
　九月晦日
　御両所様

先触　　坪内嘉兵衛内
　　山田長重郎

覚

一 人足　　七人
一 本馬　　壱疋

右は坪内嘉兵衛用済ニ付、来廿三日江戸表発足、木曽路通行、在所濃州前渡表え罷越候間、書面之人馬差支無之様、肝煮(ママ)頼入申候、以上

坪内嘉兵衛内
山田長重郎

仲仙道
　板橋駅より
　鵜沼宿迄
　宿々問屋
　役人中

追て此先触早々順達、鵜沼宿より前渡陣屋え差出可給様、頼入申候

泊宿左之通

九月廿三日　樋川宿
同　廿四日　深谷宿
同　廿五日　安中宿
同　廿六日　沓掛宿
同　廿七日　長久保宿
同　廿八日　塩尻宿

同　廿九日　　宮ケ越宿
十月　朔日　　野　尻宿
同　二日　　大　井宿
同　三日　　伏　見宿

右之通宿々十日ニ有之候、以上

十月四日　殿様御着之事

御具足二人・御駕籠三人・御鑓壱人・御箱壱人・長柄傘壱人・御馬口弐人・沓籠壱人・合羽籠・両掛・小荷馬壱疋、三日夜九ツ時太田宿迄御迎人足十人、其外御家来分五六人、御足軽弐人罷出候、弁当不残遣し、四日鵜沼宿へ人数三拾人計弁当差出ス、御休野口定兵衛御酒献御支度出ス、挨拶として五日手紙添金百疋・外御酒料弐朱被下候

一三井・平島様より途中御使者御差出し、松原牧右衛門・加藤録見

一若殿様鵜沼宿迄御迎御出之事、祐左衛門御迎兼御供仕候事

献上覚

一酒壱升　　久昌寺
一同　　妙知庵
一同　　桃春院
一同　　常貞寺
一五升　御家来孫　　市
　　七兵衛
　　甚六
　　作右衛門
　　半左衛門
　　藤右衛門

一弐朱　御出入門右衛門　　市兵衛
一永芋十本　　万　蔵
一酒壱升　　甚　平
一永芋　　弁治家内
一菓子一箱　　長十郎
　茄子つけ　　在所より
　栗り
一とうふ五丁　ミちよ
一とうふ四丁　さ　と
一酒壱升　　惣九郎
一魚一本　　彼南市
一魚壱本　安池新三郎様
一重つめ　安池新八郎様
一さつまいも　壱盆　民右衛門母しん　岡崎芦庵　ふな七枚献
一ゆず　壱盆　利兵衛　午坊　くよ　風呂敷たはこ
　片岡甚兵衛

公儀御触之儀、御裁許裏書絵図裁許村方ニ有之候分差出候様、

尤月番寺社奉行所差出候様との御触也、右は御触留記有之候間あらまし印置、村方より在之通り取置候事

乍恐書附を以奉申上候

一今般　御公儀様より御触御座候趣、村々所持仕候御裁許御裏書絵図御裁許証文等所持仕候ハヽ写差出候様、御触之趣奉畏候、依て村内吟味仕候処、右古書類所持不仕候間、此段書附を以奉申上候、以上

天保十一年子十月日

前渡村
庄屋　武右衛門○
組頭　宇兵衛○
組頭　兵四郎○
組頭　新左衛門○

御地頭所
御役所

坪左京様
参人々御中

坪内太郎兵衛
坪内金三郎
坪内嘉兵衛

一筆啓上仕候、然は今般御尋書ヲ以被仰下候御ケ条、別紙之通御請書一段認下ケ差上候間、御一覧之上宜奉願候、恐惶謹言

坪内嘉兵衛
定昌（書判）
坪内金三郎
定国（書判）
坪内太郎兵衛
定並（書判）

其方共ニ知行所百姓共ニ至迄、前々より差出来り候大割銀之儀、去ル未年以来曾て出金無之ニ付、役人共より追々掛合候え共、於今ニ出金無之、尤大割之儀は本末共高掛り銀ニて、公役ニ抱り候儀兼て弁も可有之筈之事ニ候処、右体不納相成候ては知行所惣割付方出来不申、取扱方難渋之趣追々申立も有之、自然知行所不取締りニ成行差支候間、来ル六月限急度出金可致候、若差出於不申は、其節不及沙汰其筋え相届ケ可申間、其旨兼て相心得可申事

右御請

大割銀出金方之儀ニ付、去ル天保八酉六月中河田喜平太え申通し置候、大割元方微細帳差出候ハヽ、夫々取調べ出金も可仕筈ニ談置候処、今以巨細帳不差出、右故延引ニ相成居申候事ニ御座候

一本家御役中は前々より、小普請金之外壱人ニて金八両ツヽ、差出来り候処、近来其儀無之無沙汰ニ候、右は全先規ヲ令忘却等閑之事ニ候、如何ゝ之心得ニ候哉之事

小普請金之外ニ金八両ツヽ、差上候儀ハ、先年御不勝手之節御

親ミ之訳ヲ以、御願も有之ニ付差出申候処、御勝手□取直し、
当時御模通之筋ニ被成御座候上ハ、御断申上候義ニ御座候

一本家御役転候節之其方共知行所より差出候高役金之儀、定も有之候処、近来取立等閑ニて差出不申段、如何之心得方ニ候哉事
右両条出金之儀は、御役勤中公用之内ニ差加相勤候儀ニ付、出金無之候ハ、公務差支相成候事故、前々定之通早々取調ヘ、相滞候分出金可致候事

高役金之儀、去ル文政七申ノ五月私共知行所百姓より、地頭二ケ所ニ相成候訳書ヲ以御断申上候、右之書附ニ私共家来奥印為仕、五月廿八日新加納御陣屋ヘ向為差出置申候

一其方共供連之儀ハ兼申渡置候通、馬脇弐人・口附弐人・鑓持壱人・挟箱持壱人・傘持壱人・草り取壱人・踏箱持壱人・合羽籠持壱人ニて相当ニ可有之之処、去ル春中少林寺ヘ仏参之節、先挟箱・先鑓・徒士等迄召連罷出候ニ付、新加納陣屋詰役人共より兼て之心得方及尋候処、先例之旨及答候由ニ候ヘ共、其方共身分として右様之供連等致候義有之間敷、公儀を不憚心得方、法外之事ニ相開候、兼て之心得方相尋候事

私共供連之儀は、御府内ニてハ御尋書之通成ル供方相当ニ御座候、在所知行所ニおゐてハ少林寺佛参ニてハ無之、親鸞上人真向之御影御知行所百姓共ヘ拝礼被仰付、其節毎々先例之通可取計旨、書中を以御陣屋詰之当番役より私共家来迄御案内申越候ニ付、先年より之仕来りも有之、且ハ百姓方取締り政務ニも相抱り儀と申伝ヘニて、今以先規之通ニ取計罷有候

一前々正月朔日為年始新加納陣屋ヘ罷出来り候処、一両年以来其儀無之旨申越候、右陣屋之儀は先祖より取建候義は相弁居可申筈ニ候処、全陣屋役人共ヘ之年始之心得違、右之始末ニ至り候義ニ可有之候、先例仕来りも有之儀を自分として無沙汰ニ相止候段、全我儘之心得方ニ候事

如仰、御陣屋は先祖より被建置候儀故、私共罷出　左京様ヘ年頭御祝儀申上候間、序之刻江戸表ヘ宜と申置候事、先例ニ御座候、然ル処、一両年以前御陣屋詰之支配人先規之仕来り通相違之会釈、如何之訳相尋候処、江戸表河田喜平太より申越候との答ヘ、先例ヲ相崩候間難心得ニ附、無是非差控ヘ罷有候儀ニ御座候、是以先規仕来り通り被仰付被下候ヘハ、私共ニおゐても同様之儀ニ御座候

右之趣心得方御尋ニ付、前書之通御座候、以上

御払山代金之事

壱　弁天通岩下より山ノ神迄廻り払木　下切村
　代金拾九両壱分拾四匁九厘　喜蔵落札

弐　御門前通西通り明知庵浦迄　松本
　代金弐拾弐両弐朱　六助同断

三　御浦三角堀通天神迄払木　大左野
　代金四拾両八匁六分　藤兵衛

四　長根山墓東同所西三角　前渡
　代金弐拾弐両三分壱匁九厘　七左衛門

四口〆金百四両弐分壱匁弐分八

右

三月之内　手附壱割半割半　右入札之者共ヘ酒代金壱両壱分遣し候

極月廿五日限迄　手附共都合半金

丑正月限迄　弐分通

寅正月限り　皆済

右之通り定也

十一月十二日

十二月廿三日座頭壱人罷出候、右は追々御公儀　御台様御逝去ニ付、御志之配当願出候処、御両家様ヘ御相談之上取計遣し候旨申渡置候処、今日三井表より取調書附左之通り申参り候ニ付、同様取計申候、尤先々より百疋之例申候ヘ共、今度御逝去之御儀ニも有之候間、弐朱ニて取計候筈ニ申参り候

覚

御台様御逝去ニ付御志之配当金弐朱也取計申候、以上

子十二月廿三日　三井屋敷
用部屋

平島御屋敷
前渡御屋敷

加納組
庄屋
作之市
使本庄村
慶　達

以手紙致啓上候、寒冷ニ御座候ヘ共弥御安康ニ被成御勤、珍重ニ奉存候、然は当方権左衛門様西丸御書院番被為蒙　仰候段、江戸表より申来候、此段御承知可下(被脱カ)候、右為御知為可得(ママ)貴意、如斯御座候、以上

山本祐左衛門様　苅谷幸右衛門

（表紙）
「
天保十二年辛丑記録
御用部屋
」

一左京様御縁組ニ付再願之事
一三井・平島様より同断再御願書出ル事
一信州御縁談御願済之事
一御縁談御願済ニ付御礼書之事
一新加納御陣屋御法事一件ニ付御懸合之事
一中泉御役所拝借金三百弐拾弐両弐分返金請取中屋へ渡ス事
一河田政右衛門御家老役為知之事
一藤江様御縁談松本御引移御関所御手形之事
一七左衛門御払山外切込候ニ付御咎被仰付御免之事
一信州御引移御手形一件
一金三郎様・太郎兵衛様・藤江様御引移御酒被進候事
一大御所様薨御ニ付御触之事
一村方出入二件済口之事
一奥右衛門欠落之事竹右衛門届書付差出之事
一大御所様御不例之事本家より為知也
一七兵衛娘加茂郡勝山村縁組候ニ付送り一件之事
一大垣御出入始り之事
一大御所様　薨御ニ付御停止之処三月朔日普請御免廻文
一永瀬勘六四男中西部村養子遣し村送り之事
一平島様御本屋御普請見舞之事
一御上・上蔦様御疱瘡ニ付御内祝赤飯取計之事
一笠松御役所より盗賊村々組合いたし相廻り候段御触之事
一四月廿八日、五月四日御発足永井様御参府之事
一公儀御中除之儀ニ付村方五月節延引触之事
一加納御発駕跡為知書状、同御返書之事
一若殿様御疱瘡御酒湯御内祝ヵ献上物
一加納御家中出火御見舞御状之事ヵ三（ママ）安池様・小田様御使付之事
一金子作右衛門御暇被仰付一件
一江戸表御本家政右衛門御陣屋へ来ル一件
一十月廿日来状、御本家様御役替浦賀御奉行御転役
一飛州御用材川辺役所願込ヵ村方取しまり一件

一筆啓上仕候、春寒之節御座候え共益御勇健被成御座、珍重之御儀奉存候、然は私妹縁組之儀達て御願奉申上候間、早速御許容被成下候様奉願候、依之再応御願奉申上候間、願之通被　仰付被成下置候様奉願上候、恐惶謹言

正月八日　　坪内嘉兵衛
　　定昌（書判）

坪　左　京様
参人々御中

一筆啓上候、然は今般御家老職被　仰付候段致承知、目出度存候、右歓為可得御意如斯御座候、恐惶謹言

坪内嘉兵衛
坪内金三郎
坪内太郎兵衛

河田政右衛門様

御札致拝見候、然は今般御家老職被　仰付候段、為御吹聴御紙面之趣致承知、目出度存候、猶御心易御文通被下度、御報旁為可得御意如斯御座候、恐惶謹言

坪内嘉兵衛
坪内金三郎
坪内太郎兵衛

河田政右衛門様

一筆致啓上候、然は御同姓政右衛門殿え御家老職被　仰付候段、致承知目出度存候、右御歓為可得御意如斯御座候、恐惶謹言

坪内嘉兵衛
坪内金三郎
坪内太郎兵衛

河田喜平太様

右七通十七日席平持参、新加納御陣屋当番今尾茂左衛門え相渡ス

一、閏正月七日三井表より使来、左ニ

以手紙致啓上候、余寒過兼候え共弥御安全可被成御勤、珍重奉存候、然は加納御城守様より御直御返書不被下候ニ付、御用人中え私共より相願可申方可然哉ニ、平島表より此間相談申参り、依之願向キ下書仕り見候、御一覧被成下、御勘考之上宜御伺被仰上、御加筆被成可被下候、御同心ニ御座候えは、猶又平島表え及相談ニ、加納表へ当方より取計可申奉存候

一御本家御□本崎より到来申候壱封、御届申上候間御落手被下、御指上可被下候、右為可得貴意如此御座候、以上

閏正月七日　　山本祐左衛門様　　加藤辰右衛門

本文申上候答之義、当方ニて取計申候方思召候ハヽ、此来書御返却可被下候、已上

追書を以得貴意候、然は御本家御法事之節、御直宛之義及掛合候ニ付、返書到来ニ付、平島表より其砌順達御座候所、当方ニて遅滞ニ相成り申候、御用捨可被下候、今日順達仕候間御披見可被下候、右ニ付其分ニもいたし置がたく奉存候、付てハ一通再答申遣し、其御許様ニ御座候御留之内、別紙写し之一通相添差遣し、掛合捨ニいたし置キ、重て御直宛申参り候ハヽ、御披見之上御承知被為成候旨、私共より相答え遣し候居りニては如何哉、御勘考被成下、御様子被仰聞可被下候、平島表えも相談可仕奉存候、先ハ御相談為可得貴意、早々如此御座候、以上

閏正月七日

右之通申来候ニ付、両様共御同心被成候間、宜敷取計有之候様、

返書頼遣ス

加納表遣下案

一筆啓上仕候、余寒之節御座候え共弥御壮健被成御座、珍重之御義奉存候、然は前々より　御城守様え、旦那銘々より年始御祝詞御直宛を以被申上、且臨時之義ハ御家老中迄、愚札を以吉凶共被申上候義ニ御座候、　御役柄以前迄御直書ニて御会釈被成下候先例ニ御座候、然ル処　御当守様より未御直御返書不被成下、往々御取扱向キ御手薄ニ相成候ては、銘々旦那家格も薄く相成候様ニ被存、歎ケ敷被奉存候、何とそ御取扱向先例之通ニ被成下候様被仕度、御願被申上候、勿論前々頂戴之御直御返書数通所持被罷在候、右等之所御含被下、可然様御取繕御願被仰上可被下候、此段御手前様方迄自私共奉願候様、銘々旦那被申付如斯御座候、何分御取成之程宜奉願候、恐惶謹言

閏正月　　坪内嘉兵衛内
山本祐左衛門
坪内金三郎内
松原牧右衛門
坪内太郎兵衛内
加藤辰右衛門

安池治太夫様
永田図書様
杉井伝右衛門様
片岡左富様

新貝七之丞様
安池新八郎様

覚

一金三百弐拾弐両弐分也

右は今般中泉　御役所拝借金返納御仕法御立被下候ニ付、則御出金被成下、慥ニ落手仕候、然上は早速中泉御役所ヘ通飛を以返上納仕候、為念請取証文依て如件

天保十二辛子年閏正月五日　　山本祐左衛門印

小島市兵衛殿

表書之通相違無之候、以上

坪内嘉兵衛○御印

坪内太郎兵衛様
坪内金三郎様　河田喜平太
坪内嘉兵衛様

請取覚左ニ

一今般私妹并召仕上下二人信州松本ヘ指遣候ニ付、福島　御関所罷通候、戸田采女正殿手判女手形壱通御渡被成下、落手仕候、然上は慥成家来ニ為致守護、福島　御関所ヘ差出、勿論右女手形之儀入念大切取扱候様可仕候様可仕候、為後証依て如件

天保十二辛丑閏正月十一日　　坪内嘉兵衛印（花押）

坪　左　京殿

申渡覚

其方儀旧冬御払山四番口落札被仰付候処、御払山外え切込候段、大道之心得方不埒之至候、依之御咎手錠被仰付候もの也

正月廿二日
御役所

七左衛門○
治右衛門○

乍恐差上申一札之事

一旧冬御林御払被仰出候ニ付、乍恐私共入札仕候処、四番口落札被　仰付、難有仕合ニ奉存候、此節柚相頼置候処、御払境外え切込候段奉恐入候、右は南道境御払被　仰出候儀は兼て奉承知、柚役之者共え申付置候処、折節昨日私儀他行仕候間、切場所替候儀は実以不奉存、今朝見廻り奉驚候、柚之者え申附方不行届候段奉恐入、依之此上如何体被仰付候共一言之申方無御座候、依之一札差上候、以上

丑正月廿二日　　七左衛門○
親類　治右衛門

御地頭所
御役所

前書之通り相違無御座候ニ付奥印仕候、以上

西組組頭　庄屋代　卯兵衛○
東組組頭　庄屋代　兵四郎○

女上下弐人、内鉄漿附小女壱人、乗物壱挺、従美濃国各務郡前渡村、信濃国筑摩郡松本松平丹波守殿家来野々山四郎左衛門方え差越被申候、福島御関所無相違可被通候、右は坪内左京殿内分坪内嘉兵衛殿妹并召仕女之由、左京殿断付て如斯候也

天保十二辛丑年正月十四日　　戸田采女正印

福島御関所

人改中

一右相済候ニ付、御両家様ヘ御酒被進候、御使者閏正月廿八日使者を以被　仰入候

同廿日金三郎様・太郎兵衛様御出、御奥ニて御酒出ス、三井様より当日御祝儀として御酒弐升、尤婚御祝儀は追て被進候由口上有之

一平島様より目録　御祝儀金弐百疋　小島市兵衛ヘ御取持罷出候御祝儀として杉原五状、尤先達半ゑり献候

一廿一日岐阜井上紀（ママ）右衛門・北方柳野祐左衛門御祝儀伺候、御家内様御逢、御奥ニてかし茶出候、夫より表ニて御酒出ス、夜八ツ時迄、夫より泊り

献上物井上紀右衛門かつふし一箱　松魚

柳野より大鯛壱枚・十入枝柿箱一ツ、廿二日朝引取、献立三井・

平島之節同様ニいたし

吸物（するめ）　硯蓋（長角ふひ　長いもゆへし　くるみし）

右ニて相済候儀は、時分時ニ相成候ニ付、御飯差上りと申上ル

御膳分

汁（白ミ味）　な（とうふ）　飯　香物（うり）　坪（きんなん　人しん　人したけ　切角ふ　切身）

すあへ（切身　大こん　赤のり　青ミしたけ）

引て

平（長いも　したけ　切身）　猪口（うと　あへ）　焼物　御菓子（枝柿三ツ　ひかし）　茶

右相済

吸物（ほら）　丼（はへ）

硯蓋（したけ　長いも　わさびねり　かまぼこ　れんこん）　小さら（ちくわ　ふ　人しあへ　すり）　鉢肴（ほら焼）

平□丼

丼（ふき）　につけ（ひらめ　こんにや）　さし身（まくろ　うと　をこ）

吸物（白うを）　丼　丼　吸物（あられ　ゆ）

二日共同様見計料理

閏正月廿五日・同廿七日附両度之貴札致披見候、然は知行所百姓一件、追々御糺明之上落着被仰渡候ニ付、委細被仰越候之趣、別紙御認被御差越之書類致落手候、段々御厚配相懸御手数之事共、甚痛入候次第ニ御座候、去五日市右衛門初三苗惣代着届申出候、同七日竹右衛門帰着届申出候、先々落着相成致安心候処、於戸塚宿竹右衛門足痛相送レ候処、奥右衛門不相見様相成候ニ付、驚入相尋候え共、同道も無之壱人之事故致方無之、定て帰村致し候儀と相心得致帰着候処、奥右衛門儀帰着不致、不都東恐入候段、早々親類共尋出、為相慎候様申出候間、暫ク用捨申付候、右始末竹右衛門等閑之廉も有之、不都東之至、依之厳敷可申付之所、御中除故表立候儀は不申付、叱り慎申付、則別紙親類より書付壱通取置候間、写致封入候、且又竹右衛門儀惣代兼御裁許請印致帰村候処、小前之者一統不承伏之趣申立候旨、一応之儀小前え申聞も無之、竹右衛門御請致候は壱人之了簡と申ものニて、小前一統不承伏之旨申張候ニ付、竹右衛門難渋之旨申出、役儀も難相勤旨ニて退役願申出候え共、取上候筋ニ無之と存差戻、精々御裁許之御趣意小前之者え申諭候様申付候え共、御中陰之事ゆへ基儘差置、不寄何事願筋等ハ御中陰中決て不相成旨、厳敷申付置候、猶又落着一件之書類は熟覧之上、跡より御答ニおよび可申候、段々御心配相懸痛入申候、此段 左京様へ可然御取成被仰上可被下候、右得御意度如此御座候、以上

二月十一日　　坪内嘉兵衛

河田喜平太様

河田政右衛門様

乍恐以書付奉申上候

百姓惣代之内

奥右衛門

右之者江戸表御本家様より召連帰村被　仰付、帰村之上ハ追込被仰付候旨被仰渡候間、別て心附召連候処、東海道筋戸塚宿ニて私義少々足痛ニて道手間取申候ニ付、奥右衛門暫ク先え罷越候内見失ひ申候間、近辺穿鑿仕候所相知レ不申、猶又道筋心附相尋候え共見当り不申、無拠私壱人当六日帰村仕候、猶又奥右衛門帰村次第、早速御届可申上候、此段乍恐書付を以御届ケ奉申上候、以上

天保十二年丑二月十日　　庄屋　竹右衛門〇

御地頭所

御役所

右写弐通河田手紙へ同封、席平陣屋へ持参也

坪内太郎兵衛様　河田喜平太

坪内金三郎様　河田政右衛門

坪内嘉兵衛様

一七兵衛より願村送り一件左ニ

差送申一札事

一各務郡前渡村坪内嘉兵衛家来永井七兵衛娘、当丑ノ十八歳、此度其御村方市左衛門方え縁付遣シ申候、当所慥成者ニて、公儀御法度之宗門之者ニては無之候、勿論諸親類縁者之内類族掛り候者壱人も無之、宗旨は代々禅宗ニて尾州丹羽郡北山名村竜泉寺旦那ニ紛無之、則寺送り取添遣申候間、以後其御村方御帳面ニ御戴（載）可被下候、若シ脇より御法度之宗門之由申者有之候ハヽ、何方迄も罷出急度申披、其元え少も御苦労掛申間敷候、為其送り手形連印仍て如件

天保十二辛丑年二月　　各務郡前渡村北島　永井七兵衛〇

同断親類惣代　永井六三郎〇

加茂郡勝山　庄屋　久七殿

前書之通相違無之ニ付致奥印候、以上

坪内嘉兵衛家来

山本祐左衛門〇印

天保十二子年大垣御出入一件、三井表より来状

御手紙致啓上、春暖相催候え共弥御安全被成御勤行珍重奉存候、然は此間ハ少林寺へ御代香被成御勤、御苦労ニ奉存候、其節録見へ御相談被　仰聞候、大垣表御出入之儀相済候ニ付御礼之儀、旦那存寄ニハ、此節柄ニ御座候間、先々自拙者戸田四郎兵衛殿御家来中迄、御礼之儀及延引候間御含可然と申、断申遣し置、追て御中陰相済候上ニて、御礼被仰上候方可然哉被存候ニ付、

別紙下書之振り ニ 取調差上候間、乍御世話大垣表へ御中間使 ニ
て御差上可被下候、差出候所ハ大垣本町本陣 ニ て上田九右衛門
方へ持参仕候様被仰聞被遣取計、勿論遠路之義 ニ 候えは、本陣
請取貰ひ、帰り候様被仰付可然奉存候、尤別紙下書端書之趣 ニ
御座候間差置可被存候、宜御座候、右迄得御意度草々如此御座
候、以上

如月廿日　　加藤辰右衛門

山本祐左衛門（ママ）

尚々本文之趣宜御承知可（被脱カ）下候、且又月日之儀明廿一日 ニ 相認メ
置候間、左様御承知御取計可被下候

大垣表へ之下書、三井加藤より手紙左 ニ 申参り候
未得御意候え共一筆致啓上候、暖気之節御座候え共弥御堅固被
成御勤珍重奉存候、然は主人坪内太郎兵衛同家同苗嘉兵衛、先
代迄ハ其　御城守様え御出入被仕候処、当代之義は中絶 ニ 相成
残念 ニ 被存、当春主人方より御主人様え、同苗嘉兵衛義先代之
通り御出入仕り候様被相願候処、早速御聞済致下置候段、御書
翰を以先便被仰下候趣、被致承知大慶被存候、就ては御礼嘉兵
衛は勿論旦那より、不取敢御礼可被申上筈 ニ 御座候え共、　公
儀御中陰 ニ 相成慎ミ中 ニ 付、被及延引候、右御中陰相済候上、
御礼可被申上存候、此段御主人様え可然被仰上可被下候、依て
延引 ニ 相成御断、御手前様迄宜得御意旨被申付、如此御座候、
何分御取成被仰上可被下候、奉頼候、恐惶謹言

坪内太郎兵衛内
加藤辰右衛門

二月廿一日

戸田四郎兵衛様
御家来中様

猶以、本文被仰下候御書翰少々遅着仕、夫 ニ 差支之筋も有之、
前文御断申上候義遅り候段、可然様御含被取成可被下候、且
遠路之儀 ニ 付、分て御報被仰下候 ニ 不及奉存候間、御成合 ニ
被成可下候、以上

一　勘六四男中茜部村養子遣し候 ニ 付送り之事
　　差送り申一札事

一　各務郡前渡村坪内嘉兵衛家来長瀬勘六倅徳三郎、当丑十三歳、
此度其御村方伝治郎方え養子 ニ 差遣し申候、当所慥成者 ニ て、
公儀御法度之宗門之者 ニ て ハ 無之候、勿論諸親類縁者之内類族
掛候者壱人も無之、宗旨代々日蓮宗 ニ て、厚見郡岐阜矢島町宝
積院旦那 ニ 紛無之、則寺送り取添遣申上候間、以後其御村方御
帳面 ニ 御戸（籍）可被下候、若シ脇より御法度之宗門之由申者有之候
ハ、、何方迄も罷出急度申披、其元え少も御苦労掛申間敷候、
為其送り手形連印仍て如件

天保十二（丑）年三月

各務郡前渡

坪内嘉兵衛家来
永瀬勘六

親類
永瀬席平

水井肥前守様御領分
厚見郡中茜部村
庄屋
服部左兵衛殿

前書之通相違無之候 ニ 付致奥印候、以上

坪内嘉兵衛家来
山本祐左衛門〇印

一　去亥年より平島様御普請御本屋立替 ニ 付、当春より御普請見舞
被進之処、　大御所様薨御付御延引相成居候処、　此節御棟上御
祝も有之候趣承知いたし候間、御普請御見舞 并 御棟上御祝儀と
して被進候品左 ニ
白飯取子黒豆入壱斗五升、右 ニ
大重 ニ 小串三重、壱重ます相附
右御棟上御祝儀被進候
御普請御見舞、御酒三升ぬり樽入、鰯め添
御使者席平遣し、釣台人足弐人
小島市兵衛方 ニ て行（ほかい）器壱荷借用
小串三重

御直書添

御使者之者へ小菊壱束代 ニ て壱朱、持人弐人え弐百文ツ、、御
引御祝儀出候
一　四月十九日御上蔦様御疱瘡 ニ 付、赤飯所々遣し候事、尤御見舞
献候分計り、平島様・松原牧右衛門・芦庵・春貞・勘六・妙智
庵・久昌寺・席平・ミちよ・るん・七兵衛・さと・竹右衛門・
源左衛門・増右衛門・半左衛門・祐左衛門・少林寺
右献上物差上
一　孫市・加納安池様・三井様・山田長十郎・伊藤忠右衛門・名古
屋二軒
右之通り
餅米壱斗七升・子米三升・さゝき壱升弐合ツ、
一　筆致啓上候、薄暑之節御座候え共上々様被為揃益御機嫌克被為
成御座、目出度思召候、然は於金殿（平島へハ様）今般被致疱瘡候 ニ
付、酒湯内祝として赤飯壱重・鰯添被致進上候間、可然御披露
可被下候、右之段御手前様迄従拙者宜敷得貴意候様被申附、如
此御座候、恐惶謹言

四月十九日　　山本祐左衛門
　　就宣（花押）

加藤辰右衛門様

松原牧右衛門様
安池様へハ御用人衆中
小島市兵衛其外切封ニて手紙一通り

当時倹約ニ付召寄之者春貞計・孫市

一 笠松御役所御触之事

一 此節盗賊徘徊いたし、農家又は寺院え押込強盗いたし、村々及難儀候趣粗相聞候、右体強盗いたし候ものを其分ニ見逸し置候ては、弥超過可致儀ニ候間、御料・私領村々申合、其最寄限拾ケ村又は拾五ケ村、弐拾ケ村程宛も組合極メ、村方人別ニ無之胡乱なるもの止宿逗留等為致候ハヽ、村限り相糺、弥怪敷体ニ候ハヽ押へ置、可申出候、且又盗賊共は品ニ寄、白昼は山林抔え身を隠し、夜中至り市中ㅐ居村え罷遣(出カ)強盗いたし候儀も有之ものニ付、村々申合心附、山林等狩出し可申候、且御料・私領組合相立候上は、小給所ニて捕へ候共、組合之内御料所村方より自分役所え早速可申出候、刃物を抜つれ押込手向ひ抔いたし、盗賊ニ相決し候類は、たとひ相伏(打カ)せ又は打殺し候ても不苦候間、村々心強ニ相心得、何分手強ニ取計可申候、万一手荒之儀有之候者(共カ)村々難儀ニハ不相懸、自分引請、上向えは其旨可申上、御申ニ候、但御料所之儀は自分ㅐ飯塚伊兵衛・多羅尾四郎次郎・戸田采女正殿御預り所と四分ニ相分有之候えは、笠松ㅐ大垣之儀は最寄ニ付、何れ此方え可申出候、其上ニて取計方之儀可差図、将又尾張殿御領分村々又は諸家領分ニて召捕候ハヽ、三領之御役所え可申出候、尤此方役所えも組合御料所村方より相届可申候、右之趣は自分同役、其外御預所役人・尾張殿御家来、其外領主・地頭家来えも懸合、評議之上相触可申事ニ候え共、差掛候儀、延置候ては村々難儀之筋と其所を相察、向々不及懸合、自分一存を以申達候、尤御料・私領村々可認遣儀候えは(共カ)、取調候ニは手数相懸り候間、村名は不認候、申合組合村々相極、惣代を以自分役所え早々書附可差出候、此廻状御料・私領村々不洩様廻達、留村より追て可相返もの也

未六月十四日　鈴門三

右之通寛政十一未年六月中、鈴木門三郎相触候処、尚亦此節押込盗賊共徘徊いたし村々及難儀候趣相聞、不届之事ニ候条、都て門三郎触置候通相心得、厳重ニ取締方申合可取計候、此廻状御料・私領・寺社領村々不洩様相触(触脱カ)早々順達、従留村可相返もの也

丑三月廿三日　柴田善之丞判

右之御請書左ニ相認メ候趣

村役共より達出候

坪内嘉兵衛知行所　各務郡前渡村
坪内太郎兵衛知行所　各務郡三井村
組合村方覚
若宮地村　成光村
中野村　伏屋村
三宅村　芋島村
中島村　平島村
野中村　三井村

坪内太郎兵衛知行所　各務郡上戸村
上戸村　前渡村
〆拾弐ケ村

右之通、笠松御届ケ之儀ハ若宮地庄屋政右衛門惣代として相届ケ申候

一 若殿様御疱瘡ニ付御見舞献上物覚

御手遊　献上山田長十郎　鷲見善吾　鷲見唯助

ひわ

御菓子袋　常貞寺
塩せんへい(大袋さる絵)　三井様
御帯地　矢島様
大黒天手遊　久昌寺
れんこん

菓子袋　妙知庵
藤袴名酒　るん
御酒弐升　松原牧右衛門
江戸本軽焼菓子　岡崎芦庵
とうなつ　安池様

塩せんへい(三十二枚)　金子作右衛門
同断　鈴木藤右衛門
同断　長瀬席平
同断(ひわ少添)　長瀬竹右衛門
同断　長瀬久米五郎
同断　永井七兵衛
菓子袋　村瀬半左衛門
同断　後藤万蔵
御菓子　さと
養老酒　山本祐左衛門
春貞
塩せんへい
御菓子箭

惣〆三拾九軒
餅米三斗三升
子米三升
小豆六升六合
〆四斗弐升六合

御菓子　山東鉞治郎
御酒弐升　庄屋組頭(両組五人)
壱升　御出入市岳衛門
とうなつ　山東くよ
御菓子　ミちよ
同断　くの

右之通り、銘々赤飯壱重ツヽ被下、地所之分鯛三枚ツヽ、添、塩包赤紙

御疱瘡御柵当村天王宮へ送り、尤御神坪共

御湯　白水酒少入　文せん三文入

右湯祐左衛門前三ツ辻捨候事也

九月廿八日被仰渡候儀、今般金子作右衛門、百姓五左衛門鍬商人より売請候之処、追々先々吟味致候え共相訳り不申ニ付、弥々一統盗候様風分も有之ニ付、難捨置ニ付、今般同人壱人永之御暇被仰付候、申渡書左ニ

申渡覚　金子作右衛門え

其方儀、当春農具尾州宮田村之商人より買請候処、当村五左衛門鍬之由ニ付、其方儀先村え罷越詮儀致候処、売人不相知ニ附て八、一統風聞不宜相聞へ候、全体常々心得方不宜ニ付、右様不束之儀出来、不相済事ニ候、依之家財居屋敷御引上、家内不

残引払、御暇可被　仰付之処、格別之御慈悲を以、其方壱人御暇被　仰付候、附は御屋敷御家風等一切他言致間敷候、思召も有之候ニ付、倅并家内之者共鈴木藤右衛門え御預ケ被　仰付候、此段難有御請可奉申上候もの他

天保十二辛丑九月廿八日　役所

前書被　仰渡候御ケ条之趣、一々奉承知、恐入候御儀奉存候

右御請一札奉差上候、以上

作右衛門印

右之通り、金子作右衛門儀風分不宜ニ付、永之御暇被　仰付候処、思召有之、倅長治郎并家内八人共御預ケ被　仰付、奉畏候、以上

丑九月

鈴木藤右衛門印

御役所
御役人衆中

（十月六日、河田政右衛門宛坪内嘉兵衛書状）

又答左ニ

貴答致拝見候、然は太郎兵衛未不快ニ付同道難出来候間、拙者壱人可罷出之処、御陣屋御取扱先例御崩ニ付、両家不参之折柄、難罷出旨得貴意候処、右様少事ニ抱り御達之儀は、無役之拙者共身分ニてハ勤之筋ニ相当り候間、早々可罷出旨、其外之儀は御面談悉得貴意候様、其品ニより御引直し可有之段、致承知候え共、何分両家不参之折柄難罷出候間、此段御承知可被下候、且年賀其外御陣屋え罷出候儀、此方より相崩シ候儀ニ無之、御陣屋ニて御崩ニ相成候故、当時見合罷在候、此段御勘考可被下候、右得貴意度如此御座候、以上

十月七日

別紙を以得貴意候、然は時日貴答御端書ニ被仰下候御陣屋え罷越候儀、当年ニて御座候哉、御関所手形御渡之節は罷越有之処、今般江戸表より御達を御心得御出役之儀ニ付、兎も角も貴様方え抱り無之、却て　左京様え対し本末之趣意勘考候様被仰下、致承知候、右は当正月十一日大塚茂市郎殿・河田唯右衛門殿より紙面を以、　左京様より被仰付越候ニ付、御達之儀御座候間、十三日御陣屋え罷出候様来紙ニ付、（下略）

一十月十八日昼少前新加納陣屋より使来、左ニ

快晴ニは御座候え共寒冷相増候処、御機嫌克いらせられ奉恐悦候、しかれは今日平島表へ私儀罷越候ニ付、殊ニ寄候へハ引取之節参殿可仕哉とも奉存候、しかし御待被下候儀は御無用可被下候、其様子次第御座候ま、右此段御断申上置候、差付罷出候も如何と奉存、先此段御案内となしに申上置候、以上

十月十七日

前渡様　河田

貴答不及差上置

右之通申越候ニ付、請取書もなしに状箱計使へ相返し申候て、夫々用意致し待請罷在候処、暮六ツ過道案内先払ていの者はつひ着用罷越、此者心得違ニて申候哉、無程河田政右衛門御出勤之旨申来り候ニ付、開門致し御玄かんへ席平差出置候処、無程政右衛門罷越、席平下座敷迄罷出案内、使者之間へ通ス、茶多葉粉盆出し、祐左衛門罷出一通り挨拶、政右衛門着用あさきむく黒ちりめん紋付肩絹也、祐左衛門肩絹ニて罷出、今日ハ左京様御名代哉御自分ニて御出哉と相尋候処、政申ニハ、今日ハ平島へ罷出、嘉兵衛様へ御内談申上候筋有之候ニ付罷出候、宜敷申候様との事也、祐可申付旨ニて引取、又祐罷出四方山ノ咄、夫より六畳之間ニて御逢、一順挨拶済、御三所御一同殿今日罷出申候也、左京様より被仰含之儀ハ、何か近年本末之間柄不宜ニ付歎ケ敷思召、和順ニ相成候様、尤御朱印も御一紙之儀、当時五千五百石之内へ御むすび込ニ相成候えは、各様ハ御無役、左京様御壱人御勤候事、江戸表小普請之御方様ニても、夫々御頭え御機嫌伺も有之候事、各様ハ其儀も無之、御役筋ニ金子等入用と申事も無之、御本家御壱人御勤、其御代リニ御勤と申事も出来不申、左スレハ御出金物等も可有御座理道、全体権左衛門様・帯刀様とも違申候事、此御両家ハ公儀御役も御勤之儀ニ付、左京様より御自分御頼等も出来不申、御三人様御事ハ別て御内輪之御方様之事、夫ハ彼是有テハ又々品ニ寄、享保年中之様な事出来候てハ不宜、夫婦けんかヲ他へ持出し候様な物、篤と御勘弁可有御座候、兎角御陣(睦)間敷、折々新加納陣屋などへも御見廻り、御納戸方之御取締りも可有之筋、右之趣キ被仰含、尤太郎兵衛さんへも御談申候処、両家へ申談候と御申被成候、金三郎さんへも申談シ候、是ハ御若年と申てハ　公辺へハ相済不申候え共、御内輪ニて考候えハ御若年ニハ相違無之、御壱人御取極申ても御迷惑被成候計ニて、模通りニ相成不申ニ付、しいて御談も不申上、各様へ被仰含之儀、御家来へ申談候と申事ハ出来不申候間、牧右衛門へ咄シニ申聞候、牧右衛門申ニハ、勘定方之儀ハ引請訳立致し候由申聞候、旦那向之儀ハ年若ニ付、両家へ任セ被置候旨申聞候、是も尤ニ御座候、右之通御壱人御取極候ても模通り不相成儀ニ付、しいてハ不申上候、三井ニても同様之儀ニ御座候間、何れニも御三人御揃御陣屋へ御出御座候様可然、乍去左京殿手前ニてハ、各様御出無之候とて差支之儀無御座、御隠居・御家督・其外御差支ニも相成候儀、尤陣屋御取扱相違之簾(家)も御座候由ニ候え共、右は江戸ハ江戸、御陣屋ハ御馳走ニ片戸非開候と申様ナ簾も御座候、其御馳走無之とて御出可有御座儀、御延引ハ筋違ニ候間、御出之上相違之簾被仰立可然と左京様思召候間、御すゝめ不申候え共、御両家御談、早々一先御陣屋へ御出可然と申ニ付、御答ニハ、何れ両家へ申談シ御答可有之旨御答、其外色々御和談之儀申候て、自然と高役金等御出金有之候ニ仕懸申候様子、一順済河田申ニハ、此節御家来江戸表へ御差出し有之候哉と申ニ付、御答、誰も差

出し不申候、河政、左様なれハ百姓共ニても出願候哉、安部伊勢守様より左京様へ御咄有之候由ニ付、此度罷出候ニ付御尋申見候様被仰付候、乍去簾立御尋申候儀ニてハ無之候、御手前様御存無之候ハヽ、宜敷と申、御答、百姓ハ出願ニ相違も無之被存候、先達て御本家ニて被仰渡候御戴(敕)許承伏不仕ニ付、追々利解申付候処、江戸表へ出願致候間、惣代之者否や申越候迄猶予と申口書差出候上ハ、全出願候ニ相違も無之と御申、百姓共家来と申出願も致間敷、又々心当りも有之候間、篤と取調へ御咄可申と申候えハ、河政、何ニも別ニ御尋申候儀ニ無之と申候間、御答、山田長十郎江戸表より引取之上、差控へ申付、出願病気ニ付湯治致度申ニ付、聞済遣し申候、万一湯治先より出府致し申候哉難計旨御答、夜中ニは候え共、久々御目懸り不申ニ付、奥へ御通り被成候様御申被遊候へハ、河政、左様御座れハ御談ハ是切と申、夫より暫ク過、祐左衛門案内奥へ通り、七年前政右衛門罷越候節と違、随分叮嚀ニ申候、中ノ間敷居越ニて挨拶致し、色々御咄申上、奥様御目通り也、御酒出シ緩々御咄申上、殿様も御出席ニて四方山御咄也、政申ニハ、私共ハ御主人家と相心得居候え共、陣屋之者心得違致居候段申、何か御談合済之うへ、御三所御承知か如何難計候え共、私御三所御供致し、七千石不残順見致度心組ニ御座候、何か御談済重て罷出候節ハ、御門之かさりなしニくゝりより御内玄かんへ白衣ニて罷出候と申、御はなしも申上、御酒余程呑申候て、夜八ツ過頃帰り申候、茶つけ供迄出申候、帰り之節御表迄御送り之御様子之所、政申ニハ、奥向之儀ニ付御表之儀ハ御家来ニ御任セ、是ニて御暇乞(ママ)申上候とたつて申上候ニ付、奥御次迄御出也、祐左衛門下敷座迄送り申候事

一十八日御雑(殺カ)生懸ケニて三井様へ御出、祐左衛門も御供、席平御草り取、三井様ニて太郎兵衛様・捨太郎様御逢有之、御咄合御座候処、政右衛門申上候儀、先荒増御同様之振合御座候、三井様ニてハ御名代と申簾(廉)ニてけんい申候様子ニ御座候、御陣屋へ御出無有之儀ニ付、祐左衛門・録見同道ニて平島牧右衛門へ内談、政右衛門へ之御手紙案紙録見へ被仰付出来、則明日被遣候御内談ニて御帰り、平島表内談之訳ハ末ニ記、且又御役助金・高役金御出金かたく御断之御居り、三井捨太郎様御居り宜敷旨ニて色々御咄御座候て、何所迄も御出金有之候てハ、寺社ニて被仰渡之簾相消候ニ付、御断之御決心御内談御治定ニて、則三井様ニて御酒御茶づけ出、六ツ過御帰り也、平島牧右衛門内談之次第左ニ、加藤録見殿同道ニて祐左衛門罷出候、道ニて内談候えは、いつれ松原氏宅ニ相違無之ニ付、直ニ宅へ罷越候可然相談ニて罷出候処、折悪敷いつも宅之人ニ候え共、此節嫡子病之事ニ候間、宅と治定だけ表裏ニや、夫より平島御屋敷罷越候処、早速東松原氏面会、先昨夕六ツ時過当方窺候処、至て内わニ口上申候次第あら〳〵咄申候、然処今日御内談当方旦那様三井表迄御出張、拙者ニも罷出候様被仰付候ニ付、私共ニ御手前方と相談いたし候様被申附候、差当り御相談之儀御両家様え当方より内談、早々御治定之上、御陣屋へ御三所様御揃御出御座候様と

申ニ付、旦那方答、御承知致候、急々三井・平島えも相談、答可申旨被仰遣候、今度ハ右之答方可然哉相談候処、松原もいつれ御陣屋へ御出之儀、先年当方金三郎様始て年始御出之節ニ、隠居寿山様、御道々之処先前之通りと御取扱相違ニ付、右は如何哉御尋之処、今尾茂左衛門答ニ、江戸表河田喜平太より左ニ取計候様と申候ニ付、左様御取計申上候、答候ニ付、寿山様、左候ハヽ、右之書附差出候様被仰付候、則右書付御渡し申候ニ付、夫より御両所様へ御相談有之候ハヽ、御陣屋へ御出之儀御延引相成居候訳ニ付、いつれ当方より拝発り候儀候間、今一応当方より松原私入、是も寿山殿御存命ニ候ハヽ、御取計ニ候え共、死去ニ被相成候儀ニ候間、御名代として右茂左衛門より差出候書付持参、其上先キ之通御取扱ニ相成候ハヽ、御出ニも可仕候え共、先々夫迄ニは当方金三郎様一応御出之上ニて、河政先キ御取扱ニ相成候ニ付、両家同道いたし候と被仰候上ニて、先々せふミ平島ケ道筋、夫より御両家様くい取、今度御三方様御揃御出と申儀可然、夫より政右衛門申候大割之儀は、平島表ニて取調、木曽川御普請之儀河田取調、又御三所様殿様方之御持御懸合之儀、御役助金ヰ高役金二ケ条は殿様持、其外大割等勘定合之儀三所御家来持、是相訳り候ハヽさのミ大ほねをりと申事ニハ無之様存候、又村方へも御名々様より村役共へ、右大割弁金出スきや出さぬきや書附、御三所村役相談之上、書附差出可申旨申渡候様と申相談、明日当方より新加納河政答方手紙、相談左ニ仕候

以手紙致啓上候、然は拙者より両家え申談じ御陣屋へ罷出候様一昨日御申聞之趣、則両家へ及相談候処、右ハ全体平島表より相発、御陣屋御取扱向相欠ケ候ニ付、御取直シ相成候迄両家共見合候様と有之、差控え罷在候、然上ハ平島より仕来り通御取直しニ相成候間、罷出候ても可然と可及沙汰候間、夫迄見合候様と有之候間、難罷出存候、右得御意度如斯御座候、以上

十月十九日　　坪内嘉兵衛

河田政右衛門様

覚

一御封状　壱通
右之通慥請取申候以上
丑十月十九日　今尾茂左衛門
前渡御使中え

右は昨日平島表へ罷出候節、松原氏より来状、尾州熱田神主秋廻りニ平島御屋敷へ罷出候、右は当方ニて行違之訳ニて、札納之儀延引有之ニ付、御わひ之御候儀手紙持参、序ニ持来ル、左ニ

以手紙致啓上候、寒冷日増相成候え共弥御安全被成御勤、珍重奉存候、然は河田政右衛門殿屋敷え、右取計向ヰ口上之趣荒々申上候

一普請中と申立使者之間へ通し、夫より御書院ニて御逢、御挨拶相済

川政口上、此度左京殿より申含も有之、被差向候委細之義ハ、

一々可申上本意ニ御座候へ共、一通り申上、猶其外ハ御家来牧右衛門へ可申付候間、同人より御承知可被成方可然、御手前様ハ御若年と申、御風邪気ニも被為有候御事ニ付、左様可仕と有之

旦那様御答、拙者儀ハ若年之事、右故此間三井太郎兵衛方へ向ケ頼申遣し置候ハ、此度江戸表河田政右衛門出役之よし承り候、附ては左京様より被仰聞候御口上之趣、何卒書付ニて御請取被下度段頼入置候、此間太郎兵衛へも御出之よし、其節右書付之沙汰ハなかつタかと御尋

川政答、三井表ニてハ左之義何ニも無之との答へ

旦那様再応之御口上、拙者事若年、殊ニ口上ニては閑違も有之事なれハ、尋之儀ニ候一々一々書付ニて御渡し可被下との御口上

川政、御尤ニハ奉存候え共、末ニハ御書付とも可申上候え共、先ツ御和談ニて申上、基上御家来牧右衛門へも可申談候間、御手前様ハ御風邪ニも被為有候御事なれハ、先々御入と有之、

○然らハと御答、御引被成候、其末左ニ

川政、扨牧右衛門殿、大割一条ハ平島より発り候との由、三井ニて承り候、此間も新加納御陣屋ニて御咄申通り、大割ケ条帳之内ニて、是ハ勘定帳へ入るハあしく、是ハ無理、是ハ尤も、是ハ角と被仰聞候えは、抜差ハ何れ共可致との事

牧答へ、成程牧右衛門より申出候、其元と申ハ、隠居寿山殿世ニあられ候節、大割金〳〵と〳〵高計ニて出金と申てハ、旦那年頃ニ相成られ、其上大割と申計ニて巨細書も無之不都合、勿論役筋も相立不申、依之平島村庄屋も立会ニ出候事ならハ、元帳之写し見せ、其上出金と申付られ候ゆへ、会所元方へ頼入候事ニ御座候、殊、其末今以巨細帳も出し不申、夫ゆへ之事と申内へ

川政、御尤ニ相聞候、乍併拙者も国へ参り立入テ見れハ、大割と申ハ何々之事か、是ハ何ニ、是ハどふと申事、今ニ腹ニ入兼候、又木曽川弁金と申も大割之内かと尋ニ御座候

牧、左様ニあらす、木曽川之普請弁金ハ別段之事、夫レ是と咄之内ニ河政

左様ならバいつ迄彼是と申ても片附不申故、木曽川弁金一条ハ政右衛門立入、取調帳急度可致候間、大割一条牧右衛門立入、済か済ぬか境被申聞候、左様なくテハ今日立場かない

牧答、委細承知いたした、乍併立会ニ罷出候庄屋へ申付、会所へ申入、其上分り兼之節ハ御陣屋より御申付被下度、先々夫のミ取調方立会之庄屋へ可申付と申て、跡ハ四方山ノ咄しニて、七ツ半頃ニ引取申候

右荒増申上候、御門ハ開キ置申候、以上

十月十八日

はしり書愚筆落写御さつし

別紙ニて申上候

一 大割ヶ弁金、外ニ夫れ〳〵被仰渡も可有御座ニ付、其御方御知行所庄屋・百姓心得方御尋被置可被下候、少しツ、申方も地理

之高下も有之候ものニ御座候故、思召次第ニ被仰渡可被下候、其上御三所御知行所寄も可為致候

一 旦那様方御内寄可被遊義も、川政 前渡様え御窺之上ニて可然か、御含被置可被下候、以上

右二ケ条添書ニて申上候、以上

十八日

一 今廿一日木曽川出水ニ付、尾州御用材ニ付村々役人廻村いたし候趣、右ニ付案迄左之通り申来候

以切紙致啓上候、然は今般木曽川出水ニ付、尾州御用材押出、川面致散乱候処、留木ヶ隠木等為吟味御役人中廻村有之候段、先振之通懸合御座候間、当方一同御支配下之分も右之趣相触申候、此段御承知可被成候、以上

十月廿日　大塚茂一郎
河田只右衛門

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山本勇左衛門様

十一月十一日夕方新加納陣屋より使、右は河田政右衛門殿より手紙左ニ申来ル

坪内太郎兵衛様
坪内金三郎様　河田政右衛門

坪内嘉兵衛様

別紙御懸合書壱通差上候、右ケ条之趣御答、御三名御下ケ札御申聞可有之、余事之儀御別紙を以御申聞可被成候、以上

十一月十日

御懸合書一通

去月五日左京殿より御達之儀有之候間御陣屋え御越可有之様得御意候処、御不快御差合等之御方も有之旨ニ付、猶又御壱人ニても御越可有之様得御意候え共、近来御陣屋おゐて会釈向之麁略有之由にて、御申合、年始吉凶御入来之廉迄も御差止故、御壱人ニても外両家え響ニ相成ニ付、難罷出旨御申越、右は御同家内々義利合ニてわ御立、本家を軽しめ之御取計方ニ相聞候、此趣意柄承り度候

一 右様聊之儀基として、年始吉凶御越有之仕来り迄も、我儘ニて御差止、其外三人申合故、壱人罷出候ても外両家え響ニ相成抔とハ、全左京殿方を蔑ニ御心得之儀ニて難得其意、右体成行候てハ本末と申、殊ニ各様方儀ハ御先祖之内乱雑有之、当時ハ中々以御直参之御身分ニてハ無之、　御目見以下平人ニて、御銘々御身柄之程をも無御弁、一本立之御旗本之御心得抔ニてハ甚致相違候、御心得方よりして、親鸞聖人拝礼之節、先挟箱等為御持之御不心得も相発し候儀ニて、既享保年中御先祖之御由緒御申立、　御目見御奉公之儀御願之砌、於　公辺御取上更無之、

畢竟当時ハ家来同然之儀ニ候えは、可任惣兵衛申旨処、不謂儀達て相願不埒候、向後右之儀相願間敷、尤惣兵衛申付儀何事ニよらす違背致間敷旨之御書付面をも等閑ニ御心得、対　公辺候ても恐被入候儀ニ可有之、右之御趣意御弁有之候哉、承り度

一前書親鸞聖人拝礼之節、格外之御供立、先例相違ニ付、当役共より其段申立候刻　左京殿より右始末柄御尋之節、右は先例之由、尚政務筋ニ相抱り候旨御答書被差出候え共、其節ニ限り何様之政務筋有之哉、其上新加納村仁兵衛と申もの方へ御立寄、酒食等被成、剰雑人共集居候相撲場抔迄も御越有之候儀ハ、今更御忘心も有之間敷、矢張是亦御政務筋ニ相成候哉、否承度候

一右通之不当之御心得方、其余品々御面談筋有之間、左京殿より此度御呼下し候、然ル処右御請答も否不被差出、今更卑劣之御申掛にて、拙者より江戸表え申立向費度抔と無埒も御申越ニて、日毎ニ御延し、且御面談可及旨再応得御意候折柄、三人共不快有之抔、御在住之御人達とハ乍申、病故致方無之を御見悟、御身分ニ有間敷御取計にも相聞へ、しかし諸人病気と申せハ一通りハ致方も無之候え共、いかにも御身柄丈ケ之御面談御決答可有之筈候、拙者より申立向之儀外ニ異事無之、弥御決答可有之候

右ケ条之趣、具一無余事、事柄相分り候様、御三名下ケ札を以御答御申聞可有之候、以上

十一月十一日

坪内太郎兵衛殿　　河田政右衛門
坪内金三郎殿
坪内嘉兵衛殿

一十一月十日新加納御陣屋へ　御小普請金六両御差出シ、則河田唯右衛門より請取来ル、御使席平

一天保十二丑年十一月三日夜ニ入、三井加藤より使右は今般十月八日木曽川出水ニ付、飛州御用材さんらんいたし候ニ付、御陣(屋脱カ)より手紙左ニ

以手紙致啓上候、向寒被成候え共弥御安全被成御座、珍重之御儀奉存候、然は即刻御談事可申義出来仕候間、早々罷出可被成旨、得御意度如此御座候、以上

十一月十三日　　今尾茂左衛門
加藤辰右衛門様
山本祐左衛門様

猶々、夜分相成候てハ別て御苦労ニハ候え共、無拠義ニ付候間、早々御出可被成候、以上

右ニ付祐左衛門即刻罷出候、三井表ニて加藤録見殿同々いたし新加納御陣屋罷出候、然所茂左衛門殿被罷出候処被申候ニハ、先月十八日木曽川出水ニ付、飛州御用材流失いたし候ニ付、猶又先達も当方より触置候え共、今日も又々御知行所一同ニ相触呼出置候え共、此上不都合相成候てハ不宜候ニ付、念入御村方

へ被仰渡候様と申事御座候、不都合有之候ハ、其咎より、公辺へ御呼下シニも相成候も難計候間、此段御達申候と申候、右ニて加藤へ立より内談候処、先前より屋敷内捜候儀有之ニ付断申候哉、尤明朝三井表祐左衛門罷出、内談ニ罷出候筈引合、其節殿様思召窺罷出候筈相談

十四日又々三井表より使、尤取早候ニ付手紙無之候、只今新加納御陣屋より河田蛤三太・今尾茂左衛門両人流木捜として罷出候、追々駈合候処、書附を以断相立候間、此段承知候様と申来候、答ニ、猶又右当方へ罷越候えは、御同様急度相答申候と申遣し、左候内、今尾茂左衛門殿罷出候、申聞候ニハ、昨夜御達申上置候流材之儀ニ付、御屋敷内一見仕度候様重役申聞候、御案内御座候様いたし度存候と申候ニ付、当方之儀先例無之ニ付、屋敷内御見分之儀御断申候、追々駈合候処、立て一見いたし度様子候間、又候御陣屋より御心附や又は　公辺御役所之儀哉、河田政右衛門殿御心附哉、相尋候処、　公辺之様子とも相見へ不申、早て(押カ)相尋候ハ、江戸役人河田政右衛門心得ニて申聞候、答、左候ハ、いつ迄御談事申候ても同様之儀ニも有之候間、御手前様御出役之角御認メ被下候、左候ハ、当方より先例無之訳をも相認メ差上申候、右ニ付答書之儀はいつれ江戸役へ申聞、其上ニてと申候間、先方答書延引いたし置候、当方左ニ相認メ渡し申候

口上覚

一今般木曽川出水飛州御用材流失ニ付、厳敷御吟味ニ付、河田政右衛門殿御心得ニて御陣屋より御出役有之、当屋敷内御捜被成度段、依之御案内可致旨被仰聞致承知候、右は先前より流材之儀は度々有之、知行所家捜等有之候節も、何方より御出役有之候ても、屋敷内之儀は先例無之候間、御案内之儀御断申候、以上

十一月十四日　　山本祐左衛門
今尾茂左衛門殿

右書附相渡候ハ、引取申候

席平儀三井表へ様子問合遣し候処、猶又再応河田蛤三太御駈合罷越候、右は先刻御談事申候流材之儀ニ付、再応御懸合候て、御捜申候様申来候処、加藤答、いつ(れ脱カ)ニも先例無之ニ付断と申答候、乍併何方より御沙汰ニ候哉、承り度と申候ハ、、江戸役河田政右衛門よりと申候、又笠松飛州表より之儀候ハ、、当方より先方へ御駈合及被申候答由、右ニ付引取、三井答ハ左ニ

又、今尾茂左衛門祐左衛門宅へ罷出候、面会いたし度旨申候、夫より申談候ニハ、先刻御談事申候儀ニ付、御願申度儀有之候と申候、右先刻之書付之内、河田政右衛門と申儀御止被下候ケ、又候末之御案内と申儀御止被下候ケ之処、御文言相認メ替被成下候儀相成不申哉儀、頼有之候ニ付、右文言旦那へ一見之儀ニ候ハ、一度申聞取計可申と申答、夫より屋敷罷出候、御内談

いたし候処、今一応一度御談申候儀も候間、右ニて御請取可被下候様申候ハ、右ニて不承知申候ハヽ、認替もいたし遣しても宜敷哉の御勘考有之候へ共、先一たん右請取立帰り候儀ニ候ハヽ、一通右ニて相済候様と申候処、いたし方も無之候間、右ニ請取御陣屋へ帰り申候

今尾曰、小くびかたけて何やら気済もいたさぬ様子ニて居候、勘考いたし、当御知行所之内、近頃芝居と申儀御聞済哉相尋候ニ付、答へハ、先月上向ケ両三日取立芝井願候ニ付聞済遣し候、右様之儀一ケ年之内一度ツヽハ願候、是も百姓共今年御年貢ニ差つまり候者出来候ハヽ、村中若イ者取持ニて、はな芝居いたし候、噺やら又はにかミやら申候、御地頭所より御見廻り有之事哉、御紋附灯挑（提灯）右場所有之候様見請候と申候、答ニ、右様取立之儀ニ候間、先々より見廻りいたし候事無之と答候ハヽ、うんと申答ニて相済

一 今般飛州御用材流失ニ付、廻村川辺役所より有之、其後新加納役所より今尾茂左衛門廻村いたし、当屋敷内見分と被申候ニ付、此以後川辺御役所より御申入有之候様、御三所様より申入候使者御差出ニ付、村方へ夫々書附取置、尤新加納表差出申候書付写取置

乍恐以書附御答奉申上候

今般御用材流失ニ付厳敷被仰付奉畏、村内一統へ申、村役共精々吟味仕候処、昨日奉書上置候より外ニ壱数も無御座候間、此段乍恐連印仕書付奉差上候、以上

天保（ママ）十一丑十一月日　前渡村
百姓惣代　庄兵衛○
組頭　兵四郎○
庄屋　市右衛門○
同断　竹右衛門○

右之趣新加納御陣屋えも御答奉申上候、仍之御地頭所え奉差上候、以上

御地頭所
御役人中様
差上申書付事

一 去月十八日夜出水ニ付飛州御用材流失ニ付、飛州御役人様御出張御吟味相済候上、猶御地頭所より御穿鑿御座候処、村内へ隠木等一切無御座候、然ル上心得違之儀仕間敷、もシ他村より捨木等仕候ハヽ、早速御注進可申上旨被仰渡、承知奉畏候、依之御請書如此御座候、以上

天保十一（ママ）丑年十一月日　御知行所前渡村
百姓代　庄兵衛○
組頭　兵四郎○
同断　新左衛門○
庄屋　市右衛門○
同断　竹右衛門○
同断　民右衛門○

御地頭所

御役人中様
飛州御材木之覚

一 三拾七数　御留木之分
一 四十壱数　御見出し之分
一 三数　是ハ尾州御役人中之御見出之分
外
一 四数　是ハ下切前河原四郎右衛門支配之分引請
〆八十五数
是より尾州御材木之覚
一 六数　御留木之分
一 十五数　ばい木共　御見出し之分
一 四数　再御吟味之節　御見出し之分
外
一 壱数　下切前河原四郎右衛門支配之分引請
〆廿六数
右之通り御用材慥ニ御預り置申候、以上
丑十一月十八日　北島川庄屋
定右衛門○
前渡村
御地頭様

右は南内野新田分私義支配場所ニ付慥ニ、奉御預り候、以上
川庄屋定右衛門○
前渡村
御地頭様

右之趣新加納御陣屋へも奉差上置候、以上

飛州御材木御請書

一 御留木　七拾五数
一 御見出し木　四拾七数
一 同尾州見出シ　壱数
惣木〆大小百弐拾三数

尾州御材木御請書

一 御用木御留木　九数
一 御見出シ木　八数
一 ばい木共ニほた木　拾弐数
惣木〆大小弐拾九数
右之通り慥ニ御預り置申候、依之御請書奉差上候、以上
丑十一月十八日　北島川庄屋
定右衛門○
前渡村
御地頭様

右之趣新加納御陣屋えも奉差上置候、以上

右川辺御役所御三所より御使者相勤候、今般出水ニ付御用材流失いたし候ニ付、甚以厳重ニ御吟味も有之、又候新加納陣屋より駈合も有之ニ付、御三所被仰合、左ニ申出候、右ニ付三所御

割合ニて金拾両肴代遣し、尤口上書左ニ

口上覚

一 去月十八日夜木曽川出水ニ付、飛州御用材川面散乱有之、流失仕候ニ付、私共主人知行所え飛州御役人方御出張有之、一順留木等之御吟味御座候上、猶地頭所より入念厳敷可遂穿鑿之旨御懸合御座候ニ付、知行所村々川奥迄遂吟味候処、御出張之節御改御座候留木之外隠木等一切無御座候、万一此上他村より捨木等仕候ハヽ早速申出候様申渡、已後共心得違不仕様急度申渡、三役連印請書取り置申候、若此上御不審之廉御座候ハヽ、被仰聞御座候えハ、尚又入念穿鑿可仕候、且又向後飛州御用材川面乱木仕候節ハ、及承り次第役人共差出、成丈留木等為仕、心得違之者無之様可仕候間、乍恐其節ハ銘々主人共え御掛合可被仰聞候様仕度奉存候、成ル丈出精手ヲ尽可申奉存候、右之趣御届旁如此御座候、以上

丑十一月十九日　　坪内太郎兵衛使者
加藤録見

坪内金三郎使者
松原牧右衛門

坪内嘉兵衛使者
山本祐左衛門

右之趣申出候、尤前以酒倉表ニ加藤親類鎌松（ママ）三左衛門と申人を以内願いたし置、罷出候、右ニて支度いろ〳〵世話等相懸り候ニ付、又候松原氏より内談申越、兼松氏金五百疋、三所割ニて挨拶いたし候方、内談申遣し

今度入用

金拾両　秋山太郎助殿肴代
金弐百疋　川辺宿喜右衛門挨拶
金壱両壱分　兼松三左衛門挨拶
壱〆八百文　太田泊り上下宿代
百文　川辺人足

（表紙）

「

天保十四癸卯記録

御用所

」

一 八月廿三日山東武兵衛倅中野村奉公ニ罷出西瓜（瓜）紛失いたし候ニ付三井より手紙添引取候様申来ル并村役人差出候事

一 河田喜平太より御持高五ケ年書出候様と申来ル事

一 三井様御縁談再願之事

一 尾（祝カ）様岐阜地へ御成ニ付伺書之事

一 御宗門御差出之事

一 長瀬勘六物置普請届書之事

一 長良川大水切入加納へ御見舞御状出ス事

三井加藤より為知之事

一 加納返書同断

一 大割并高一円答書御本家家老中より来ル事并返事遣ス事

一 八月御三所御役人出府之節手紙留

一 加納水見舞返事之事

一 高物成五ケ年平均見取場書出差出之事

一 閏九月三井表御縁組ニ願出行違御再答御願御状戻り候事

一 公儀御参詣相済候ニ付御本家御問合手紙返書

一 孫市方より尾州名古屋送り一札之事万蔵方へ

一 横井伊折介様御加判被仰付候ニ付かつふし被遣候御挨拶として御肴来ル

一 左内へ御手当之事

一 若殿様御具足着初メ之事

一 大納言様犬山御成日限問合之事

一 尾州大納言様犬山え御成ニ付御伺書并隼人様同断・御用人中同断

一 三井御縁談御願済之事

一 二月十三日三井加藤録見殿より、大割一件掛合向ニ付答書相談ニ来ル、松原氏より案文来ル、右写は御両家ニ有之

一 同十二日少林寺隠居葬式ニ付、御使者左内出ル、委細日記有之

一 同十六日山本左内先年之通帰参被仰付候ニ付、再勤被仰付候旨村方一同・寺院方・御家来共え申渡候

一 庄屋竹右衛門罷出、公役衆鵜沼宿え着之所、追々御沙汰御座候宗門帳并人別帳・免定等差出し候処、右免定ニ高無之被仰候故、是迄先々より仕来ニて御座候趣申上候所、是ハ物成差引同様有之候間、高六百石と申儀無之故ニて難用候間、地頭役人印付之高書差出候様被仰候故、御認方相伺申候旨申出候付、左之通認遣ス

覚

一 高六百石　　前渡村
内

弐拾八石四斗七升八勺　流失高

右之通相違無御座候、本郷・山東方両組免定相添差出申候

天保十四癸卯年二月　坪内嘉兵衛家来

山本左内印

右之通相認、村役竹右衛門へ相渡遣ス、公儀御役人町田孫四郎殿・萩野寛一殿

二月十九日加納御家老衆へ御直書ニて左之通御頼

一筆致啓上候、春暖之節弥御堅勝被成御座珍重奉存候、然は倅杢太郎并家来共儀、其御家中広江海蔵殿と申仁相頼、門弟ニ相成、学門(マヽ)手跡共為致修業度、依之海蔵殿御用透之節相越被呉候様ニ御取計可被下候、此段御頼得御意度如斯御座候、恐惶謹言

二月　坪内嘉兵衛

御書判

新貝七右衛門様

杉浦兵左衛門様

川上宗兵衛様

同廿七日江戸表下渋谷東北寺和尚上京いたし候付、御機嫌伺并代替挨拶旁ニ被参候、風呂敷壱ツ・三本入扇子箱差上被申候、御逢有之、茶漬出ス、右為餞別金百疋被遣候、直様尾州杉田村妙興寺被参候

三月朔日平島表ヘ加納表配当座頭参り、泰姫君様御逝去ニ付配当願出候趣申来、壱ケ所ニて五百文ツヽ、頂度旨申候ニ付、三百文ツヽ、掛合有之、平島表ニて取扱頼遣ス

同六日山東方庄屋民右衛門罷出、私組小前一同相願候、昨年水難有之候付、弁才天ヘ湯花上ケ候て御祭仕度旨願出候ニ付、御聞済相成候、当日御開帳相願候、是又御聞済十二日有之候

一神明・弁才天御社屋根葺替山東方勇蔵申付、両社ニて金壱両ト引合申候、出来之上右引合之通りニて引合不申由ニて増相願申候、五月九日社移し、玉泉院頼いたし候、餅四升蒔申候

一同十二日三組庄屋呼出し、明十二日日光　御社参御発駕ニ付、廿三日迄村方物静相慎、火元大切ニ別ていたし、村方之者共廿三日迄他行不相成、相慎可申候、尤村役之者申合、昼夜替〳〵相廻り可申旨申渡ス、当方よりも昼夜相廻り申候旨、是又申聞ル

右之趣寺院・御家来之者へも申渡ス

一同十七日少林寺　東照宮様　(徳川家斉)文恭院様ヘ御三所様御参詣、御備銀壱両、御召服のし目御長袴ニて、御供御本供

以手紙致啓上候、然は御支配下前渡村百姓武兵衛倅定次郎と申者、当支配下中野村百姓伊兵衛方ニ月半分奉公ニ召抱置候処、同村組頭儀左衛門控畑ニて作物荒し候段届出候、則別紙書付之趣ニ御座候、付てハ右定治郎儀前渡村へ引渡し申附候間、村役人并親類中野村へ罷出候様被仰付可被下候、御取締之儀ハ思召ニ御取計可被下候、併し成ル丈ケ御宥免之御取計御座候様奉存

候、右為可得貴意如此御座候、以上

八月廿三日　加藤辰右衛門

山本祐左衛門様

尚以、本文差出し候書付封入御目ニかけ申候、村役・親類早々罷出候様いたし度奉存候、宜御承知可被下候、以上

乍恐書付ヲ以御届申上候事

中野村組頭

儀左衛門

一私控畑作之内ニ西瓜(瓜)作付置候処、当月日夜西瓜数十四紛失仕候ニ付、追々手掛り相考へ罷在候処、既ニ露顕之手懸り出来申候ニ付、夫々相尋候ヘハ取主相知れ申候、右作物荒し候者ハ前渡村御百姓武兵衛倅定治郎と申者ニて、当村新加納方甚右衛門と申者方ニ半分奉公人、主人共へ及懸合ニ候え共、何等之訳立不仕候ニ付、無拠御届ケ申上候間、乍恐御勘考被成下御下知奉願候、依て差上申書付如此御座候、以上

天保十四卯年八月廿三日　当御知行所

中野村組頭

儀左衛門〇

三井御屋敷

御役人中様

右之通り御届申上候処相違無御座候

右村庄屋

久右衛門〇

以手紙致啓上候、秋冷相催候処弥御安全可被成御勤、珍重奉存候、然は河田喜平太殿より御連名御直宛之書状到来ニ付、御順達被成候、御落手被下、宜様御達し可被下候

一花崎殿より来状壱通、是又御落手可被下候、此段得貴意度如此御座候

八月廿九日

一筆致啓上候、然は今度惣体知行物成五ケ年平均取調可差出旨、御勘定御奉行より御達御座候間、各様御持下村方諸物成五ケ年之分御取調、早々御指出可被成候、尤今度御達之振合ハ新加納御陣屋ヘ相達遣し候条、右ヘ御聞合、其振合を以早々御指出可被成候、此段御達可申旨被仰付如此御座候、恐惶謹言

八月十九日　河田喜平太

坪内太郎兵衛様

坪内金三郎様

坪内嘉兵衛様

御届ケ申物置之事

一古物置壱軒　但シ長弐間壱尺・梁弐間

前側庇付・物(惣カ)瓦

右之古物置、今般尾州羽栗郡北山名村佐之右衛門方より買請仕、普請仕度候間、此段以書付御届ケ申候、以上

九月十三日　長瀬勘六〇

山本祐左衛門殿

親類
長瀬竹右衛門〇

夜ニ入加藤氏より出水為知手紙
以手紙致啓上候、然は長良川大水ニ付、加納御領分之内切所出来ニて、御城下町方井丸之内へも乗水いたし候段承知いたし、尤当方より承合ニ使差立申候処相違無御座候、仍之明日御見舞書差遣し可申奉存候、右為御知為可得貴意、草々如此御座候、以上

九月十二日　　加藤辰左衛門
山本祐左衛門様

一　御本家御家老河田喜平太殿より返書、平島より順達左ニ
八月十五日附御状致拝見候、然は大割滞一件今度御吟味願ニ相成候段得御意候ニ付、御申越御紙面之趣致承知候、右付拙者儀出役之砌悉御示談ニ可及段申入候処、御一同御病気之由ニて得と御面談も出来不致、左候迚御家来共え対談ニは罷越不申候え共、一体右一件滞之儀は金三郎殿方より事起候段、兼々御申聞も有之候間、則御同人方え罷越、其段及御面談候処、御同人御申聞ニは、別段可申立所意は無之、外両人え方事為伺置候儀ニて、殊ニ病中ニ付面談之儀及迷惑候段被申聞、甚不取留之儀ニは有之候え共、御病中と被申聞候故、無余儀事ニ奉存、依て右御家来松原牧右衛門え委細申含、右大割出金之儀、先例ニ帳面一覧之上可差出と申例無之処、強て被申立ニ付、既一応順覧も相済候上、猶又写帳申請度段ハ、割合方ニ付疑惑筋等有之候之儀ニて事起候儀歟、左候ハヽ、何々之訳合故如件申立候之趣意可申聞様申談候処、左様之筋ニは無之趣、右御家来相答候間、左候ハヽ、先例ニ相振不申様、出金之儀相済し置、其上ニて写取調、若心底ニ落入不申儀も候ハヽ、其段可申立様可致、何分ニも先例を相崩し候段は不宜、深く相弁可申、殊ニ右写帳を以取調之上可差出抔と、右等ニ事寄セ出金差止置候段ハ、甚以不所存之趣申諭、心得方相尋候折柄申聞ニは、金三郎殿御祖父寿山殿儀存命中、右帳面類一覧可致様被申置候趣を以、何分ニも写帳ニて一応熟覧も仕候ハヽ、元来余ニ異存は無之間、早々出可仕旨申聞ニ任セ、則御陣屋掛り役人共え申達、夫々写帳相渡候儀ニて、然処拙者帰府後追々年月も相経候え共、右済方ニ不相成、依て役場より屢及御催促候処、兎角等閑之御取計ニて、剰割合済之帳面迄も御取寄之段は、右一件各様ニて御洗方も可被成儀と相聞、且兼て之御申聞とは致相違、殊ニ役場より御家来共呼出及談候処、兎角約定違之事而已申立、不取留之儀ニて際限も無之、且又御持下百姓共より、地頭より差留有之由ニて出銀不致、然上柄ハ致方も無御座候間、御家来共始村方之もの共江戸表え御差出可有之様御達申候処、是又御差出も無之、依ては知行一同取締筋ニ相抱り不得止事、右之次第ニ付御吟味

願ニ相成候、左様御承知可被成候、既右一条ハ嘉兵衛殿御出府之砌も御談申置候儀等有之、難被捨置段ハ兼々御承知可有之儀と存候、将又右一件之もの共寺社御奉行所え御呼出ニ付、御内分百姓共来御差出ニ付、心添可致様致承知候、然処右御紙面は相達候え共、未御家来共より拙者方え着之届之儀は申聞無之折柄、寺社御奉所えは致着届候段及承候、左程之儀ニ候ハヽ、一応之申聞も可有筈之処、無沙汰ニ御奉行所等え罷出候段、甚如仰之儀ニ有之、村々各様方より御紙面ニも致相違候、此段御再答旁可得御意如此御座候、恐惶謹言

九月三日　　河田喜平太
坪内太郎兵衛様
坪内金三郎様
坪内嘉兵衛様

八月十五日附御状致拝見候、然は各様方御知行所之儀ハ、左京殿御拝領高之内御内分ニて、表立候ては一円御本家御知行ニ相違無之候之間、右之趣を以御達申候処、左候ては各様方御先祖御由緒も御取失、御迷惑被及候間、右之次第其御筋え御伺ニ相成候様被成度段、達て御申聞、且、左京殿えも其段御申上之趣共致承知候、御願之通取計可申候、左様御承知可被成候、右御報可得御意如此御座候、恐惶謹言

九月三日　　河田喜平太
坪内太郎兵衛様
坪内金三郎様
坪内嘉兵衛様

右本紙平島表へ又候相廻し候

上袋ミノ紙

ミノ上直紙　浦印

天保十四癸卯年
物成五ケ年平均取調帳　坪内嘉兵衛
閏九月

天保十四癸卯年
美濃国各務郡　前渡村
閏九月　坪内嘉兵衛

右二ツ折ニて袋入

本紙美濃紙上直紙、認メ方左ニ

覚

高五百七拾壱石八斗八升八合弐勺　美濃国各務郡
酉年物成　前渡村
弐百三拾九石三斗七升三合三勺
戌年物成
百八拾六石七斗弐升九合弐勺三才
亥年物成
弐百四拾八石五斗五升九合壱勺九才
子年物成
弐百四拾弐石四斗七合六勺五才

丑年物成
弐百四拾九石六斗五升壱合五勺七才
去酉年より去丑年迄五ヶ年平均
弐百三拾三石三斗四升四合壱勺八才八毛
外ニ
田四反三畝六歩　見取場
此取米
壱石六斗五升四合九勺三才
畑三町三反九畝弐拾七歩　見取場
此取米
八石五斗八升五合四勺三才
三石五斗弐升九合四勺　山方米
三石　野方米
六町四反八畝拾六歩　薪林壱ケ所
拾九町九反九畝拾壱歩　薪山三ケ所
右之通り相違無御座候、以上
天保十四癸卯年閏九月　坪内嘉兵衛印
坪　左　京殿
右之通り上紙廿五枚相認メ
酉年物成
弐百六拾六石八斗弐升四合七勺七才
内
八石九斗弐升五合弐勺七才　定式引物
残て
弐百五拾七石八斗九升九合五勺
内
拾石四斗五合三勺　見取古新開、本郷・山東両組二口〆
内
壱斗六升五合四勺
右は天保三辰年村方より差出候帳面と免定下と相違相成候え共、
今般取調ニハ村方より書出候分相用置候
壱石壱斗三升壱合五勺　御古屋敷
此分除差出候也
三石五斗九合四勺　山方米
三石　北島野方
四斗八升　入草代米
見取新開
〆拾八石五斗弐升六合弐勺
引残
弐百三拾九石三斗七升三合三勺　右本紙ニ用候也
右は寛政十二年申四月　御改之節は、書出留記ニハ、見取新開
之分共本高一所ニ書入有之候え共、今般之儀は見取新開別ニ仕
訳いたし差出申候

一　四反四畝拾弐歩　御古屋敷
此取米
壱石壱斗四升六合壱勺九才
右は此分除差出申候、万一御改之節は、屋敷ニ候間手作畑と
申訳いたし候心得ニ御座候、殊品ニより家来手当遣候分とも
申訳ケ

差送り申一札事

一　美濃国各務郡前渡村坪内嘉兵衛家来、宮川孫市娘とも当卯廿一歳、此度其御地横杉町美濃屋万蔵方へ掛り人差遣し申候、当所慥成者ニて、公儀御法度之宗門之者ニてハ無之候、勿論諸親類縁者之内類族掛り候者壱人も無之、宗旨は代々浄土真宗美濃国同郡小佐野村安楽寺旦那ニ紛無之、則寺送り取添遣申候間、以後其御町方御帳面御戴可(ママ)被下候、若シ脇より御法度之宗門之由申者有候ハヽ、何方迄も罷出、急度申披、其元え少も御苦労掛申間敷候、為其送り手形連印仍て如件

坪内嘉兵衛家来
宮　川　孫　市〇
同断新類
山　本　秀　治　郎〇

尾州名古屋横杉町
町方御役人中

うら書

前書之通り相違無之ニ付致奥印候、以上
坪内嘉兵衛家来
山本祐左衛門〇

左内御手当之事
米三石也
右は為合力差遣申候、
以上
坪内嘉兵衛〇
天保十四癸卯年十月
山本左内え

米三石
外弐人扶持
右は為手当差遣申候、
以上
坪内嘉兵衛〇
天保十四癸卯年十月
山本左内へ

山本左内出府中ニ付、名代山本祐左衛門御呼出相成被仰渡候、
右書附御渡相成候、御請御礼申上候、尤表御座敷ニて被仰付候、
其外母るんへ只今迄之通り壱人扶持、一代別段ニ被仰付候
十一月十五日　若殿様御具足着初、御内祝として赤飯出来、上々(ママ)
迄被下、配方三井・平島・安池様・広江海蔵・小島市兵衛、鰯
添壱重ツヽ遣し、手紙添

其外　山東くよ
一重ツヽ、鰯添被下
ばゝくの
三井捨太郎様御出、御持参御酒弐升・鰯一わ

平島様御使者岩塚銖助殿　御進物島海老十ヲ・御酒弐升樽一ツ

献立

御出之節長のし出ス

三ツ組御盃　硯蓋（したけ　長いも　ゑひ　九年坊　こはう）

御膳分

飯　汁（焼とうふ　な）

坪（人しん　ちくわ　松竹）　すあへ（しらか大根　赤のり　肴）　香物

引て

平（長いも　したけ　あわび）　猪口（ろうじ竹　す）

焼物海

引盃　吸物するめ

御茶菓子

右相済

座附

吸物（白三味　小鯛）

硯蓋（角ふ　かまほこ　れんこん　香茸　くわい　きんなん）　丼（いろ〳〵見合）

丼（附わらび）

大平（人しん　めまき　かんひう　ゑひ　したけ）　吸物（鳥）

差身（肴　ちしや　赤のり）　木丼（半平　な　いろ〳〵）

吸物しめし

其外

下々迄見合御酒出ス

一筆致啓上候、然は高木求馬様御妹女　貴様御養子捨太郎殿え御縁組被成度段、左京殿御承知有之、則御願之通被申付候間、御取組可被成候、此段自拙者可得御意如此御座候、恐惶謹言

十一月十六日　河田喜平太

正徳書判

坪内太郎兵衛様

（表紙）

「

天保十五甲辰記録

十二月十三日被仰出候年号改

弘化元年御用所

」

正月　三井様より順達、江戸表出十二月廿七日附左ニ

一筆致啓上候、然は左京殿御儀去ル十六日被為　召、諸大夫被蒙仰、　伊豆守殿と御改被成候、依之此段御達申候、右得御意如是御座候、恐惶謹言

十二月廿七日　河田喜平太

坪内太郎兵衛様

坪内金三郎様

坪内嘉兵衛様

一筆致啓上候、然は各様方御知行村々郡中割不出銀一件、寺社御奉行所おゐて御吟味中、扱人立入、一件無故障済方可致対談行届、双方連印を以御吟味下ケ願度旨ニ付、則右御奉行所え伊豆守殿より以使者其段御達被申候処、右御承知ニ有之候、依ては各様方右御不銀之分此節御皆済可有之儀は勿論、且其外御役助金ヵ御内分村方より可差出高役金滞等之儀も、夫々規定有之候通、是又同様御皆済可被成候、依之前書滞金不残、早々各様方より受取可申旨、新加納役人共え申渡遣置候間、早速御皆済可被成候、若万一此上御等閑之御取計筋有之候ハヽ、最早無余儀次第ニ付、別段不被及沙汰ニ御吟味被相願候、且又各様御家来共之儀、御内分村方之もの共郡中割不出銀一件ニ付当秋寺社御奉行所より御呼出之節、右百姓共え差添、達外ニ加藤録見・松原牧右衛門・山本左内被差越候、然処其砌も得御意置候通、伊豆守殿方え一応之申聞も無之、無沙汰ニ御奉行所え出府届等致し、剰御直参之家来之振申紛し罷出候段不軽、御奉行所迄も申掠候盗ニ相聞、対　公辺恐入候儀ニ候、其上前書一件済方に相成候ニ付てハ、夫々申渡筋有之候之間、既呼出候儀申遣候折柄、其前是又録見・牧右衛門儀無沙汰ニ帰村出立いたし、左内儀ハ何方ニ罷在候哉旅宿は引払候、右之始末甚苗代之取計而已ならす無法之致方、不埒之至付、其儘ニ難被差置、其外兼々申聞之趣も有之候、旁御吟味之儀相願ニ相成可申候間、為御心得兼て可得御意、伊豆守殿御申付ニ付、如此御座候、恐惶謹言

十二月廿七日　河田喜平太

坪内太郎兵衛様

坪内金三郎様

坪内嘉兵衛様

一新加納御陣屋え、大割出銀是迄年々滞分承知いたし度申込候ニ付、左之帳面相渡候

大割銀并立替物割合帳

未年普請其外割合物

一六百弐拾七匁五分五厘　千八百石当り
一五百九拾六匁壱分八厘　右同断利割
二口〆壱貫二百二拾三匁七分三厘
此訳
四百七匁九分壱厘　壱ケ所当り
申年普請其外割合物
一三貫八百三拾六匁四分弐厘　千八百石当り
一三貫百八拾五匁四分六厘　右同断利割
弐口〆七貫弐拾壱匁九分五厘
此訳
弐貫三百四拾匁六分五厘　壱ケ所当
酉年普請其外割合物
一五百拾九匁二分　千八百石当り
一三百七拾四匁五分九厘　同断利割
此訳
弐百九拾七匁九分三厘　壱ケ所当り
戌亥普請其外割合物
一八百九拾壱匁九分八厘　千八百石当り
一五百八匁七分五厘　右同断利割
弐口〆壱貫四百匁七分三厘
此訳
四百六拾六匁九分壱厘　壱ケ所当り
子年割合物
一五拾八匁三分九厘　千八百石当り
一弐拾弐匁九分六厘　同断利割
弐口〆八拾壱匁三分厘（五脱）
此訳
弐拾七匁壱分弐厘　壱ケ所当り
丑年割合物
一三拾壱匁五分六厘　千八百石当り
一九匁壱分三厘　同断利割
弐口〆四拾匁六分九厘
此訳
拾三匁五分六厘　壱ケ所当り
亥子丑寅普請其外割合物
一壱貫八百七拾壱匁三分　千八百石当り
一三百五拾五匁七厘　同断利割
二口〆弐貫弐百弐拾六匁三分七厘
此訳
七百四拾三匁壱分弐厘　壱ケ所当り
元利〆拾弐貫八百八拾八匁六分壱厘
此訳
四貫弐百九拾六匁弐分　坪内太郎兵衛殿

四貫弐百九拾六匁弐分　坪内金三郎殿
四貫弐百九拾六匁弐分　坪内嘉兵衛殿

右之通御銘々様御出分取調申候、相違之儀も有之候ハヽ可被仰越候、以上

四月七日三井より順達左ニ

御紙面致拝見候、然は追々及御談候大割滞辻、頃日書抜差進候、御承知之処、立替物割合等有之、付ては明細書御熟覧之上御出銀可被及旨ニ付、明細書可被相送段、則明細帳壱冊差進候間、御一覧之上早々御出銀可被成候、若し相違之廉も御座候ハヽ御申越可被成候、右御報旁得御意度如斯御座候、以上

四月六日　大塚茂一郎
河田唯右衛門

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山本左内様

天保十四卯年

大割銀并御取替物割合帳

十月

未年普請其外割合物御出分

一弐貫弐百七拾五匁弐分八厘　普請半当分
一六拾匁九分九厘　用水三分壱
一拾七匁五分弐厘　無動寺村仮井敷地米弐斗弐升弐合代
一拾六匁九分五厘　山脇村地敷地米弐斗壱升五合代
〆弐貫三百七拾匁七分四厘
此利弐貫五百五拾弐匁弐分　未十二月より卯十月迄
六百弐拾七匁五分五厘　千八百石当り
五百九拾六匁壱分八厘　右同断利割
二口〆壱貫弐百弐拾三匁七分三厘
此訳
四百七匁九分壱厘　壱ケ所御当り御出分
申年普請其外割合物御出分
一三百五拾匁四分七厘　普請半当御出分
一六匁弐厘　用水三分壱
一三拾四匁壱分五厘　無動寺村仮井敷地米弐斗弐升弐合代
一八拾八匁壱分五厘　笠松亀屋払
一拾四貫拾四匁七分　普請半当御出分
〆拾四貫四百九拾三匁四分九厘
利〆拾弐貫三拾四匁
三貫八百三拾六匁四分九厘　千八百石当り
三貫百八拾五匁四分六厘　右同断利割
二口〆七貫弐拾壱匁九分五厘（壱ケ所当御出分）
弐貫三百四拾匁六分五厘
酉年普請右同断
一壱貫五百七拾五匁四厘　普請半当分

一 弐拾弐匁弐分　　無動寺村仮井敷地
米弐斗弐升弐合代
一 九拾九匁九分六厘　　郡上行国絵図御用ニ付、出役幷
飛脚諸入用
一 四拾五匁　　御国絵図面仕立諸入用
一 六拾八匁八分　　御国絵図一件ニ付大垣行諸入用
一 六拾匁　　右同断絵図面一件ニ付
一 三拾五匁七分九厘　　右同断
一 四拾六匁七分八厘　　御公儀御逝去ニ付座(頭)当配当
一 七匁八分五厘　　笠松亀屋払
〆壱貫九百六拾壱匁四分弐厘
利〆壱貫四百拾五匁壱分
五百拾九匁弐分　　千八百石当り
三百七拾四匁五分九厘　　同断利割
弐口〆八百九拾三匁七分九厘
弐百九拾七匁九分三厘　　壱ケ所当り御出分

寅年普請其外割合物但亥子丑寅出入四ケ年分
一 六貫七百五拾九匁四分弐厘　　普請半当御出分
一 百三拾壱匁四分壱厘　　用水三分壱
一 拾三匁三分　　山ノ脇村池敷地米
弐斗壱升五合代

一 拾三匁七分三厘　　無動寺村仮井敷地
米弐斗弐升弐合代
一 四拾六匁七分八厘　　姫君様御逝去ニ付
座頭配当
一 五拾三匁壱分三厘　　笠松亀屋払、但し子年分
一 弐拾九匁壱厘　　笠松亀屋払
一 弐拾弐匁六分　　右同断
〆七貫六拾九匁三分八厘
利〆壱貫三百四拾壱匁三分九厘
壱貫八百七拾壱匁三分　　千八百石当り
三百五拾五匁七厘　　同断利割
弐口〆弐貫弐百弐拾六匁三分七厘
七百四拾三匁壱分弐厘　　壱ケ所御出分
元利合拾弐貫八百八拾八匁六(ママ)匁壱厘
此訳
四貫弐百九拾六匁弐分　　壱ケ所へ割合御出分
此金七拾壱両弐分卜六匁弐分
右之通割合取調申候、若シ相違之廉も有之候ハヽ可被越(ママ)候、
以上
卯十月

尚々、本文之子供、誰倅か足弟歟之訳、尤当辰何才之訳等も御取調、御差出し可被成候、以上
以手紙致啓上候、然は御知行中ニて是迄出弃・久離又は不埒等有之、人別除キ相成居候者共、当時存命之者、何年号何月帳除

相成、何国何村ニ住居罷在候訳幷人別之者共之内奉公又は他国稼ニ罷出居之訳等、巨細取調差越候様、江戸表より申来候間、御支配下之分右始末巨細御取調、来十一日迄ニ当御陣屋へ御差出し可被成候、右為可得御意如斯御座候、以上

四月六日　　大塚茂一郎
河田唯右衛門

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山本左内様

右一件ニ付御猶予御願之御手紙左ニ
一筆啓上仕候、然は私共え被仰渡候儀御座候ニ付、三人共日数十日之間支度相調、江戸表え出府可仕との御書付之趣、逐一承知仕候、則御請書新加納御陣屋え向差出候、御承知被下候儀と奉存候、然処太郎兵衛義追々老衰仕、常々多病ニ罷在、就中此節別て不快取臥罷在候仕合ニ御座候、合ヒ薬ニ離候ては必至老衰相増、難渋至極仕候、金三郎義ハ去年中より眼病ニて、一向物之黒白難相分難渋ニ罷在、此節養生専之折柄、元来生質疳症ニて気分不相勝迷惑仕居候、嘉兵衛義ハ生得虚弱ニて、其上疳症ニて不快逆上仕、折節眩暈仕難儀至極仕、右之通三人共不快ニて罷在候、合ヒ薬ニ離候ては難渋仕候、依ては少シも快方次第出府可仕候間、三人共快気仕候迄御猶予奉願候、先般御請之節可奉願上候処、御請不仕御猶予奉願候ては恐入候儀ニ奉存候間、相見合申儀ニ御座候、宜御承知可被下奉願上候、恐惶謹言

四月十七日　　坪内嘉兵衛
坪内金三郎
坪内太郎兵衛

坪伊豆守様

先年御暇相成居申候源左衛門事、少林寺和尚様追々御詫申上候て、前渡村え立入度旨ニ付、御聞済相成、左之通
差出申一札之事
一 源左衛門儀、此度御知行所御村方え御預ケ申候上は、当人儀何様之事共出来申候共、少シも御地頭所は勿論御村方えも御苦労之筋相掛ケ不申上、拙寺え引請取計可申候、依て一札如件

天保十五年辰四月　　新加納村
少林寺印

前渡村
御村役中え

以廻状申触、先年御暇相成候源左衛門義、此度新加納少林寺御召抱相成候処、右之者当村文吉孫若年ニ付、立廻り世話いたし度旨、同寺へ御頼申上候付、当分右源左衛門御知行所へ御預ケ被申度段、追々御頼ニ付、御聞済相成候上は、此上源左衛門不都合之筋有之候節は同寺御引請之事故、其段可及御掛合候趣、一同不洩様相触可申候、以上

辰四月　　御役所
三組庄屋
与頭

以廻状申触候、文吉孫長次郎ヲ兄弟・後家共、是迄藤右衛門御預り申上候、此度右之者共平百姓ニ申付間、右之段一同不洩様相触可申候、以上

辰四月　　御役所
三組庄屋
与頭

右之趣藤右衛門呼出し申渡ス、当人えは藤右衛門へ申通し候様申聞遣ス

加納御用人衆より白木状箱ニて左之通り申来ル、請取差遣ス

以剪紙致啓上候、薄暑御座候え共弥御堅固被成御勤、珍重奉存候、然は過日七之丞え被御聞候儀ニ付、致御面談度儀有之候間、乍御苦労近日之内御出可被下候、此段可得御意如此ニ御座候、以上

四月十七日　　東郷権兵衛
安池新八郎
新貝七之丞
杉井伝右衛門

山本左内様

四月廿一日

前文之趣申来ルニ付、今日三人共加納二文字屋長七方行、銘々手札相渡案内申遣し候之所、新貝七之丞殿より申来ルニは、宅ニて御目掛り候趣ニて長七方え罷出懸御目可申候間、其段宜敷御銘々申候様申来ル、夫より無程新貝七之丞殿被参候付、三人共出迎候て座敷へ通し挨拶いたし、同人被申候ニは、先達て御出被仰聞候儀、重役共えも申聞、江戸表肥前守へ申聞候所、先代御役中、其後記録等取調旁ニて夫成ニ相成居候所、当暑中よりは肥前守より御答可被申候間、左様御承知被下候様、御通し候様被申付越候間、御銘々様御主人様へ宜被仰上可被下候、右之儀紙面を以可申上共存候え共、行違等有之候儀も有之候ては如何ニ被存、御苦労ニは候え共其段得御意候と被申候、夫より御色々噺被申候て引取

五月十二日加納表え内願之通相済候付、御家老衆・御用人衆え挨拶左之通

国御家老衆両人え両種、鰹節十本入壱箱・白木弐升樽一つヅヽ、江戸御家老篠原氏へは目録ニて、井上仁三郎殿へ頼遣ス、御用人衆へは直紙壱束ヅヽ、井上仁三郎殿え金百疋、何れも三所ニて遣ス、尤右御使者三井より佐藤九十九殿ニて、御家来共三人之手札為持遣ス、右使ニ御家老衆内願相済候ニ付、御銘々より左之通白木状箱入被遣候

一筆啓上仕候、然は御会釈之御書翰被成下候御義、奉内願候処御聞済ニ相成候段承知仕、安堵至極大慶奉存候、右礼為可申上以愚札如斯御座候、御序之刻可然様御執成可被下奉頼候、恐惶謹言

五月十二日　　坪内嘉兵衛
御書判

杉浦兵左衛門様
川上宗兵衛様

六月十日

御本丸御炎上ニ付御見舞御状、新加納御陣屋え小普請金御差出之節一所ニ差出、祐左衛門持参也、文言左ニ

一筆啓上仕候、然は先般　御本丸御炎上之由承知仕、恐入奉存候、右為可申上捧愚札候、恐惶謹言

坪内嘉兵衛
定昌（花押）

坪　伊豆守様
参人之御中

覚

一　金六両也

右は当辰年小普請金書面之通被成御差出、慥請取申候、以上

辰六月十日　　河田唯右衛門〇

山本左内殿

一御奥様御出産女子様、十八日巳之刻也、至て御安産御座候え共、苅谷春貞呼遣し、山東吉祥院御祈禱申付使遣し候処、他行、取上左之儀も今朝より他行候間、先々加津・幸より両人ニて取方附いたし候、先以御二方様共至て御丈夫之趣候、右ニて岡崎へ為知手紙使遣ス、今明日之内一応伺候様申遣ス

七月廿六日

新加納御陣屋より廻文、平島より順達左ニ

以手紙致啓上候、然は　伊豆守様御義、今般御本丸御小性組御番頭藤懸出羽守様跡御役被為蒙　仰候段、江戸表より申来候間、此旨宜敷御達可被成候様致度候、右得御意度如此御座候、以上

七月廿五日　　大塚茂一郎
河田唯右衛門

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山本左内様

尚々、本文御役替ニ付高役金之義、此度は思召も有之候ニ付、是迄之半減可取立旨申来候間、御支配下村々高役金之義も右御承知、早々御取立御差出可被成候、以上

一筆啓上仕候、然は今般　御本丸御小性組御番頭被為蒙　仰候段、承知仕、目出度御儀奉存候、右御歓為可申上、御肴一種進上之仕度、以愚札如斯御座候、恐惶謹言

七月廿七日　　坪内嘉兵衛
御判

坪　伊豆守様

参人之御中

右御祝書共一緒ニ壱封いたし御陣屋へ差出ス、宮川孫市遣ス、

七月廿七日

柱村堅紙

一　私儀従先て病気罷有候ニ付、依之私隠居仕、聟養子金三郎へ家督相続被　仰付候様、奉願上候、以上

坪内佐左衛門
両御印

坪　左京殿

一　私儀追々老衰仕、其上多病ニて難渋罷在候に付、私隠居仕、養子捨太郎家督相続被　仰付候様、奉願上候、以（上脱カ）

天保十五辰年八月　　坪内太郎兵衛○
坪　伊豆守殿　　（花押）

先触

一　本馬　　三疋
一　軽尻　　三疋
一　人足　　十五人
　　かこ九人
　　具足三人
　　合羽かこ三人
　　両がけ

右は坪内金三郎、坪内嘉兵衛・坪内捨太郎、在所濃州三井・平島・前渡屋鋪来ル廿日出立ニて、道中十二日振り江戸表罷下候間、件之人馬無滞継立可給候、若し途中ニおゐて病人等出来いたし候節ハ、臨時之人足才覚給候様、頼入置申候、以上

八月十五日

坪内捨太郎内
田　上　数　馬○
坪内嘉兵衛内
宮　川　孫　市○
坪内金三郎内
松原牧右衛門○

木曽路
濃州鵜沼宿より
武州板橋宿迄
宿々問屋中

以手紙致啓上候、秋冷相催候処弥御堅固被成御勤珍重奉存候、然は大割其外御立替物御出金分之処、追々御懸合之上、四月晦日御談および候処、御引取之上被及御答候旨ニて御引取被成候処、今以御答之沙汰無御座、最早日数相立、御取調も御座候義と存候、依之早々御出金之御沙汰可被仰越候、右可得御意如此御座候、以上

八月六日　　大塚茂一郎
　　河田唯右衛門

加藤辰右衛門様
松原牧右衛門様
山　本　左　内様

九月五日新加納御陣屋より廻文、三井より順達、加藤より□□平島へ順達写来ル、明六日三井表へ出会ニて新加納表へ罷出□□相談申来ル、左ニ

加藤辰右衛門様　　河田唯右衛門
松原牧右衛門様　　大塚茂一郎
山本祐左衛門様

以剪紙致啓上候、然は郡中大割方之義ニ付、急々御対談申度義御座候間、乍御大義明六日当御陣屋へ御越被成候様致度、右得貴意如此御座候、以上

九月五日

九月廿一日新加納御陣屋より手紙返書三井より順達

御手紙致拝見候、然は及御面談申候其御支配大割出金方さし拒一件、せひせひ御利解御申聞候共、承引難出来之趣申立候ニ付、此様其段御答之段、承知いたし候、右は面々差支相成申候間、等閑ニいたし置候儀難相成候間、御配下村々惣代之もの御役え早々御差出可被成候、尚さら始末等□及利解可申候、右得御意如此御□

九月廿一日

加藤辰右衛門様　　河田
山本祐左衛門様　　大塚

一十一月十三日万蔵呼出し、追々相願候ニ付□病気ニ候間休役願候ニ付、江戸表相伺候処、願之通り休役仰付候間、代人庄左衛門へ申渡、御給米之儀当年分被下相成候様申附

一跡役之儀利兵衛呼出し申付候、尤山廻り折節見廻り候様申附、給米ハ壱斗五升勤申被下相成候間、心得可申候様申附

右之趣寺院・御家来・村役へも申触遣ス

十二月十七日庄屋・組頭・百姓代・若者呼出し申渡候事

申渡ス覚

一殿様先般御出府被遊候御用向之儀、御本家より　御進達ニ相成り申候、就ては追々御聞糺しも可有御座御義ニ思召候、然は御公辺え被為掛御苦労恐入思召候、依之諸事御質素ニ被遊候えは、右ニ順し御知行所三組共、小前一同諸事穏ニ可相守候、勿論先達て御触有之候　御趣意急度相守り可申候、博奕・人寄セ騒敷儀かたく相慎ミ可申候、昼夜ニ限らす御役人見廻り可申候、油断致間敷候、且又三組若者共諸事穏和ニ可致候、来春ニ至り参詣事等ニ罷出候義も成ル丈相堪らへ可申□聊之万歳等ニても舞セ見物致ス間□前書之通り被仰出候ニ付、申渡□之間、無違背相守可申事

天保十五甲辰年十二月十六日　　御役所　印

右之趣被　仰渡、承知奉畏候、急度相守り可申候、仍て御請書差上置申所如此御座候、以上

前渡村三組
庄屋　竹右衛門印
同断　市右衛門印
同断　民右衛門印
組頭　兵四郎印
同断　新左衛門印
百姓代本郷方　林右衛門印
奥右衛門印

山東組
仙右衛門代印　新右衛門
若者惣代本郷方　角左衛門
山東同断　慶助〔　〕
北島同断　留助爪印

（弘化二巳年記録）

（前欠）

居候処、祐左衛門ニ只今御役所御出候様と申参り候間罷出候、
供文蔵
石黒藤八郎殿申人一通り相札いたし
祐左衛門申口
今日坪内嘉兵衛知行所之内へ、草井村川庄屋幸助御案内ニて
神谷与八郎殿と申御役人流材御吟味とし御出之処、先々より
尾州方より案内いたし候例も無之ニ付、百姓共罷出御掛合申
上候処、右御役人方は場所之儀不案内之由候え共、御掛合中
草井村へ、百姓孫右衛門と申者壱人召つれ候ニ付、今日より
公用差支相成ニ付、早束返しくれ候様、庄屋共を以掛合候処、
御役所御達申上置候儀ニ付得戻し候儀相成不申旨申候ニ付、
其場所より百姓大勢願出度旨相届候ニ付、夫ニて御先柄之儀
ニも候ハヽ恐入候儀ニ付、先々百姓共差控居候様利解申聞置、
庄屋・組頭・百姓代召つれ候間、猶又御呼出御尋被成下置候
ハヽ、相訳り可申候、差当り候儀、壱人百姓ニて　公用差支相
成候間、早々草井村御呼出し御利解被仰聞、百姓差戻候様仕
度、右之願候、猶又召つれ候間、庄屋百姓代御呼出し御吟味
被成下置候ハヽ、相訳り可申候申候ハヽ、石黒承知仕候、今

日私儀右場所へ出役仕候、前渡村弐百人計人数と見へ、（合図）相す
を以罷出候儀有之候と申ニ付、前渡村役家八拾軒計之処、弐
百人人数無之候、大鐘・半鐘・太いこと申儀一口覚不申候不
しかへと被仰聞候儀も、右様之者前渡村無之、御見請之通小
村之儀ニ候間、右之儀覚不申と申答候、何分行届不申者候間、
宜敷御引廻御取計之儀奉願候申候処、今夜之儀いつれ御一宿
候哉相尋候ニ付、一宿いたし候と申候ハヽ、又々重役共へ申
聞、明日御掛合申候と申、引取

廿七日

四ツ半時頃役所罷出候様申ニ付、罷出候処、昨夜御掛合申候儀、
草井村呼出し、其御百姓草井村留置候ケ、村役人を以御引取被
下候、尤昨日草井村より送り届させ候ても宜儀之処、此方より
送り届候てハ、若シ意辺有之候節不宜と存、留置候、早々御引
取被下候様申ニ付、承知旨答、夫ニ付、今般之一件出入場所ニ
かゝわり不申候間、此段御承知と申、猶又御用材見あり場所も
有之候間、山林家別吟味いたし候間御承知と申候、御吟味之儀
先達相済候間、再応被仰聞候儀ニ付先例も無之候間、同役共へ
一応相談、御答可申上旨申答、引取、庄屋共・百姓代呼出無之
事、夫より支度いたし、帰り夕方相成候、夕方庄屋民右衛門届
出候、今日七ツ時頃より草井村渡船留いたし候よし、いつれ此
様子ニて、押かけさかしいたし候と奉存候、承知仕候間御届可
申上候

廿八日

早朝新加納御陣屋より使、急北方役所より駈合之儀有之候間、
御出候様手紙来、尤三役召つれ候様申事ニ候、昨日之様子も有
之ニ付、五ツ時過迄見合候処、草井村堤役人三四拾人見へ申候、
いつれ川原へ罷越候儀と奉存、新加納へ御出御見合被下候様申
ニ付、見合居候処、又候四拾人計役人、鉄包持八九人、前川原
押出し、前渡村百姓不残堤へ罷出候処へ、孫市・祐左衛門罷出
候、庄屋共へ申聞、百姓壱人も堤差置候儀相成不申、差控よく
〳〵と庄屋共へ申聞、もより〳〵家内入候様いたし、庄屋・組
頭・百姓代計いたし、川原へハ案内も出シ不申ニ付、其内堤上
ニ上り候処へ、庄屋共罷出挨拶いたし、庄屋竹右衛門ニて御茶
成共御休被下候様申聞、只今地頭所へ申達候、おし附御出張も
御座候と申候処、庄屋竹右衛門方役人四拾人・鉄包持共皆々罷
越、祐左衛門・孫市駈合、昨日北方御役場ニて御談申置、当方
より御答も不申内御出之儀、相訳り不申候、如何哉相尋候処、
昨夜陣屋より手紙、新加納役場御駈合結（詰カ）ニ相成候趣申越候ニ付、
罷越候、此方へは陣屋役人共よりハ沙汰無之候、今一応北方御
役所ヵ新加納役場へ相尋候迄、御見合被成下候様申候、右ニて
公用・尾州用差支相成候、左候ハヽ隣村へ御廻村と申候処、多
人数之儀ニ付公用差支候間、いつれニも山林家別いたし度申ニ
付、公用と被仰付候間、右之次第庄屋共へ申聞、御案内可申附
と申、別ニ庄屋共呼候て、いつれ右之次第ニ付、案内いたし候
方可然と申聞、夫より廻り吟味相成ニ付、孫市案内可申候様申

附置候間、御案内仕候旨申聞候ハヽ、夫ニハ不及旨達て断申候え共、差出候、祐左衛門儀新加納より罷出、右之次第相噺候処、御行届之御駈合と申、夫より北方御陣屋右ニ付相達候儀、大塚茂市へ申候ハヽ、左候ハヽ駈合行違相成ニ付、陣屋役場より御答之延引相成候段、御断可及候様申聞候よし、請持北方へ罷出候、夫々御念之入候御挨拶、重役共御用向他行ニ付、引取候ハヽ、申達候と申事候

一猶又新加納三役答書付村方有之

三月六日加納安池様御世話ニて為替金之事、手形三井へ向江戸下し、文言左ニ

為替手形一札之事

一金百両也　　但通用金

右は、当地美濃前渡村坪内嘉兵衛様御屋鋪山本祐左衛門殿より為替取組仕候間、御地四ツ谷西念寺横町坪内嘉兵衛様御屋敷山本佐内殿え状着、此手形引替御渡可被下候、為替手形仍て如件

弘化二巳年三月六日　　濃州厚見郡
加納宿
丸井屋
佐　助

江戸堀口三町目
柏　屋　伊　助殿
御店衆中　　外封状壱封添

証文

一金五拾両也　　但金壱両ニ付壱ケ月六分

右は、地頭所急賄被仰付候処、取賄方難行届ニ付御断申立候処、御林上木引当被仰付候ニ付、是非取賄被申付、無余義御貴殿相願申入候処、御聞済被成下、書面之通慥ニ借用申処実正也、返済之儀、来ル十月限ニ元利とも急度返金可致、仮令如何体之儀在之候共、聊違約申間敷、万一地頭所被是御違約在之時は、村方割符仕元立共、此金子ニおゐて少しも延月申間敷、為後日村役連印証仍て如件

弘化二年巳三月　　前渡村
百姓代　清兵衛○
同断　仙右衛門○
組頭　兵四郎○
同断　新左衛門○
庄屋　竹右衛門○
同断　市右衛門○
同断　民右衛門○

阿部市郎兵衛殿

表書之通聊相違無之候以上　　坪内嘉兵衛内
山本祐左衛門○

三月十四日、尾州犬山渡船仕替ニ付、先例之通り願出候ニ付、金百疋遣し

一三月十八日江戸状着、三井より順達左ニ申来ル

一新加納御陣屋より之諸触廻状ニ御知行所村役共調印之儀、一切御差留ニ相成居候、右ハ已来何事ニよらず廻文ニ調印いたし、及順達様被仰渡可被成候、無延引御取計御座候様奉存候、右得

御意度如是御座候、以上

三月五日　　加藤録見
山本左内

加藤辰右衛門様　　松原牧右衛門
山本祐左衛門様
岩塚東九郎様

一信州御初幟り、唐木綿ニて二本、江戸表御出府中ニ付、江戸ニて被仰付遣候、代金弐両三分四匁余、尤染迄入用也、御肴代百疋添

一加納安池様御初幟り、岐阜小坪屋町松本屋喜左衛門方ニて申附、御座敷幟り五本、台一間一尺、立上迄金壱両弐分余相掛り候、鯉一わ添差上

七月廿九日、本郷庄屋共より追々内願候ニ付、車留廻文以剪紙申達候、然は近来村方之内板車多仕立引出シ候処、右ニて道橋等悪敷相成、其上公用ヵ地役等も差支相成候風分も有之、且は仕前等濃(農業カ)行手ぬけニも相成候趣有之、右様ニ心掛候ハヽ、名々安馬ニても飼置、百姓いたし候様いたし度、左候ハヽ仕前等田畑作物出来宜敷、且は見廻見候処、畑方ニても二三ケ所もあらし候所見請置候、折々庄屋共見廻り候ハヽ、一畝之所あらし地出来不申様存候、且は濃行捨置、日々仕外出働居候故事と存候、依て一切車等之儀相止可様(ママ)、小前共一統不曳(洩)様相触置可申もの也

御役所
前渡村
三組庄屋

申渡覚

一村々より差出郡中割え相加え候諸銭、月日無之分は割合相除可申事

一大割之儀其年限り、仕来之通り可致割賦事
　附り、大割支度向壱汁壱菜可限、酒肴一切可為無用、勝手方人足遣ひ申間敷候

一国役御普請有之節は、御納戸ニて壱人惣代、御分知五ケ村・四ケ村ニて同壱人、内分三所ニて同壱人、都合四人ニて可相勤事
　但支筋有之節は、一同相談之上御役所へ申出、差図請可相勤事

一不依何事多分入用相掛候儀は、本家惣代共より御分知弐給・内分三給え申触、不都合筋無之様取計事
　附り、其次第御役所へ申出、可請差図、御分知其外銘々支配え可申達候

一御知行之内村々普請之儀は、先例有之分は格別、新規之儀は一切大割へ差加へ申間敷事

一村々普請井畑方其外見分之儀有之、御役人被致出役候共、村役人之内壱人罷出、可致案内候
但、三役之者不罷出差支之節、出役之者より差図之上罷出可申
一村役人共村用相勤候共、賃金取之候儀堅可為無用事
附り、御役人共同様村役人支度之義は、其次第寄可有用捨事
一村々より新加納庄屋え集会候共、以来急度可為禁酒事
一村々より願筋井呼出ニて御役所へ罷出候共、成丈弁当持参いたし腰掛ニて可致支度事
一御役人共御用筋ニ付郷中へ罷出、支度井宿致候共、馳走ケ間敷儀は勿論、有合候共酒肴一切無用之事
一郡中割へ相抱候割賦帳井書類等、惣代庄屋え相預り、大切ニ可取扱事
一支度料之壱度、以来壱人分銀八分ニ可改事
一万端議定ニ随ひ取計可申、新法之儀決て取扱申間敷候
一諸役等其当座ニ委細帳ニ記置、村々庄屋より大割入分は調出、惣代ニおゐて小帳間違無之様可取計事
右之通り、村々入用減方書面之被仰出候間、申渡候、以上

巳十月

御役所
御知行所
村々庄屋へ

十一月十一日長根山下廻り立木払

覚

一金三拾両　長根山下廻り立木払
右は当月晦日迄手附共三分
此金拾両
内弐両手附請取
十二月廿日限
金弐拾両　皆金
右之通売払申候間、勝手次第御切取可被成候、以上

十一月十一日　山本祐左衛門
就宣（書判）

儀　蔵殿

同所道南、東道筋芳池堀割・西百姓山境迄見通、払山代金拾三両弐分三匁落札之処、壱両まし
都合十四両弐分三匁相成
十一月廿七日庄屋共申届出ル、左ニ
前渡村前河原一件口上おぼへ
巳十一月廿六日八ツ時頃
名古屋御役人
御勘定吟味役頭取高田伊六様御上下十八人計
外　草井村庄屋
案内　弥六
同断　貞助

右之村役人え、私共四人場所え参り相尋申候儀、何れ之御役人様方、御姓名井此処度々御見分有之ニ付、如何之思召哉と、庄屋貞助を以右御役人様え伺被下度由申候処、川通りとこでも見分致スと被仰候間、此段御届ケ奉申上候、以上

巳十一月廿七日　右衛門
市右衛門
竹右衛門
新左衛門

御地頭所
御役所

村入組ニ付御出府之節、竹右衛門・民右衛門・兵四郎・新左衛門御用立申候金子、今度改一口、鵜沼宿ニて借入候ニ付、証文仕替、五拾三両四匁弐分之処は銀勘定いたし、改五拾三両相成

三拾三両　鵜沼宿河内屋柳蔵
弐拾両　少林寺

今度鵜沼宿借入証文左ニ

借用申金子証文之事

一金三拾三両ハ
右は、御地頭所要用金ニ差詰り申ニ付、書面金子慥借用申所実正也、此質物ニ御地頭所御林矢熊山井神明山、右弐ケ所之処書入置申候、返金之儀は来午霜月限り、元利共急度御勘定可申候、若シ限月ニ相成聊ニても相滞候ハヽ、右御林木伐払代金ヲ以、元利共御勘定可仕候、為後日証文仍て如件

弘化二年巳十二月　前渡村
借主庄屋
民右衛門
鵜沼宿
河内屋
柳　蔵殿
市右衛門
竹右衛門

表書之通り相違無御座候、以上

坪内嘉兵衛内
山本祐左衛門印

（表紙）
「
弘化三丙午記録
御用所
」

弘化三丙午年

一尾州鎰丸様御家督弘化二（年脱カ）十二月十八日御祝書返事平島より正月六日届

一鎰丸様御官位之事

一三月去巳二月木曽川流材ニ付其節北方掛合并新加納今般認メ出し書付留

一三月十九日、午三月十七日木曽川出水尾州方御役人廻村御吟味之儀新加納より廻文三井より願達

一三月より安池様御綸子御頼引渡書附差出し候事

一御陣屋へ御先祖様御法事ニ付届之事

一博奕定之事并三組惣代請印之事

一北島流材一件之事

一七兵衛不埒ニ付平百姓ニ被仰付之事

一村方より新加納御陣屋へ差出候高書付覚

一五月十日尾州様御官位御祝書之事

一加納安池様御引合ニて同所町糀屋嘉兵衛・丸井屋佐助遣ス書付収納引当之事

一新加納小普請金大割御役助金差出候十一月十日

一三月朔日今尾愛平殿より手紙、申談度儀有之候間祐左衛門罷出候様申来候処、勢州罷出候ニ付、二日孫市罷出候処、去巳二月木曽川出水ニ付、尾州江戸御屋敷御留守居より伊豆守様於御殿御談有之ニ付、再応去巳二月掛合口取調差出候様申来候ニ付、早々取調差出様申事候処、答、祐左衛門他行候間引取迄日延引いたし置候、右ニ付、勢州より引取同八日夕方、十日取調、十二月（日カ）庄屋共惣代召つれ御陣屋罷出候、猶又桃春院より書附・新加納御陣屋ニて相尋候趣取調書付差出候様申事ニ付、十三日申渡、直ニ別紙之通り調候て、庄屋竹右衛門・村惣代罷出候間為持遣ス

十二日罷出候覚

庄屋　竹右衛門
百姓代　勝右衛門
山東　新兵衛
治右衛門

御尋ニ付申上候書付

口上覚

一二月廿七日木曽川通流材御改ニ付御尋之趣左ニ申上候

一私共御駈合申上候始末、廿七日北方御役場ニ罷出候節、先般申達候通り駈合仕候内、先方今度被御申立候儀、坪内嘉兵衛家来より御用材御改之儀御断可申上旨、御掛合仕候趣被仰聞候ニ付、猶又御答可申上候旨被仰付候ニ付、申上候、同月廿八日尾州北方御役所より御出役有之ニ付、前々より御用材御改之節庄屋共え被　仰遣、御案内申上候儀先例ニ有之候処、今般ニ限、前渡村前河原之内御勝手御吟味有之候ニ付、右之段村役人共より相達候間、私共罷出、一通相尋申候処、新加納御役所え御掛合詰之上前渡村え廻村いたし候儀、兼て御承知可有之儀旨被申聞候間、今以新加納役場より何等之沙汰も無之候、且又、今般前渡村ニ限り御吟味相成候儀哉相尋候処、坪内御知行之内一統之吟味可仕旨被申聞候ニ付、主人嘉兵衛儀江戸表出府中之儀候間、御用之筋御差支ニハ不仕候故、新加納陣屋并北方御役所え昨日之御掛合之筋も有之候間、一応申達候迄隣村え御廻村有之候様申候処、多人数罷出候儀ニ付、左様ニては　御用差支ニ相成候趣被御申聞候ニ付、右之趣庄屋共え申聞候間、御休足御座候様申置、村役人呼寄、御掛合済ニ相成ニ付心得違不致様申附、御案内為致候儀ニ御座候、尤先例ニハ無之候え共、御先柄故、若シ百姓共之内心得違仕候者共有之候ては、何共恐入儀ト相心得、家来之内壱人御案内為致候儀ニ御座候

一神谷与八郎殿被申達有之候段尋候処、猶又当方ニても相糺候処、先般三役印紙を以差上申置候通相違無之段申聞候

一壱間九寸方五　一本

右は前渡村下切境ニ有之、乱心之老女壱人り者ニて候間相分不申候、右之段御出役中え庄屋共より委細申上置候

一切木御答

新博　壱丁

壱間尺方五　一本

右は下切前河原四郎右衛門支配御林之内有之、御案内之儀四郎右衛門頼ニ付、前渡村より御案内申候儀ニ御座候

前書之通り取調候間奉申上候、以上

午三月　坪内嘉兵衛家来
山本祐左衛門印

新加納
御役所

桃春院御尋ニ付差出候書附

御尋ニ付申上候口上之覚

一拙院儀、入院披露ニ付、巳二月廿六日より八日迄三日之間、法用相行申候、尤薬師如来前開扉仕為拝礼、右法用之間読経之節々半鐘打申候、右は此度御尋ニ付、御請書之通り相違無御座候、以上

弘化三年午三月　前渡村
桃春院〇

新加納
御役所

差上申一札之事

一御地頭所御勝手向月々御入用差支ニ付、御取替被成下置候様奉願候処、御承知被成下置候ニ付、御物成は不及申、小物成ニ至迄、相納候分は御引渡ニ相成候間、右ニて年々元利御引去り、御勘定御仕立可被成下候、且又豊凶共過不足之儀は、平均ニ御取計之段奉願候、右取極一札奉差上候、以上

坪内嘉兵衛知行所
各務郡前渡村

弘化三午年三月

百姓惣代
山東　利兵衛
与頭　和右衛門
同断　新左衛門
庄屋　兵四郎
同断　民右衛門
同断　市右衛門
竹右衛門

安池新八郎様
御家来衆様

右之通相違無御座候ニ付、奥印形仕候

坪内嘉兵衛家来
山本左内
山本祐左衛門

新加納御陣屋より大割上納儀申来候、左ニ

山本祐左衛門様　今尾計之助

覚

一銀七百九拾壱匁三分四厘
右は郡中大割幷御割合もの
一同五拾四匁七分五厘
右は上中屋村天神宮囲垣御入用元利御高当
〆八百四拾六匁九厘
内
銀八拾八匁六分七厘
右天神宮境内倒木御払代金元利御割当
差引七百五拾七匁四分弐厘
右は、当大割幷御割合もの書面差引之通、御主人御高懸り御出金分ニ御座候、仍て当月晦日限御出金可被成候、以上
午三月廿四日
一新加納御陣屋へ届候儀左ニ
口上之覚
此度先祖弐百回忌当十四日正当ニ付、法事執行候之所、山本祐左衛門・宮川孫市此節差控申付候故、遠忌之事御座候故、山本左内御咎中ニは御座候え共、最五十日余日ニも相成候故、当日仏参為致申度奉存候間、何卒右之儀御含被置候様致度、如何ニて御座候哉、此段使を以御相談申進度、各様御勘考御取扱頼入

候、以上

四月十日　坪内杢太郎使
長瀬弥作

右之趣相届候処、江戸表ニて被仰付候間、当御陣屋ニて聞済候儀取計難行届候段申来ル、仍て取持居相成不申候
四月十二日博奕心得違無之様申渡、惣代請印之事

御請奉申上候事

情々被仰渡候御法度之博奕之儀、若心得違仕候者、左之通り被仰付候趣、改被仰付奉畏、惣代を以御請奉差上候
一博奕宿いたし候隣之者共は　過料　壱貫文ツ、
一組合之者共は　過料　五百文ツ、
一博奕いたし候者共は片鬢髪剃申候事
右之趣被仰渡、一同承知奉畏候、依て御請奉差上候、以上

山東方惣代
九郎右衛門〇
新右衛門〇
本郷方惣代
万右衛門〇
勝右衛門〇
治左衛門〇
利右衛門〇
与頭
兵四郎
民右衛門〇
市右衛門〇
竹右衛門〇
山東方与頭
新左衛門〇

弘化三午年四月

御地頭所
御役人中様
御請奉申上候事

昨夜為御見廻御役人様方、私宅ニて人声多仕候ニ付、為御吟味御入候所、左之品々有之候

骰子　弐ツ
碁子板　百廿弐枚
箱　壱ツ
布風呂敷　壱ツ
木綿風呂敷　壱ツ
銭百九拾壱文
蠟燭　三丁

右之品々御座候ニ付、人数等厳敷御吟味有之候え共、私は勿論、妻共頼母子講（子脱カ）御座候ニ付、右方え取持参り居候て、右人数之内、雨天ニ付下宿いたし呉候様申遣し候計ニて、人数名前等は一向不存、猶又不残逃失候故相不弁候て恐入候、依之為御咎戸〆被仰付、奉畏候て御請奉申上候、以上

弘化三午年四月　又右衛門〇

同人親類　重左衛門
仙右衛門〇　九郎次
同人組合　惣九郎
文　蔵〇　万右衛門
山東方　忠三郎
組頭　新左衛門〇　定右衛門
庄屋　民右衛門〇
与頭　新左衛門

御地頭所
御役人中様
御請奉申上候事

当五日流木為御吟味　尾州様御役人衆中御出、家内御吟味有之候所、左之品々御座候

一　檜弐間より九尺迄挽板　七枚
一　五尺計突折　壱枚
一　四分板九寸巾　六枚

右之始末言語同断之事候、勿論与頭も相勤候身分之者、不埒不都合之次第、依之為咎メ戸〆申付候
右之段恐入御請奉申上候、以上

弘化三午年四月　山東方北島
与頭　新左衛門
庄屋差添人兼　民右衛門

御地頭所
御役人中様
御請奉申上候事

当五日流木為御吟味　尾州様御役人衆中様御出、私共家内御吟味有之候所、左之品御座候

一　四尺計挽物　三枚　重左衛門
一　弐間挽割物　壱枚　惣九郎
一　桶木取弐束物数廿四本　忠三郎

右之始末不埒之次第、依之為咎手錠申付候、
右之段恐入御請奉申上候、以上

弘化三午年四月　同人親類　重左衛門
同人親類　九郎次
同人親類　惣九郎
同人親類　万右衛門
同人親類　忠三郎
庄屋　定右衛門
民右衛門

御地頭所
御役人中様

永井勝之助

其方分家当時七兵衛儀、不都合之儀有之候ニ付思召有之、七兵衛名前引上ケ、家来壱本紙引揚、平百姓・御門留被仰付候、此旨相心得可申候

四月十三日　永井七兵衛

其方不行届儀有之、不都合次第ニ付、名前引揚、家来壱本紙引上ケ平百性、御門留申付候

四月十三日

一　五月五日新加納御陣屋へ差出候高書付之事

覚

一　高六百石
　内廿八石四斗七升六合
外ニ
　出高廿弐石七斗五升四合
一　字矢熊山
一　同長根山
一　同荒井山
一　同神明山
　高山四ケ所
一　前河原壱ケ所

右之通相違無御座候、以上

弘化三年午五月五日　前渡村

庄屋　民右衛門印
与頭　兵四郎印

御役所

一　加納安池様御引合ニて、同所町糀屋嘉兵衛・丸井屋佐助遣ス置候書付、左ニ

覚

一　米弐百石也　但五斗入
　此俵四百俵也

右は主人嘉兵衛収納米之内、御差図次第、来ル十一月加納町糀屋嘉兵衛殿・丸井屋佐助殿え為附払可申旨、知行所えも申渡置候之間、為後日一札差上ケ置申処如件

弘化三丙午年六月　坪内嘉兵衛家来
宮川孫市印
山本祐左衛門印
山本左内印

安池新八郎殿

十月十日新加納御陣屋へ、左之通り割合物出金ニ付弥作遣ス、尤、大割何々相掛り候哉問合候処、別紙小訳認メ来ル

覚

一　金六両　小普請金
一　金八両　御役金

一 金拾弐両弐分七匁四分弐り　大割御出分
〆金弐拾六両弐分七匁四分弐り
右之通被　成御差出、慥請取之申候、以上
午十一月十日　河田唯右衛門印
坪内嘉兵衛殿
覚
一 銀八貫七百六拾匁弐分壱り　堤通御普請半当御出分
一 銀百廿七匁五分弐り　用水御普請三分一御出金
一 銀拾八匁四分三り　（両ニ七斗かへ）山脇村池支地米
弐斗壱升五合代
一 銀拾九匁三り　（両ニ七斗かへ）無動寺村仮井溝敷地米
弐斗弐升弐合代
〆銀八貫九百六拾八匁五分弐り
内
七百九拾壱匁三分四り　御壱ケ所分
右之通、仕訳書付新加納御陣屋ニて相渡候ニ付留置、尤本紙江戸御出府中ニ付相廻し、差引八り代九文弥作請取帰り、平島岩塚銖輔殿同道候也、釣り九文月次入

一 二月十四日丸井屋佐助より江戸御入用為替手形之事
一 正月より一ケ年御物成西川佐助・糀屋嘉兵衛引請御勝手向世話いたし候事
一 四月十日大風ニ付村方崩れ候者共へ御手当
一 加納御家老中より大風見舞白木状箱
一 加納・大垣・犬山大風御見舞状遣し事
一 犬山御城代御用人中より見舞井返事来ル
一 安池様江戸御供ニ付餞別として金百疋遣ス事
一 五月十四日永井様御参府ニ付御馳走御使者御断之事
一 十一月十一日江戸表御発足之由先触来ル事
一 同十四日御着為知之事
一 加納西川佐助・糀屋忠兵衛（ママ）当末月次仕送り猶又証文ニいたし来申三月返金筈ニて手形入候事
二月十四日丸井屋佐助より江戸表へ為替手形留
為替手形之事
一 金拾両也　但シ通用金

（表紙）
「
弘化四丁未記録
御用部屋
」

右は、此度御地四ツ屋西念寺横町坪内嘉兵衛様御屋敷山本吉蔵様え於当地ニ為替取組、右替金慥ニ受取申候間、此手形引替御渡し可被下候、為替手形仍て如件
未二月十四日　美濃加納宿　丸井屋　佐　助印
江戸神田通新石町
美濃屋和助殿
右は添書壱通添
為替手形之事
一 金拾両也　但シ通用金
右は、此度御地四ツ屋西念寺横町坪内嘉兵衛様御屋敷山本吉蔵様え於当地ニ為替取組、右替金慥ニ受取申候間、此手形と引替ニ御渡し可被下候様、為替手形依て如件
未二月十四日　美濃加納宿　丸井屋　佐　助印
江戸神田多町
伊勢屋伊助殿
右手紙添
今度二ケ所ニて〆金弐拾両、丸井屋佐助より為替取組、江戸御入用出金ニ相成候、二月十五日出ス
覚
一 米弐百五拾石　但五斗入
此俵三百俵也
右は、主人嘉兵衛収納米之内、御差図次第、来ル十一月加納町糀屋嘉兵衛殿・西川佐助殿え為附払可申旨、知行所えも申渡置候之間、為後日一札差上ケ置申処如件
弘化四『未年正月　坪内嘉兵衛家来　山本祐左衛門印　山本佐内印
西川佐助殿
糀屋嘉兵衛殿
金子借用証文之事
一 金百三拾五両也
右は勝手方要用ニ付借用申候処実正也、右返済之儀は、当未之物成を以元利共十一月限勘定可申候、依て為後証借用証文如件
弘化四未年正月　坪内嘉兵衛家来　山本祐左衛門印　山本佐内印
西川佐助殿　此手形仕替ニいたし相渡ス
糀屋嘉兵衛殿　申年借分ニ相成候
御頼申一札之事
此度主人出府永逗留ニ付、臨時物入多故、別段御頼申候、右江戸表逗留入用之儀臨時事故御頼申候事故、主人帰邑次第、右入用御出金被下候分は、元利共御勘定申候間、何卒臨時入用之分

は御出金被下候様奉願候、依て差入願一札如件

弘化四未年正月　　坪内嘉兵衛家来
山本祐左衛門印
山本佐内印

西川佐助殿
糀屋嘉兵衛殿

一四月十日大風ニ付、村方住居家崩れ家名前
右之者共へ御手当として金弐朱ツヽ被下候、組々庄屋より書附
を以届出候
人別覚

金弐朱　本郷方　弥七　　金弐朱　十四株　勘三郎後家
金弐朱　七右衛門　　金弐朱　同断　利平後家
金弐朱　亀右衛門　　金弐朱　山東方　柳蔵
金弐朱　兵左衛門
金弐朱　領右衛門　　〆金壱両弐朱
金弐朱　次兵衛

右之通り御手当被下置候ニ付、庄屋供(共)呼出し相渡、夫より名々
御台所迄御礼申上候

戌四月十八日

十一月十三日夜鵜沼宿問屋定兵衛方御泊りニて、十四日八ツ時
御着ニ相成筈ニて、夜之内表道具問屋定兵衛方へ送り、御行列
左ニ

御知行所内はつび
御先払弥右衛門
同　勝右衛門　　御具足　釣はつび　小兵衛　　宰領　組はつび　田中孫六　大小
孫右衛門
尻籠　羽織　大小　吉右衛門　　黒羽織　御徒士　土堀藤兵衛
同　御カ羽持丹羽敬助　　御道具　文左衛門　大小
足立磯右衛門
長瀬弥作
同　久米五郎　　陸尺　和右衛門
御駕籠　佐右衛門　　御草履　奥右衛門
林左衛門　　御長柄傘　五左衛門
宮川敬治郎　民右衛門
御扶箱　治左衛門　御口又右衛門
同　治平　御口金左衛門　御率馬　沓籠彦七
合羽籠　千左衛門はつび　押足立　九右衛門　若党　甲中庄兵衛
山本泰造
駕籠人足　三左衛門　金遣　安蔵
三左衛門　草履喜平　両掛ケ二荷御召替御冬具足
伊右衛門
乗掛馬　乗掛馬　駄荷馬　駄荷馬
若党　松波利兵衛　利蔵
山本左内　駕籠人足　八蔵　草履取　久助
惣七

若殿様御先乗御馬行例(ママ)

御口佐兵衛　御勝之助　御道具　御箱
御口喜十郎　御馬　半左衛門　御長柄傘　御草履取　沓籠

一鵜沼宿御入用覚

一五拾八匁八分　六分札九拾八枚　支度〆
一三拾匁六分　九分札三拾四枚　同断
一拾匁弐分　六分札拾七枚
一弐拾匁　御泊り　御上下様拾人分
〆百拾九匁六分
一金壱両三分　御泊り　御膳分・御酒肴代〆惣〆金三
両三分払
外　金壱分　定式御茶代遣し
今般若殿様御出ニ付、定例百疋之処、今度弐百疋取計

御着御祝儀覚

一大鯛壱枚　小島市兵衛
一大鯛二枚　中野　忠左衛門
一たこ一はい　苅谷春貞
一名酒壱坪　小網村　苅谷貞助
一たま子十二　弥作
一酒五升　安池様
重詰一組

一酒四升　（左内・祐左衛門
孫市・勝之助）
一酒壱升　久昌寺
一酒壱升　妙知庵
一酒壱升　喜十郎
一小菊一束　カノ　西川左助
一扇子箱台付　五本入　糀屋嘉六
一酒三升　利兵衛
庄兵衛
新七

一とうふ十丁　鹿子島　藤右衛門
一酒弐升　須賀与右衛門
一酒弐升　小網村　直右衛門
定蔵
一酒弐升　門右衛門
一酒壱升　カノ　甚平
一酒壱升　丸川清助　下切畳屋
一たこ　助右衛門
一酒弐升　常貞寺

一名酒一坪　山東　く　よ
一酒五升　村役人
一酒弐升　三井様
するめ七枚

一酒弐升　加藤辰右衛門
田上代助

一名酒壱壺　鶴沼立花や　亘
一長芋　長瀬勘六
一酒弐升　松本　市四郎
一酒壱升　吉祥院
一とうふ八丁　村　左衛門
一酒壱升　村　左兵衛
一そは切　村瀬半左衛門
一そは切　安中弁治
一まん重う　永井内　安　よ
一大半紙一束　山名　天神
一海老十　平島様
一酒切手　岩塚銖助
一酒弐升　二軒屋　徳兵衛
一酒弐升　松本　弥吉
一人しん一わ　熊田　吉兵衛
一白さとう箱　少林寺

一名酒一坪　村　勘六
一そは切　鶴沼　源左衛門
一名酒一坪　玉泉院

借用申金子之事

一金百両

右は、未年月並臨時用等調達被下候所、当冬主人帰邑ニ風難等臨時入用多ニ付、当冬勘定之儀延年相頼申候所、御承知被下候上は、来春早々切替仕法相立候上、三月晦日迄ニ右之金子元利共急度御勘定可申候、為其依て如件

弘化四未年十二月　坪内嘉兵衛家来
山本祐左衛門印
山本　左　内印

西川左助殿
糀屋嘉兵衛殿

金子借用証文之事

一金百三拾五両也

右は勝手方要用ニ付借用申候処実正也、右返済之義は、当申年之物成を以元利共十一月限勘定可申候、依て為後証借用証文如件

弘化五申年正月　坪内嘉兵衛家来
山本祐左衛門印
山本　左　内印

西川左助殿

糀屋嘉兵衛殿

杉原

一筆致啓上候、寒冷之節御座候え共弥御安泰被成御座、珍重御儀奉存候、然は先般出府中ハ不相替御懇意被成下忝奉存候、木曽路道中無恙当月十四日致帰着候、右御礼申上度、以愚札如斯御座候、恐惶謹言

十一月廿日　坪内嘉兵衛
御判

則別紙也

坪内帯刀様
坪内遜譲様
石谷鉄之丞様
佐枝将監様

中参書

一筆啓上仕候、寒冷之節御座候え共、先以　隼人正様益御勇健被為成御座、恐慶之御儀奉存候、然は先般出府中段々御懇意被成下、難有仕合奉存候、右御礼申上度、各様迄呈愚札、御序之刻可然御執成被下候様奉願候、恐惶謹言

十一月廿日　坪内嘉兵衛
御判

奥用人　二宮半右衛門様

借用申金子之事

一金百両也

右は未年月並ニ臨時用等調達被下候処、当冬主人帰邑ニ風難臨時用多ニ付、当冬勘定之義延年御頼申候処、御承知被下候上は、右為引当下屋敷林壱ヶ所来春売払代金を以、三月晦日迄ニ右金子元利共急度御勘定可申候、為其仍て如件

弘化四未年十二月　坪内嘉兵衛家来
山本祐左衛門印
山本左内印

西川左助殿
糀屋嘉兵衛殿

証文

一金六拾両也　但金壱両ニ付壱ヶ月銀六分ツヽ

右は村方仕払金差支申候ニ付、御願申上候処、殿様御囲金之内ヲ以書面之通御貸渡被成下、慥ニ借用仕候処実正也、為此質物村役人不残家屋敷書入置申候、返済之儀来ル申四月限り、元利共急度返済可仕候、若一村役人共不都合筋申立候ハヽ表印私へ引請、其御元へ正金ヲ以勘定可仕候、其砌ニ至質品等押付ヶ間敷儀一切申間敷、為後日証文仍て如件

前渡村借主
組頭兵四郎印
同断新左衛門印
庄屋民右衛門印

弘化四丁未年十二月　日

同断竹右衛門印
同断市右衛門印

小島市之丞（ママ）殿

表書之通り相違無御座候、仍之裏印仕申候、以上

坪内嘉兵衛内
山本祐左衛門

覚

一　金拾四両也　　御役金・小普請金共

右は書面之通御差出被成、慥ニ請取申候、以上

弘化四未十一月九日　　河田唯右衛門

坪内嘉兵衛殿
宮川桂治郎様

右、去冬金子御陣屋差出し置候処、申二月廿二日猶又去冬小普請金請取書付持参候様、小島氏より手紙来り候間、祐左衛門罷出候処、則小普請金御戻相成候て、猶又御役助金之請取来ル、申記録印置候

覚

一　金拾両三分弐朱　　但六月御上納分

右は御役金并高役金御滞年済分、書面之通り被成御差出、慥ニ受取申候、以上

今尾周右衛門印

申七月七日

通勤無印
小島市兵衛

山本祐左衛門　　河田唯右衛門

当年より三ケ年、六月半当・十二月半当、戌年迄相済也

（表紙）
「
弘化五戊申年記録
嘉永十三月十五日改元
御用所
」

一　東海道・中仙道割増御触之事
一　御本家中間奉公之事
一　大割取（兩カ）解申年より改被仰渡（ママ）し之事
一　正月廿五日犬山町方出火之事
一　一月廿二日去冬御役助金・小普請金請取書替之事
　并天神宮倒木代金割合金請取書付御陣屋へ差出候、尤去冬十二月廿七日附出ス
一　村方紋右衛門後家困窮ニ付御手当被下之事
一　三井表より高木求馬様御妹御縁組之処今般御破談江戸表へ御届書一件
一　当村諦定後家ミちよ下切村伊兵衛へ方（ママ）へ送り一札遣ス事
一　三月十五日三井様え高木求馬様御妹今般御縁組御破談ニ付御届書返事小松氏より来ル事
一　国役御普請弁金江戸表御懸合一件返書之事
一　前々之通り御上席之儀被仰越候事并御礼書之事
一　金三郎様右御上席之儀御案内江戸表より申来ル事
一　御先祖総栄院様弐百回忌御法事御本家様之立候返書之事
一　国役御普請弁金御懸合一件御状御差出し之事
一　小松藤兵衛殿より国役御普請之儀ニ付来書之事
一　平島様え御本家御家老より来状御見せ之事
一　巳年御普請弁金巨細帳一覧答手紙御陣屋遣し手紙
一　中仙道賃銭割増之事
一　加納様御在府ニ付御用人中より為知之手紙、附たり御返書之事
一　小松藤兵衛殿より平島様へ御懸合手紙留
一　十月十六日「　」御出産男子様御届書之事、
　并三井・平島様「　」之事、村方・寺院・御家来へ御触之事
一　欽治郎様御七夜ニ付御内祝之事
一　三井様江戸御着ニ付御祝儀御使者御進物之事
一　役（国カ）役御普請出金之儀御陣屋より申来ル事
一　欽治郎様御社御参詣之事
一　伊勢御遷宮寄附之儀頼手紙

新加納より触書左ニ

一　江戸御中間近年心得違之もの共数多有之、御屋敷勤中出奔いたし候、右は不埒ニ付、是迄之通り村方除帳急度申付候上、人代り被　仰付候、且亦壱ケ年無滞御奉公相勤、帰村被　仰付江戸出立後、道中如何之義有之、日数百ケ日相立候ても御

陣屋え着届不申出候もの共ハ、御給金立金申付、六ヶ月相立候ても帰村不致候ハヽ、村方除帳申付て、右立金上納候ハヽ、其金請、村役人え預ケ置、追て家業出請、親ニ孝を尽し候ものへ御褒美、又ハ巨細有之御救等ニ御取計可相成事

一帰村御中間是迄直ニ御陣屋え着届罷出候処、心得違之もの共有之趣ニ候間、向後ハ其村方え着、翌日村役人相添、荷符添状等相納可申事、無謂代人等差出候ハヽ、当人ハ勿論、村役人迄急度可申付候事

申正月

三井より来状左ニ

以手紙致啓上候、然は去十二月廿九日小松藤兵衛殿より、別紙之通為御心得捨太郎え被相達候、尤御両所様えも為御心得御順達被成候様との事ニ御座候間、御落手被下、可然御達可被下候、此段宜得御意候様、江戸表より被申付越候条、如是御座候、以上

正月廿三日　　加藤辰右衛門

岩　塚　銖　輔様

山本祐左衛門様

惣代庄屋其外村役人之分え申渡

大割銀并川筋御普請(弁カ)并金高近来銀高相嵩候由、右は御普請其外共、実事之入用ニ候えは、仮合多分相掛候共無余儀次第ニ候え共、右之内雑用と相唱候分、銀高追々相増候趣、右は其場之飲食或は音物等ニ遣払候筋ニて、村割ニ致し、別て敷村えは多分割合相掛、村々令難渋候由相聞、甚不宜次第、不取締之事ニ候、向後雑用之分不残相省、差定候時刻之食事も、古来規定之銀高を以相賄、御普請場所其外共、於場所は時刻之食事之外、音物筋之儀は勿論、都て臨時之飲食は厳敷相止可申候、向後村役共厚申合、大割銀其外共、来申年より減方際立相顕候様可取計候、若不相改候は、惣代庄屋は勿論、其外村役人共えも急度可申付候事

未十二月

覚　此訳六両申二月廿二日祐左衛門

小普請金相当り分請取尤冬之分也

一金八両也　　御役金

右は書面之通御差出被成慥ニ請取之候、以上

弘化四未十一月九日　　河田唯右衛門印

山本祐左衛門様

一二月廿八日百姓紋右衛門後家へ、困窮ニ付白米弐升・麦壱斗被下之事、尤御礼申上候

猶以、本文之趣御出府中申上置候え共、為念猶又申上置候、左様御承知可被下候、以上

一筆啓上仕候、追日暖和罷成候え共弥御勇健被成御座、珍重之御儀奉存候、然は御手前様方御席順之儀、御出府中も申上置候通、当時之所は先別紙之通御心得可被成候、何れ其内御順も相直り可申候え共、先御心得迄ニ猶又申上置候、左様御承知可被下候、乍略儀此段一紙を以申上置候、右段御用捨可被下候、猶後便万々可申上候、恐惶謹言

小松藤兵衛

坪内金三郎様

坪内嘉兵衛様

別紙

当時之御席順

坪内金三郎様

坪内嘉兵衛様

坪内捨太郎様

右之通り御座候、以上

外ニ小松藤兵衛殿え之御返事文言

——然は去ル巳年国役御普請諸雑用弁金之儀、不納ニ付御催促被下、一通御尤ニ奉存候、全難渋申立不納申ニは無御座、国役御普請弁金之儀は大割諸夫銭ト事替り、天保六未年国役御普請之節弁金八百両余も不足ニ相成、右一条ニ付天保十四年卯九月中寺社御奉行所出願、御吟味中御利解も有之、其節内済ト相成、此以来御普請之節は取締り方急度可被仰付趣も有之、旁以巳年国役弁金入用帳一見之上出金仕度旨申出候、此段新加納割元七右衛門方へ知行所庄屋共より申入候処、右帳面は御陣屋ニ有之候間、御陣屋へ願候様被申聞候、依之御陣屋へ願出候えは、割元惣代方ニ有之候趣被申聞候由、兎角不定之儀ニ御座候、私共知行所庄屋并拙者共へも入用帳見セ候様被仰渡可被下候、左様之上は上下共疑惑も無之、違約ト申ニも無御座、早々出金可致儀ニ御座ト奉存候、此段不悪御聞取之上、何分〳〵宜御頼申候、以上

月日　　御両名

小松藤兵衛様

六月廿四日江戸御本家様より来着ニ付御陣屋より為持来

以手紙啓上仕候、向暑之節御座候え共益御機嫌克被成御座、恐悦御儀奉存候、然は先達中御懸合申上候大割一条之儀ニ付、今般貴答被仰下候御紙上之趣、一々具ニ承知仕候、則被仰下候趣を以伊豆守様え申上候処、委細ニ被成御承知候間、左様御承知可被下候、先ツ右ニて大割一条之義は事済ニ相成、出私(於カ)も大慶奉存候

一巳年国役御普請弁金只今以御不納ニ候、御出銀之儀藤兵衛申上候処、右は大割之事替り、公儀国役御普請之節弁金多分相懸り、御銘々御知行所より彼是数度申出候義も有之、右ニ付ては疑惑之義も有之候ニ付、右巨細帳一見之上出銀仕度旨申出候間、其段藤兵衛方へも被仰越之趣、一々承知仕候、右之趣も委

敷申上候処、是又被成承知候、右ニ付巨細帳懸御目ニ申候様、
此度御陣屋へも申遣候間、定て懸御目申上候義と奉存候間、御
一覧相済候上ハ早々御出銀被下候様仕度奉存候、何事も御取締
専一、其上御双方御和順ニ相治り申候様仕度義と奉存候、右申
上候趣ハ御内々相伺之上申上候義ニ御座候間、左様御承知被下
候様奉存候、右は今般貴答被仰下候ニ付、御再答迄申上度如此
御座候、以上

六月五日　　彦坂善左衛門

坪内嘉兵衛様

尚以、当年は兎角不同之時候御座候間、折角御厭被遊候様奉存
候、兎角御不旨過申上候間、御機嫌をも奉伺不申段、高罪御仁
免被成下候、且又本文国役弁金一条之儀ハ、巨細帳御見申上候
様申遣候之間、左様思召可被成下候、大割一条之義は私義も彼
是心配仕候之処、先ツ〳〵事済相成候間奉大悦候、呉々も御不
旨申上候段御仁免被下候、何ニても当表へ御用向も被為在候
ハヽ、無御遠慮被仰付候様仕度、余は猶其内万端申上度奉存候
猶以、金三郎殿・捨太郎殿えも及御達候、左様御承知可被下
候、以上

一筆啓上仕候、然は御手前様御儀、前々之通金三郎殿・捨太郎
殿へ之上席被申付候間、別紙書付を以被申達候、此段可得貴意
旨、伊豆守殿被申付、如此御座候、恐惶謹言

六月五日　　小松藤兵衛
資宜（花押）

坪内嘉兵衛様

別紙奉書半切左ニ認メ有之

坪内嘉兵衛

前々之通、同性　金三郎・捨太郎え上席申付候

申六月

六五日左内平島様ニ暑中御見舞罷出候ニ付、右御手紙御見せニ
相成候ハヽ、猶又当殿様へも御見せニ相成候
一筆啓上仕候、然は御同姓嘉兵衛殿義、前々之通御手前様・捨
太郎殿之上席被申付候、尤兼て御内願も有之旁以被申付候、此
段為御承知可得貴意旨、伊豆守殿被申付如此御座候、恐惶謹言

六月五日　　小松藤兵衛
資宜（花押）

坪内金三郎様

猶以、捨太郎殿ニは御勤番中ニ付、別段御達申候、以上
貴札拝見仕候、被仰（知カ）薄暑御座候え共弥御勇健被成御座、珍重御
儀奉存候、然は来ル十四日御元祖総栄院様二百回御忌御相当に
付、御執行被成候旨、右ハ常林院殿御兄弟ニ御座候間、御陣屋
え御案内被仰入候上、御代香之儀も取扱候様御頼被成候間、可
然取計可申御紙面之趣、承知仕候、御先例之儀ニ御座候間、定
て御代香差出候心得ニ可有之旨奉存候、猶申越候ハヽ、右取計可
申候、右貴話（報カ）可得貴意如此ニ御座候、以上

五月　　小松藤兵衛

坪内嘉兵衛様
貴報

九月廿二日三井様御状江戸表より御差出之処、平島様より封之まゝ、
当方へ、松原・岩塚書状添送り相成候、当方ニて御開封也、左内

坪内嘉兵衛様
坪内金三郎様　坪内捨太郎

御剪紙致拝見候、秋冷之節御座候え共弥御安泰可被成御座、珍
重之御儀奉存候、然は拙者縁談願ニ付、御添書之儀相願候処、
先般より追々留主居之者え御尋有之、其節御答申上置候処、猶
又御尋被仰下ニは、弥山村善七郎娘と相認候哉、甚兵衛養女ニ
致候て之願候哉、右之段御分り被成がたくニ付、聢之事相分り
候ハヽ早速御添書御差出し被下趣、承知仕候、右は山村善七郎
娘ニ相違無御座候間、甚兵衛養女ニハ致不申候、弥善七郎娘ニ
相認メ願書差出可申候間、願面之趣左ニ申上候

奉願覚

信州福島住居
山村甚兵衛叔父
山村善七郎娘
坪内捨太郎妻

右之通私シ妻ニ縁組仕度奉願候、以上

月日　　坪内捨太郎印

坪　伊豆守殿

右之趣相認メ、願書差出し可申と奉存候、右御問合セ被仰下候
ニ付、御答得御意度、何分先例之通御添書早々御差出可被下候、
奉願候、御報旁如此御座候、以上

九月十日　　坪内捨太郎

坪内嘉兵衛様
坪内金三郎様

右返書

九月十日附御紙面、同十七日相届致拝見候、秋冷之砌弥御堅勝
被成御勤、珍重奉存候、然は金三郎当秋勤番、当前ニ可致出府
之儀、持病之疳症相発不相勝候ニ付、勤番之義今一ケ年捨太郎
相頼度旨申遣し候ニ付、依て如何可致哉之段同人申立候ニ付、
藤兵衛殿ヵ御用人中御評儀御座候処、右ハ不容易義ニ付、御伺
被成候方可然と藤兵衛殿より御伺ニ相成候処、勤番之儀ハ兼て
承知之通、御老若様方へ被仰上候て、一ケ年ツヽ勤番之規定相
立候上ハ、仮令重病候とも交代時節ニ相成候えハ、何様之手当
候ても期月ニハ可致出府候、前文之通頼合等申遣し候ては全私
事之様ニ相成、規定相崩不相済義ニ付、不快候とも押候て可致
出府候様、左も無之候ハヽ致隠居候筋ニ可有之、若隠居決定ニ
相成候上、次順拙者可致出府候様、右等之趣石谷鉄之丞様えも
御内談御座候処、御同意之旨ニ付、決彼是不申立当月中早々可
致出府候様、御達御座候様御差図有之候ニ付、其段金三郎え藤

兵衛殿及御達候之処、右様御沙汰御座候ては、余り厳重之趣ニ
も承知も可致候え共、右ハ　公辺向御定も有之、交代場所之義
は如何様候共其儘旅行致候義は勿論之儀ニ付、病気候辺彼是出
府延引ニも相成候ては、其儘御差置ニ不相成義ニも、不得止事
又々被仰上候様ニ成行可申哉、左候ては是辺漸々御和熟ニ相成
候無全（詮カ）、不隠儀ニて殊之外御心配ニ思召候間、右等之御趣意得
と勘考之上、拙者儀は歳高ニも候間、貴様より御内々御文通有
之様との御沙汰ニ付、御細書之趣致承知候、右勤番之儀は、去
ル巳年太郎兵衛相当り候処病気ニ付、金三郎代番相頼、然ル処
当年金三郎相当之処病気ニ付、巳年之続を以捨太郎へ代番相頼
度旨、全快次第出府可致心得之旨、金三郎より捨太郎へ及文通
候処、右返書も不差越、其儘捨太郎より申立候ニ付、彼是御心
配ニて、前書之趣御申越、小松氏よりも金三郎へ表向文通も有
之候ニ付、早速金三郎面会及内談候処、彼是　伊豆守様御心配
被成下候段不容易儀ニ付、無兎角其儘不取敢、病気儘出府候方
可然と致内談、廿一日出立致次（迄）定候間、此段御承知宜敷被仰上
可被下候、右貴答如此御座候、以上

九月廿日　　坪内嘉兵衛

彦坂善左衛門様

尚以、本文之趣ニ付、被入御念御端書之趣致承知、金三郎儀病
気之儘不取敢出府治定ニ付、訳て御答不及、同人着之上ハ不相
替宜敷御取成之程入頼申候、以上

右は十月八日御返書平島様より江戸表へ御出便ニ付、御差出し
ニ相成候

一十月十七日夜丑中刻御奥様御安産ニ付、御陣屋へ御届之、左ニ
杉原半切

御届之覚

一私妻今暁丑中刻出産、男子出生仕候、依之来ル廿三日迄産穢
引籠申候、此段御届申候、以上

十月十七日　　坪内嘉兵衛

右之趣、永井勝之助御使届出候

一御奥様御出産ニ付、御七夜御内祝赤飯用意壱斗五升・子米弐
升・ささ木弐升
赤飯配り
平島様・三井様・安池様壱重ツヽ、寿留弐枚（女脱カ）ツヽ添、手紙添
被召寄人数
左内家内三人・祐左衛門家内三人・はゝくの・春貞・お幸・お
きの・お琴・勝之助・升作、赤飯名々宅へも一重ツ被下、御内
下々迄御酒・赤飯被下之事

一くのへ丸物米壱升入・金百疋被下

一御名　欽治郎様奉申上候

先年御出産之節は献上物御家来・御出入・寺院方迄差上候処、
近年至て厳敷倹約被仰出候ニ付、一同上物等之儀は断申候ニ

付、右方へは御内祝御重之内被下候儀無之、献上物いたし候者
訳、七兵衛儀は勝之助相勤候ニ付御祝儀差上、弁治・弥作儀御
伽申上候ニ付献上物いたし、勘六儀娘御相手ニ上り候ニ付御祝
儀献、半左衛門儀年々そは粉献、御出産御祝儀ニ罷出候節さと五
月豆少持参ニ付、右相訳り不申ニ付赤飯被下ニ相成

一村方寺院御家来之者へ、御名欽治郎様被仰出候ニ付、一同承知
可致旨相触申候

一十月廿七日三井様江戸表御着之後、御祝儀として酒二升中屋切
手・寿留免十枚被進候、祐左衛門自分兼御祝儀御使者相勤、左
内・祐左衛門より弐升、田上数馬殿へ両人より弐升、上より数
馬へ壱升被下

一三井様江戸表御発足十月十四日、御着同廿四日、東海道一ノ宮
御一宿、御着之処七ツ半時之由、御出むかへ御使者左内相勤、
若党・草履り取、夜ニ入引取

十月十七日夜新加納御陣屋より使、手紙左ニ

山本祐左衛門様　河田唯右衛門
岩塚東九郎様　小島市兵衛
今尾周右衛門

以手紙致啓上候、寒冷之節御座候えとも弥御安泰被成御座珍重
奉存候、然は巳年国役御普請諸雑用金割一件、帳面御一覧之上
御出金被成度旨ニ付、先達て入御一覧之処、今以御出金之御沙
汰無御座、右之御承知も御座候ハヽ、早々御出金御座候様いた
し度、右可得御意如此御座候、以上

十月廿七日　　今尾周右衛門
小島市兵衛
河田唯右衛門

山本祐左衛門様
岩塚東九郎様

右之趣、平島様廿八日幸便ニ付順達

一十一月十八日　欽治郎様御社御参詣御内祝ニ付被召寄、左内家
内・祐左衛門家内不残、はゝくの・琴・ときの・お幸儀被召寄之処
今朝尾州参り候ニ付伺不申候、外新七・武右衛門儀作事参り居
候、右之者薬師御参詣御供方被仰候ニ付御膳被下、藤蔵儀御供
方被仰付候ニ付支度被下
欽治郎様御社参詣、薬師御出ニ付御供方
御たき役とみ　御供方（上下）勝之助　御鑓武右衛門
秀治郎　御箱藤蔵
御草履取新七　御諦様御参詣供ゆと、御道々御出也
御備物　三本入扇子箱
青銅弐拾疋
御帰り左内方へ御立寄、被下物三本入扇子箱
左内より献上物、扇子箱三本入・苧まわた少
右之内扇子箱・苧、此方より前日御廻しニ相成

一久昌寺鬼母神様御参詣、右は先例ニ無之候え共今般之思召、十
二銅御備也

一稲荷様え御参詣定例也

一十一月朔日伊勢松木雅楽之助より、定例御札納之節、別紙手紙
左ニ申来ル

一筆啓上仕候、寒冷之節御座候え共、先以　坪嘉兵衛様益御機嫌能罷為成御座、恐悦奉存候、然は来ル酉年九月太神宮廿一ケ年目正遷宮ニ付、神職之銘々供奉之御役奉相務候、依之先例之通御寄附被為成下候様奉願上候間、御前宜御披露被成下、御聞済ニ相成候様御取成之程奉頼候、右正遷宮無滞相務候上は、於新殿広前□御武運長久如意御備足之旨奉抽丹誠、御祓大麻奉差上之候、先ハ右之趣奉願度愚札如此御座候、恐惶謹言

九月吉日

度会神主
松木雅楽之助
（花押）

坪内嘉兵衛様
御役人御衆中

一下中屋小島市兵衛方ニて、新開米質入いたし候て、金百拾両借用候証文、左之通差入置

御新開徳米質入証文之事

一　米九石五斗余
　内　八石五斗　　借用金質物米
　引て　壱石余　　御年貢米

右は新開徳米之内八石五斗質入致、金百拾両借用いたし、金百拾両御渡被下、慥ニ請取申所実正也、右地所之儀は御新開ニ付、村入用其外何事不寄、少シも掛り物無御座候、且又豊凶之左別（ママ）無御座、御定之御年貢之儀、何様年柄ニても少も徳米相減候儀は無御座、則別帳ニ控之者共名前帳面相添差遣し候上は、年々八石五斗ツヽ貴様御庭相納可申上候、依て庄屋・与頭・百姓代連印証文差入申候、且又右質入申八石五斗徳米之儀は、元金返済仕候ハヽ、たとへ年数相立候共御戻し可被下候、為後証一札如件

嘉永元年戊申五月　　前渡村
百姓惣代　仙右衛門印
組頭　兵四郎印
庄屋　市右衛門印
同　竹右衛門印

小島市兵衛殿

右之通、御頼申上候通相違無御座候、依て奥印致候、以上

坪内嘉兵衛内
山本左内印
山本祐左衛門印

裏ニ

表書新開直納之徳米之内八石五斗、質物入申候ニ相違無之候、右徳米質入金相戻し候ハヽ、何時ニても相戻し可給候、依て裏書付候也

坪内嘉兵衛御印

長瀬勘六儀不都合之儀有之候ニ付、左之通被仰付候

申渡　　長瀬勘六

其方儀格別之家柄ニ付、壱本紙被仰付置候所、右も不相弁、常々心得方不行届故、子供へ申聞方不都合次第ニて御苦労相掛ケ、御外聞ニも相成候故、壱本紙引揚、平百姓被仰付、本家筋之儀は引揚置、追て御目鏡ニて可被仰付候、右申渡候

申十二月

（表紙破損なし）
（安政二年御用部屋記録）

一　年号改御本家様御祝書之事
一　御勝手向小島氏え引渡書附之事
一　木曽川通り御普請ニ付、村役惣代三所之内壱人ツヽ申附候処、無沙汰ニ付御陣屋へ申遣ス事
一　海岸防禦御触之事
一　人相書御触之事
一　大垣戸田五郎左衛門様御縁組御願書之事
一　去寅年八月お逢様御縁談御願之事
一　四月十六日御陣屋より木曽川御普請之儀ニ付手紙
一　木曽川御普請出金分掛合申遣ス事　同返書之事
一　加納御参府ニ付為知之事并返書之事
一　御本家様へ鉄炮目方御届之事
一　木曽川堤御普請水下助力ニて論見ニ附、高当り出金分掛合手紙御陣屋へ遣し候事
一　公儀御触人相書之事
一　七月八日新加納御陣屋より、使明九日御陣屋へ罷出候様申来候御関所鉄炮非常之節御自分御証文ニ御差出シニて御通り之儀牧野備前守様より御附札相済候事
一　七月十七日新加納御陣屋使木曽川去寅年切入堤御普請弁金割之儀来晦日迄上納候様申来候事

一　多良表より御縁談御披露十一月五日吉辰之事

差入申証文之事

一　今般地頭所御臨時之御物入在之、旧冬所々　御役所納金ハ諸向借財方払方等も当晦日迄及断候て、御越年相成居候処、右日限ニ至り候ても及御手段不申候ニ付、下方ニて当年より御役所納金ハ御月並・御臨時至迄引請ニいたし、出金可仕旨仰渡相成候処、不行届候ニ付御解申上候え共、当年よりハ格別改て御倹約被為遊候趣ヲ以御利解相成候間、右ニてハ下方迚も一々割合仕候儀ハ不行届候ニ付、貴殿え御頼申上候処御汲取被下、当年より御納金、御月・御臨時金（ハ脱カ）とも、出金被下候筈ニ御承知被下候上は、暮至り不足金相成候えは下方ニて割賦仕、其元えハ聊御損毛懸申上間敷候ニ付、御安心之上御取替可被下候（様）債、御臨時金御頼相成候節は、一々村役え御沙汰之上御出金可被下候、仍連印証文為後日差入申処如件、

安政二乙卯正月

百姓代　利兵衛
吉右衛門
利　八
組頭　宗　七
同断　利兵衛
同断　市右衛門
庄屋　竹右衛門
同断　覚左衛門

小島市兵衛殿

前書之趣相違無御座候、以上

山本謙三印

御知行所百姓共他国稼罷在居候者多分有之哉ニて、異変之節ハ其向々にて厄介相成、尤　御地頭所々手不相離、親類組合迄難渋可致事ニて、往々百姓困窮之（基カ）慕ひニも相成事、尤御条目ニも有之事ニ付、其段相心得、此上無余儀他国稼等ニ相成度者有之候ハヽ、其始末村役人え書付ヲ取、其上願面を以願立、差図ニ随ひ可申事

一　是迄江戸表ハ諸方他国稼ニ出居候者共、願済之分ハ格別、其外他国出稼之分は早々呼戻し、農業出精為致可申候、是より百日之日数相立候ても不立帰者共、村方除帳申付候間、出稼之人別右日数相立候ハヽ、取調、書付を以可申出候事

御紙面致拝見候、然は今般木曽川通普請ニ付、平島村喜兵衛惣代申付候旨、御届ケ申上候由、右ニ付てハ御三所方村役人ハ其外之者共え御用向等申付候節ハ、自今以後御打合之上申付候様被成度段、去八月中御談ニ付、先規之振合も御座候間、駿府表え伺之上、御下知次第可取計旨、夫迄は是迄之通御承知置候様、其節及御報置候、右は如何御沙汰御座候哉、御承知被成度、尤喜兵衛は差支不相成様御差出被成候儀ニハ御座候え共、右御問合被仰越候御紙表之趣致承知候、右ハ其節駿府表え伺差立申置

候処、是より否之儀は可申達間、右（ママ）様心得居可申旨被仰聞、只今ニ否御沙汰無御座間、左様御承知被下候、御下知次第其段可申進候、右御報如此御座候、以上

三月廿九日　今尾周右衛門

山本謙三様
松原和兵衛様
田上数馬様

一　四月十九日木曽川通助情（ママ）普請之儀ニ付、御出金高当り分之儀ニ付、三井御屋敷え御出会御相談之上、御陣屋へ御掛合被仰遣候手紙、連名ニて申遣し候筈ニ付、左之通りニ案文出来ニ付、当方ニて相認メ御陣屋へ為持遣ス、左ニ

以手紙致啓上候、然は今般水下タ助力差加、木曽川通り堤御普請之儀ニ付、最初御談之趣は、高百石ニ付金三両相掛り候旨之処、猶又当十七日御面談之趣ハ、水下タ助力不出金之向も有之候ニ付、凡高百石ニ付金五両も相掛り可申旨、御談御座候趣銘々主人方え申聞候処、右は畢竟今般之普請之儀は水下タ助力元立之儀ニ御座候間、最初御目論見立之節御談御座候、高百石三両之儀ハ承知被致候え共、百石五両当り之儀は難被致承知、御銘々勝手方不如意之処、臨時連々相嵩、必至難取続候位之折柄故、無拠被及御断候儀ニ御座候、此段及御答候様被申付候条、如此御座候、以上

四月廿日　田上数馬
岩塚鉄輔
山本謙三

今尾周右衛門様

異国舟渡来ニ付、万一非常之節、江戸表え御出張も御座候節、鉄炮御持参挺数、前以東海道筋御関所御差支無之様、御本家様え向御届ケ左ニ

御届申上候鉄炮之覚

一　百目筒　一挺　一六文目筒　一挺
一　同短筒　一挺　一三文目五分二ツ鳴筒一挺
一　八拾目筒　一挺　一三文目五分筒　四挺
一　拾文目筒　一挺　一三文目五分短筒　一挺
〆拾壱挺

右鉄炮、万一非常之節持参仕度候ニ付、東海道筋　御関所之儀無滞通行相成候様、此段宜敷奉願候、以上

三月　坪内嘉兵衛印
坪　伊豆守殿

以手紙致啓上候、然ハ兼て御問合申上置候、万一非常之節鉄炮持参通行之儀、今般同姓金三郎帰邑ニ付御談事被下、委細致承知候、則別紙ヲ以御届ケ申上候間、宜敷御取計奉願候、以上

三月　坪内嘉兵衛

彦坂善左衛門様

以手紙致啓上候、寒冷之節弥御安泰被成御座、珍重奉存候、然ハ江戸表当月二日地震ニて凶変之儀申参候間、各方迄為御心得別紙之通得（意脱カ）御条度如此御座候、以上

十月十七日　　小島市兵衛
今尾周右衛門

山本謙三様
岩塚銖輔様
加藤多三郎様

一今般当月二日夜戌下刻、江戸表大地震ニて、同表御殿向・御長屋共殊外及大破、井御土蔵六棟共壁震落、就中裏御長屋庇不残震崩シ、棟井梁落入候場所も有之、建具之分は不残破損用立不申、尤住居不相成大破之趣、表御門是又棟落入候え共出入は出来候、乍併御家中下々迄壱人も怪我無之、且　桂輪院様・帯刀様・板倉様御様子相伺候由之処、御別条無之御立退被成候旨、三日暁出之十八時限急便、一昨日七ツ半時過致到着候、誠ニ大変之次第ニは有之候え共、　上々様方御別条無之、御家中下々迄怪我無之、奉恐悦候

一東武　御城内、大手大御番所井同所冠木御門相潰れ候由、其外は御別条先無之趣

一右地震、山之手辺は震方軽ク、桜田・築地辺り、丸之内・小川町・下町井本所辺ハ一段厳敷、諸家様御屋敷其外町々震潰シ、所々より出火ニ相成、三日暁江戸
（原文は十月十七日付書状の前に綴る）
「出状之時分火事最中之由ニて、死失・怪我人夥敷趣、是又申参候

右は不容易凶変ニ付、いまた委細之義は不相聞候え共、各方為御心得、以早便申達候

卯十月六日　　」

主人嘉兵衛倅杢太郎儀、於前渡村炮術・火術稽古為致度旨、去ル嘉永三戌年中被相頼候ニ付、其段　伊豆守様（より）え御支配様方え御届被　仰上、御落手相成候ニ付、其趣閑柄当御陣屋より掛り合向々え御達相成、去ル亥年右稽古被致度段、当御陣屋え御届申上ニて被致稽古候処、此度又候稽古被致度段、当御陣屋え御届ケ申上候ニ付、亥年中之振合を以、笠松御役所え御当方より御届済ニて、日限治定、稽古可被致処、嘉兵衛よりも先々之振合をもって笠松御役所え御届被申候ニ付、行違と相成候間、右稽古為相見合可申旨御達相成、申訳も無之次第ニ御座候、依之向後は先格ニ不抱、何事ニ不寄御陣屋え無沙汰ニては、他向掛合達届ケ等之儀被致問敷候間、此度不取計之儀は御勘弁之上、模通方宜敷様御頼と申候、以上

安政二乙卯年十月　　坪内嘉兵衛内
山本謙三

御役所

近年異国度々渡来ニ付、御軍用金下方夫々え被仰付、山東庄右衛門去寅年御軍用金御目鏡（マヽ）ニて被仰付候処、心得違ニて不都之（合脱カ）次第御前共不憚申上候ニ付、為咎メと土蔵井添家御引揚ニ相成候処、常貞寺追々御詫申上候ニ付、左之次第ニて御免相成申候右同人え御書下

庄右衛門

其方儀、先般御目鏡ニて　御軍用金被仰付候処、心得違仕、不都合之次第申上候ニ付、其所持之土蔵井添家御引揚相成居処、常貞寺ヲ以追々御詫申上候、附ては此度御勝向（手脱カ）御改格ニ付、御家本え被仰立、御講ハ御出来ニ付、常貞寺心附ニて御講三分一御加入仕候ニ付、右之廉合ヲ以、前条御引揚ニ相成居候土蔵・添家共御下ニ相成候間、以後急度心得違無之様相慎可申候者也

安政二乙卯年十二月　　御役所○

但し御請書ハ右推（准）し

御縁組表御披露ニ付十一月五日

十一月朔日

一御両家様御縁組御披露ニ付、来五日亀酒御上被成度ニ付、御案内八兵衛御使者相勤、井加藤連三郎・松原権一郎・岩塚銖輔・岡崎樹仙・今尾東甫、御案（内脱カ）御使有之

一又七日、新加納御陣屋詰今尾周右衛門・小島市兵衛・今尾愛平・今尾信三郎・古田新兵衛、御披露ニ付亀酒被進度候間御出席可有之旨、使者を以御案内申遣し候、八兵衛相勤候事

一庄屋角左衛門遣し、御婚礼御入用金拾両也、小島市兵衛ニて請取

一御婚礼御入用肴、尾州村久野増右衛門申付

一村役人呼出し申渡置候、御披露ニ付村役人壱人ツヽ御勝手取締方として相詰候様、申附置候事

三日

一今朝甚平役二人、岐阜表へ御婚礼御入用売（買）物ニ遣し、金弐両相渡ス

一村方惣方へ先例之通り、大樽壱ツ・寿留め（此弐拾枚也）壱わ添被下

一村方より御婚礼御祝儀として金弐百疋献上候事

五日

一御婚礼御披露ニ付　太郎兵衛様御出、御祝儀として若殿様え御馬乗御袴地一反、　奥方様えほろ綿一包、尤御名々様白木台

一金三郎様より御肴代金弐百疋・御酒壱樽弐升

一加藤連三郎より風呂敷・御酒府（符）壱升

一岩塚銖輔より酒府壱升

一今尾東甫　銀壱朱

一苅谷春貞　御酒府壱升

一岡崎樹仙　御酒弐升樽・寿留女添　同人差支ニ付不参

一矢島様より御肴いな・海老

一安池様御女藕おしう殿　御酒三升壱樽

一桐野村大野玄通　御酒三升壱樽

一多良表より左野保兵衛殿、今朝加納表より着、御婚礼御吉辰之

御祝儀御使者被相勤候事

御交肴（しんこう）　一おり

右は御惣客様へ御送り、御目録奉書立紙

一御かみ下（しんこう）一具　大内様より　殿様え養老酒一

御おひ　一　大内様より　御惣客様へ御菓子箱

御せんす二本　大内様より　奥様え菓子箱一ツ

御畳紙　一　あわあめ　丸物　三ツ

干たゐ　一おり

以上

右之通り御送り物、謙三請取御披露仕候、夫より夫（ママ）より御奥ニて御逢有之、殿様・若殿様右御一礼相済、直ニ御部屋案内、奥方様御逢有之、夫より表座敷案内、御酒・御本膳出ス

表御座敷ニて佐野保兵衛殿・加藤連三郎・岩塚銖輔・東甫同席ニて御酒・御膳分相済、夫より惣方御奥座敷被召寄、御酒・吸物被下、夜四ツ時過ニ相済

六日

一御家来・村役共へ御酒被下候、惣方巳ノ刻ニ罷出候様、廻状差出ス

一三組庄屋覚左衛門・竹右衛門・栄助、組頭市右衛門・利兵衛・宗七、右六人御祝儀御酒府五升献上

御酒・吸物被下候事、尤表座敷ニて御家来・御出入之者同席

一小島磯治御酒府弐升　安中弁治御酒府壱升

村瀬半左衛門御酒府壱升

長瀬勘六・同弥作・鈴木信治郎・小野木力治郎・金子文四郎右五人酒府五升

一赤座近右衛門直紙弐状・扇子箱献上

一松原和一郎殿御酒府弐升・扇子箱献上

新七より御酒府壱升　治平より同断壱升

一永田織之助様御出、御肴ほら・小菊五状

一大まくろ一本　山本謙三、永井広　江

山本栄助　宮川八兵衛

献上

一大内蔵様御家来佐野保兵衛殿、竹右衛門方一宿有之、六日早朝御婚意相済候ニ付、御使者山本謙三相勤

奉書立目録

進上　皆子餅　一嘉満寿

御肴　一折　御肴　一折

御樽　一荷

以上

御目録為御取替相済、使者之者　大内蔵様より金百疋被下置候

一皆子餅御送り之御使者相勤候ニ付、金百疋被下置候事

右之通相済、啓キ

一佐野保兵衛殿大内蔵様より御使者被相勤候、御婚意相済候ニ

付、目録之通御送り左ニ

立目録　立目録

進上　進上

御樽　一荷　御刀　一腰

御肴　一折

以上

右御使者保兵衛殿え金百疋被下置候事

進上　皆子餅　一嘉満寿

御肴　一折　御肴　一折

御樽　一荷

以上

右為御取為替相済、使者え金百疋被下置候

夫より表向相済候ニ付、御奥ニて御逢、夫より御部屋ニて奥方様御咄し有之、御酒・吸物被下候、夜五ツ時相済、啓キ

苅谷春貞御取持罷出候

一佐野保兵衛殿、明七日ニ御用済ニ付啓き候間、人足申付置候

七日

一新加納御陣屋詰役人中御招ニ相成候ニ付、午刻頃出席有之

一小島市兵衛為御祝儀被申上、献上物掛香

一今尾周右衛門為御祝儀被申上、扇子箱・かツふし五ツ

一今尾信三郎御酒府弐升

一今尾愛不参

右相揃ニ付、若奥様御逢、周右衛門・市兵衛・お勝、長のし出ス右相済、夫より

一今尾周右衛門始惣方奥御座敷え被召寄、時刻ニ相成候ニ付御本膳出し相済、夫より三ツ組盃出し、座付吸物・硯蓋品々出し、夜九ツ時頃相済、御肴品々有之候え共略ス

一御納戸方庄屋へ村役人より、何日御婚礼御披露ニ候間、御一同被仰合、当御地頭所御出被下候様と申案内申遣し候、三井・平島村役えも同様竹右衛門より、八日出席御祝儀申上候様案内申遣ス

八日

一御納戸方庄屋御婚礼御祝儀罷出候、人数拾三四人、庄屋竹右衛門方出会いたし、夫より竹右衛門案内いたし、惣方御玄関北之方より敷台上り、取次八兵衛・宗助玄関え通行、取次挨拶いたし、惣方御玄関南方居ならび、尤上下着用ニて罷出候、謙三罷出挨拶いたし、御祝儀申上、献上御酒府壱斗・鯛壱わ添、一同口上小島七右衛門申上、源之丞儀代人勘治郎

一別ニ小島七右衛門酒府弐升献上

一同断小島勘治郎酒府弐升献上

然所、御祝儀申上、直ニ啓キ候様申候ニ付、先々使者間御通り被下申、進物八兵衛・宗助為持、謙三引、惣方案内いたし使者間通し、茶・たばこ盆出ス、五ツ組盃赤ぬり台ニて出ス、座附

吸物白味噌　謙三挨拶いたし

硯蓋長いも　九年坊連こんしたけ　丼たこ　丼なからし

焼物大ほら　丼大根ふる

大平取合　差身ふりちしや　吸物しうが蛤

一三井・平島庄屋六人、案内覚左衛門、各々上下ニて御祝儀申上候、使者之間北ノ御座敷通し、御酒府五升献、御本家方庄屋同様料理被下、追々御酒もすごし候ニ付、後一座敷いたし御酒被下候様と申事ニ候、皆々宜敷機嫌ニて啓キ申候

一小網定蔵御祝儀申上候、扇子相(祖)・肴代二拾疋

一妙知庵御酒府壱升献

九日

一御婚礼御披露ニ付、今日御招寺方、少林寺和尚様御差支ニ付、御納所を以御祝儀被仰上候、御風呂敷

一桃春院・常貞寺御酒府

一久昌寺御祝儀品物、先達御引移り之節、御馬たすな献候ニ付、別ニ無之候

相揃候間、御奥御座敷通し、時刻ニ候間御本膳出し

汁白味噌なとうふ　平長いもこんぶしたけ　坪角ふ遠こん

猪口連根こんにゃあへ　生酢青人しんこんふ岩たけくすす切青身　台引かしこんふく年坊　相済

夫々

座附吸物口ゆは　硯蓋長芋貝くわい角ふ九年坊　丼なからし　丼

大平長いもしたけ　差身人しん角ふかんてんちしや白髪　吸物

其外、御出入女中御取持申上候、御出入之者御祝儀之御酒、上下下々迄被下候

謙三　広江　栄助　八兵衛　秀治郎　宗輔　女中勝　おきん

やすよ　おくよ　きぬよ　すと　美尾　ふて　其外、左兵衛　徳兵衛　甚左衛門　幾右衛門　喜蔵　治平　おゆき

右之者へ御本膳・御酒・吸物被下

右夜格別之儀ニ付、今日七八日御取持ニ候間、別て多分御酒頂戴候様申聞候ニ付、右頂戴ニ相成候

十日

一奥様少林寺始、薬師・常貞寺御参詣、御供方左ニ

御徒　左兵衛　先箱孫右衛門　御侍八兵衛

久米五郎　伊兵衛　御打物園七　御侍栄助

和右衛門竹左衛門　御侍秀治郎　女中やす

御駕籠女中勝　御上蔦様御駕籠　草履取謙三　箱

紋七壱人　女中きん　同宗助　女中梅

一少林寺御香料金弐朱

外　奥様より御土産物、ふろ敷・御菓子箱・扇子箱台附

御帰り

薬師前御参詣、青銅三拾疋

桃春院ニて御茶・御菓子出し

常貞寺青銅弐拾疋、御茶・菓子出し

引取之上、今日御供仕候者共へ御酒被下

十一日

一若奥様御着帯ニ付、御披露ニ付、三井・平島様・市兵衛、右三軒は白すわめ(ここか)し黒大豆入、右三升也

一奥方様御披露ニ付、進上物等有之御挨拶として赤飯遣し候分、壱斗六升配

今尾周右衛門、今尾愛平、今尾信三郎、今尾東甫、市郎治(中屋)、源(中屋)之丞、七右衛門(新加納)、小網定蔵、浅野松右衛門、樹仙、玄通、忠右衛門、加納佐右衛門、安池様、右重之内寿留女添

一当秋以来御勝手方御取続御六ケ敷ニ付、御本家様御内談御座候処、いつれ三百両御拝借御願被成候思召之処、御内談有之候処、当時御本家ニても御物入多ニ付御断之趣、然所、左候ハヽ講会之儀御聞済被成下候様願立ニ相成候処、是以御本家ニてハ一同先々より、右様(ママ)之儀家中一同止事同様申渡有之候処、表立御陣屋へ申遣し候儀行届不申ニ付、いつれ伊豆守様へも不表立様御耳ニ達、無急度周右衛門へ御世話いたし候様申聞遣し候、彦坂善左衛門被申候ニ付、夫より周右衛門え御内談有之候て、今般御講会三百両もよおしと相成候、其砌河田源内殿御用向ニて御陣屋へ被罷越候儀ニ付、追々内談有之候て、弥々御講会治定相成候、周右衛門殿・市兵衛殿・源内殿三人内談之上、講世話人御陣屋ニて市郎治・源之丞両人被仰渡と相成、小方之儀、前渡村ニて謙三村役人共召つれ夫々願入候処、断多ニ付、又候御陣屋ニて周右衛門殿より利解も有之、夫々呼寄、梅村屋仁兵衛方ニて麁酒等出し、周右衛門殿宅ニても同様いたし御頼ニ相成候、あらまし治定ニ付、猶又名前附を以広衛村役人一同願入申候、弥以講会出来ニ付、来十二月十七日御講会取立候ニ付、名前御屋敷ニて相勤候

取持方　小島市兵衛殿

世話人　小島市郎治殿

小島源之丞殿

一講加入方　小島市兵衛　大野彦八

小島市郎治　新加納多蔵

小島源之丞　前野天野半左衛門

小島弥兵衛　肥田瀬村塚原忠之進

尾州和田大脇弥左衛門　大渕村左七

同所同萩三郎　当所竹右衛門

下中屋嘉重郎　当所紋右衛門

三斗山民之丞　牛子庄右衛門

石田村助七　大関嘉平治

壱人ニ付弐朱宛振舞、併酒・飯、別ニ屋しきより出し、

新加納梅村屋引渡し申候

献立

吸物 赤鯛 口柱ス　硯蓋 九年坊 皮茸 くわい かまぼこ あわび　鉢鯛 あんかけ

大平 角麩 チくわ 柳茸 長いも くり　鉢 あゆ酢し　吸物 清し 鳥トうと

鉢 作身 □近御ふら　同 魚やき 清し 松茸 平夜　井 たこ ろうし　井 百合 会 梅 □和

井 せり ふ

本膳部

生盛 三した 白髪 岩たけ 金子玉子 うを　坪 半平 あんかけ　千代冬 かき 蓮根からし和

香物 瓜　平 長いも 椎茸 地紙

右ニて相済、高附くわし・茶出ス

御講金当日〆弐百三拾五両寄金

御前様え三宝拵イ御覧入候事

御断口上

追々御物入多ニ付、右様之取計可仕候え共、武家之家ニ置候て右様之儀末々迄残り候儀ニ付、以後御勝手向之処は万事心附、御倹約第一として御物成を以取計行立候様、第一夫倹約と申ハ、御先祖代々様御勤と思召候事、金銭は只は出来不申事ニ候間、無益之事ニ使捨不申候、一ケ年ニ御物成半当御勝手入用之思召ニて候ハヽ、不勝手と申儀ニ相成不申候事

一 御勝手御六ケ敷候ハヽ、家中一同迷惑仕、其上心配仕相勤候、是等日々心掛候て勤役可被下候

一 御前様ニても御心得方悪敷、只今日之模通り申上候ハヽ、其御役人思召入候、時節御為筋申上候者は思召不入候、是当時はやり物、夫故ニ御勝手六ケ敷相成候て、乍恐御目さめてと申様なもの、夫てハ焼あとの釘ひろいと成、正月より一ケ年心掛候ハヽ、少々ツヽニても一ケ年倹約ニ相成候、万事之事山と成故ニ省略第一と御心附可被成候

（表紙）

「安政三丙辰年記録

御用所」

目録

一 正月十二日殿様駿府表え御出立先触之事、紙七枚目有之
一 二月二日奥方様御出生ニ付多良・駿府御両家方書面并巡状之事
一 武着御手当金くたさる事
一 御七夜ヵ婆々方へ挨拶之事
一 多良表へ御銘附御頼被成候ニ付書紙之事
一 同御返事趣
一 同大内蔵様より御肴被進候ニ付書面之趣
一 同返事
一 同御名附為御内祝大内蔵様へ御肴被進候ニ付書状事
一 長瀬金右衛門妻縁願書之事
一 新加納開張ニ付役所より廻状之事
一 御用材相下り候ニ付新加納役所より来状之事
一 御安産ニ付大垣表より御肴被進候書紙之事
一 同大垣表お峰様御里ひらき被成度候ニ付御内談書状之事
一 二月廿三日駿府より御登り先触着
一 三月真向御影御披露之儀四日より初り候旨案内申来候事
一 三月十五日大垣表おみね様御里披御来駕被遊候ニ付御土産物之事
一 同当方より御供方へ祝儀被進候事
一 大垣表戸田五郎左衛門様御来駕ニ付取計之事
一 三月廿九日殿様新加納御影開帳へ御参詣取計之事
一 賢之進様御七夜御悦分赤飯配候名前御祝儀被献候品事
一 四月廿四日新加納御陣屋より大割懸寄申来ル書面之事
一 五月二日成瀬隼人正様御入国ニ付御見舞之事
一 尾州北方立会検使之事
一 加納御入城御用人中より白木状箱来ル
一 八月十二日御公儀御用材相下り候ニ付御触状之事
一 九月七日寺院方釣鐘御引上ケニ付、御触状之事、付り御陣屋より申来り書中之事
一 同新加納御陣屋釣鐘之儀ニ付、九月十二日内談之儀申来候事
一 村方家普請願書之事
一 釣鐘之儀ニ付寺院方より取調書差出し御陣屋へ九月十二日差出し可申之事
一 八月廿五日江戸表大風ニ付、駿府表御見舞御状出し之事
九月十三日御陣屋出し
一 多良大垣御初客御出之事
一 七右衛門家普請之願書之事

記録

一 殿様辰正月十四日駿府表御出府有之候ニ付、当十二日午刻頃先触出し申候、先触書面左之通ニ候事

覚

一　人足　四人
一　本馬　壱疋

右は明後十四日在所前渡出立、道中五日積り駿府表迄罷越候条、書面之人馬御定之賃銭払之、宿々無遅滞継立可給候、且川々渡船等差支無之様頼入候、以上

正月十二日　　坪内嘉兵衛内
永井広(弘)衛印

尾州
一之宮
清須
名古屋
東海道
宮宿より
駿州
府中宿迄
右宿々
問屋
年寄　中

尚以、此先触府中宿より御城坪内伊豆守様御役宅ゑ早々相達可給候、以上

宿割
尾州
鳴海宿　参州　御油宿　遠州　浜松宿　駿州　島田宿
御出生ニ付多良表状之事

一筆致啓上候、追日暖気相催候処、先以各様御勇健ニ被成御勤、珍重之御儀奉存候、然奥方様儀当月朔日より少々御催候処、今暁寅中刻御安産ニ相成、殊ニ御男子様御出生被遊候処、御二方様共御機嫌能御肥立被遊、御同前恐悦之御儀ニ奉存候、右為御知得貴意候様被仰付候間、宜敷御手前様より大内蔵様ゑ御申上可被下候様被仰付候、且又御七夜御祝之儀は、嘉兵衛様御出府ニ付、当月下旬ニも帰国被致候ニ付、御帰りまで御内祝御延引被遊候間、此段宜敷御取計被成下候様奉願上候、以上

二月二日　　山本謙三
佐野保兵衛様

武着御手当金ニ付御直書巡状

来札令披見候、去々寅年武備為御手当拝金被　仰付候内、令配分置候処、今般改て不及返納度就相違(ママ)(違カ)候示之趣、令承知候、恐々謹言

二月　　坪内伊豆守
坪内嘉兵衛殿　　(花押)
坪内金三郎殿
坪内太郎兵衛殿

以手紙致啓上候、然は百姓依頼、親鸞聖人真向御影来月四日より御披露有之候、仍て先例之通り足軽弐人ツ、番所へ御差出し

可被下候様致度、此度可得御意如此御座候、以上

右は新加納開帳ニ付御役所より着いたし候書面之事

二月十七日　　小島市兵衛
今尾周右衛門

山本謙三様
岩塚来助様
加藤連三郎様

以手紙致啓上候、弥御安泰被成御座、珍重御儀奉存候、然は尾州領七宗山より公辺御買上御用材並尾州材共、元伐下麻生湊ニて此節桴ニ組立、川下ケ取計中ニ付、若出水或ハ風難等ニて致散乱候ハ、其所ニ留置失木無之様、締筋之儀申渡呉候様、太田役所ヨり相頼懸合越候間、川添村々ゑ右締筋之儀申触、付てハ御支配下前渡村・中野村一同申触候間、御承知迄右得御意(知覚カ)度此御座候、以上

二月十七日　　小島市兵衛
今尾周右衛門

山本謙三様
加藤連三郎様

覚

一　於美濃様御引越後、上巳初之御節句御座候ニ付、御雛等被進候之様被成度思召候、尤何日頃被進候哉御日限御承知被成度候事

御里披ニ付御示合覚

一　三月八日後吉日御撰、為御里披御同人様御出可被成思召候、尤其御許様当時御在府ニ付、御在所ゑ御登御座候迄御出可被成候、何頃　御帰館可被遊候哉御様子御承知被成度御事

一　御出之砌御供立之儀、兼て御省略中ニは御座候ゑ共、御里披之御廉ヵ御引越之後初て之御儀ニも御座候間、昨年之稈打御乗物御用ひ、御薙刀為御持被成候様思召候、対御箱之儀ハ加納宿迄は御途中為御持無之、同宿より　其御許様ゑ御入之砌、全御為持被成候様ニも可被成候哉之事

一　被召連候女中等左之通り之御移りニ御座候、尤山本左内殿御在世之中御内談等御座候儀ハ、御双方様共兼て厳敷御省略中ニ付、御供方御人数(つゝ)数加納宿迄此方様ニて御差向、同宿よりは其御許様より為御迎御供方御差出しニ相成候半は、御都合筋ニも御談有之候ゑ共、猶当時之御様子御承知被成度、且同宿より対御箱為御持ニも相成候半は、御先徒等之御人数も御差出しニ相成候様被成度、尤御供方始御進物持人等ニ至迄、惣御人数は吉日御取極之上、追て御打合可被成事

中老格　壱人
御側女中弐人
御役人　壱人

但、右之内女中壱人・御役人は御供仕罷越、其外は同宿より相開き可申積り之事

一 御土産之御品可被進　御方々様御名前并夫々御役人方并女中、下々迄御目録金等可被下候間、名前御承知被成度候事

右之通御相談被仰進候、御廉々え御附札を以、否御答可被　仰下候様被成度思召候事

二月　　永田武兵衛

山木謙三様

右は大垣表より於峰様御里ひらき被成度候ニ付、御内事御書状左之通り候事

三月十五日大垣表於美濃様御里ひらきニ付御土産之品之事

覚

一交御肴一折（御聟客様え）

一曽多以　嘉兵衛様え

一御和多　明性院様え

一御婦くさ　杢太郎様

料弐百疋

一御婦くさ　若奥様

料百疋

一同百疋（ひき）　欽次郎様

一同百疋（ひき）　於鐘様

一御手遊　御出生様

料百ひき

覚

一金弐百疋　山本謙三殿

一同百疋　同人妻

一同弐朱　山本秀一郎殿

一銀三匁　同子供

一金弐百疋　永井広江殿

一同弐朱（香料）　山本栄助殿

一同弐朱　山本左内殿

□前

一同弐朱　同人後室

一銀三匁　同人子供

一金弐朱　荊谷春貞方

一御婦くさ　和田直衛様

料百疋

一小喜久二束　安池新八郎様

一小寿喜二束　矢島甚右衛門様

一銀壱朱宛　女中四人

御母公様

一金百疋　乳母

一同弐束　野々山与九郎様

料弐朱

一小喜久　少林寺様

料百ひき

一銀壱朱　宮川八兵衛方

一同断　小野木宗輔方

一同断　今尾東甫老

一鳥目三百文宛中間弐人

奥様　右は

御里披為御祝儀被下之

三月

一松魚　坪内金三郎様

一同　坪内太郎兵衛様

右は

御里披為御土産被進之

三月

右目録之外

一御手継之実御出生様え

右之通以目録被下候事

同廿一日大垣戸田五郎左衛門様御聟入被為入候え共、御互ニ御省略中之事故御祝盃等も御略し、御双方様為御名代　殿様御壱人ニて、御服等も御略し、御肩衣ニて御済し被遊候、奥御座敷御上間ニて右御祝盃相済、　平島様御同間ニて御酒宴御座候

一御聟入御土産物　御上御始、下にまて左ニ

御紙面致拝見候、暖和之節御座候処弥御安泰被成御座、珍重奉存候、然は明廿九日御主人様　御影前御参詣被成候間、先例之通り取計可申様被成度、御紙表之趣委細致承知候、右御報如此御座候、以上

三月廿九日　　小島市兵衛

古田真兵術

今尾周右衛門

山本謙三様

尚以、本文御参詣刻限之儀ハ、四ツ半時頃当地着之思召ニ候間、左様相心得、且又雨天ニ御座候快晴次第御参詣之趣、委共御案内被入御念候処承知仕候、以上

四月朔日、今日真向御影御参指ニ付、御供立左ニ

御徒士喜兵衛　御口宗　七　御供頭弥　作　御箱治　平

御道具治左衛門　御馬

同　孫　六　同　幾右衛門　御近習秀二郎　御長柄甚左衛門

御草履喜蔵

合羽籠竹左衛門　同三四郎　押園七

沓　籠金助

右御参詣ニ付、先例之通り御陣屋より足軽両人、御先払稲荷橋迄出し候、御影前門岸迄御乗附、門内人払、御参詣之節御影前え御知行所村役勤番立退ク、先例之通銀一両御備、御近習より勤番御手代え相渡、御参詣相済御帰り之節、上番所勤番え少し御立寄御目礼、夫より少林寺え御参詣、御休足、御両家様同断、上番所当番小島市兵衛殿、御機嫌為伺少林寺まて被罷越候、御帰り之節御陣屋え　御三人様共、御機嫌為御伺被為入、直様御帰り

御陣屋より三所役人共へ連名状壱通、右は開帳日延之儀、来十八日迄よし申来、手紙左ニ

以手紙致啓上候、然は兼て御意置候　親鸞聖人真向御影御披露日数三十日之処、猶依願当月十八日迄日延相成候間、此段御承知、番所足軽御差出被成候様致度、右可得御意如此御座候、以上

四月三日　　小島市兵衛

今尾周右衛門

山本謙三様

岩塚鉄輔様

加藤連三郎様

一五月十三日新加納御陣屋より使夕方来ル、右は尾州北方役所より掛合之儀左之通りニ付、今尾周右衛門殿・古田新兵衛殿

以手紙致啓上候、弥御安泰被成御座珍重奉存候、然は尾州更屋敷村甚助と申者、前渡村藤兵衛娘小菊と申者、追てハ妻ニ可致積、先々客分ニ貰ひ置、同人妹さつと申者為手伝、甚助所より（えか）相越居候処、無宿弥作と申者甚助方え相越、さつ夫之由申立、

甚助さつと客通(ママ)いたし趣申懸、理不尽打擲手疵為負、検使之儀申出候ニ付、更屋敷村え検使立会出張候様、北方役場より申越候間、右藤兵衛并村役人御召連、無遅滞急速御陣屋え御出張可成候、尤更屋敷迄御出張御座候思召ニて御可(ママ)被成候、右可得御意如此御座候、以上

五月十三日　　古田真兵衛
今尾周右衛門

山本謙三様

御達申上候容体書

一　疵人　　更屋敷村
右鬢切疵一ヶ所　長三寸　深三分　　甚助
左横腹打撲壱ヶ所

右之者診察仕候処、脈拍数腹中働気有之、疵所膏薬・打腹薬四拘湯相用申候、併鬢疵無之おゐてハ不日ニ平愈(癒)可仕哉ニ奉存候、依て容体之趣奉差上候、以上

辰五月十四日　　御用懸り医師
川延大元

深沢新平様御手附
水谷宅兵衛殿
森　秀次郎殿
坪内伊豆守様御役人
古田真兵衛殿

今尾虎之丞殿

差出申済口証文之事

尾州葉栗郡更屋敷村甚助儀、坪内嘉兵衛様御知行所濃州各務郡前渡村藤兵衛娘小菊事、追てハ妻ニ可致積、先々客分ニ引取置、同人妹さつ儀仕立物等為手伝、甚助所え相越居候処、生所越前国大野郡山知村無宿弥作儀、さつ夫之由申立、甚助儀さつと密通いたし候段申懸ケ、打擲之上甚助ニ手疵為負候ニ付、其段御訴申上候処、御立会為御検使被成御越、疵人甚助御見分之上、一件引合之者一同御吟味御座候処、申口行違、此上御手数相懸り候てハ奉恐入候ニ付、内輪取訂申上度、御吟味御猶予奉願上、双方村役人おゐて内輪穿鑿中、貴殿御立入御訂被下候処、無宿弥作儀世話人有之、当四月藤兵衛方え養子ニ相成さつと娶合候筈之処、其後さつ儀甚助方え相越居、同人と密通いたし居候趣所々ニて風聞有之、可連帰積り弥作甚助え懸合候え共、甚助儀彼是申立不引渡、心外之余り取昇せ、刃物を以風等甚助ニ手疵為負候処、能々承訂候てハ全く密通筋之儀ハ聊無之、疑念も相晴、此上甚助初へ対し申分無之、手疵為負候段今更後悔気の毒いたし候ニ付、弥作儀甚助え段々相詫、甚助ニおゐても、弥作儀右之通密通筋疑念も相晴此上申分無之旨申立、手疵為負候段達て相詫、疵所打撲所とも追々快方ニ相成候ニ付てハ、最早勘弁および、甚助ニおゐても此上申分無之、小菊儀は客分ニ引取置候儀ニて、今般親藤兵衛手前え引渡筈、右之通双方無申分熟談

事済仕候、右は貴殿御働故と忝奉存候、然ル上ハ、右一件ニ付重て差入組申間敷候、為後証一同連印済口証文差出申所如件

安政三年辰五月　　生所越前大野郡山知村
無宿(ツ脱カ)弥作メ印

坪内嘉兵衛様御知行所
濃州各務郡前渡村
藤兵衛代　庄左衛門判
同人娘　小菊ツメ印
同　さつツメ印
同人親類惣代　吉左衛門判
庄屋　竹右衛門判

尾州葉栗郡更屋敷村
甚助判
疵人甚助兄　甚三郎判
同人親類惣代　増蔵判
疵人甚助組合惣代　常右衛門
組頭　忠右衛門
庄屋　半左衛門判

同　庄右衛門判

北方村
野田増右衛門殿

前件之通内熟相整候ニ付、双方へ済口面相渡置申候、以上

立入人北方村
野田増左衛門判

前渡村庄屋
竹右衛門殿

辰七月廿三日、三株・拾四株若者呼出し、天保十亥年より入組引分れ罷在候処、追々村役共より和談之儀申聞置候処、行届不申旨、猶又申出候ニ付、当役場へ呼出し利解申聞候処、修之惣方より申立候処、利解之趣惣方承知いたし候ニ付、申渡候書附左ニ

申渡候事

一　前渡村薬師什物と唱候獅子之義は、本郷旁(方カ)若物(者)御預り仕来り候処、古屋形獅子及大披(破)難相用ニ付、一統相談之上、尾州尾崎村ニて買請、稽古中、村方入組ニ付若者引分れ候ニ付、鬮取仕候処三株方へ獅子屋形相当り候ニ付、買直段割合、半当十四株方え金子受取申候段、右ハ其砌之若者一応之伺も無之、什物売買取計候段、双方不埒之次第、依て夫々御咎をも可被　仰付之処、今般格別之思召ヲ以和談被　仰付候ニ付、御免被　仰付候事

一若者引分れ候ニ付、年々差入組不都合之至りニ候、然ル処村方一同先達て和熟相整候ニ付、若者前々之通り一組ニ相成候様、村役共へ取扱被　仰付候処、三株方ニて什物之獅子追々修覆いたし、多分金子相懸り候ニ付、亥年引分れ候節割合之金子ハ其外少々拾四株より出金為致、和談致度旨申之、拾四株方よりは亥年引分れ之節割合之金子之外へ出金難致旨、其外種々申立、村役人取扱不行届之旨申出候ニ付、双方呼出相糺候処、亥年引分れ之節什物之獅子拾四株方より買取姿ニ相聞え候ニ付、売戻し和談可致候、依之右代金五両拾四株より取立相渡可申事、然ル上ハ、持来之獅子先年より之什物と相心得、一同睦間敷相続可致事、此以後若者引分れ商買(売カ)等之儀申出シ、口論ケ間敷義一切致間敷候、若シ引分れ商買等之儀申出し候者有之節は、理非之無差別、申出候者急度御咎被　仰付候間、其旨一同相心得可申候、其為書附相下ケ置候間、心得違無之様睦間敷可致事

右之通り被　仰付奉畏、御請連印奉差上候、以上

安政三丙辰年七月　若者惣代

惣　七爪印
八左衛門爪印
繁右衛門印

前書之通り被　仰付奉畏候ニ付、奥印仕奉差上候、以上

庄屋　竹右衛門
同断　覚左衛門

組頭　市右衛門
利　兵　衛

御地頭所
御役所

七月廿六日薬師へ出役山本謙三・永井広江、什物獅子改両組庄屋・若者立会、薬師前什物長持戸内如此認メ

薬師什物獅子一通り小道具附、本郷方惣若者え願(預カ)之

安政三丙辰年七月改　御役所印

同同(ママ)文言ニて獅子屋形下板認メ有之

其外何も一切改候処、認メ方無之

立会両組

庄屋　竹右衛門
覚左衛門
組頭　市右衛門
利　兵　衛
惣若者共

獅子一通り小道具改、当番庄屋ニ願(預カ)り左ニ

獅子小道具覚

一獅子頭但し幕附　一　一太鼓但し鼓巻帯共　大小二ツ
一四半　一本　一水幕　壱張
一桐簞笥但猩々非　一　一太鼓台　一

一幣　一本　一鈴　一本
一御用高張　弐本　一若者高張　二本
一ふたい挑灯　四張　一屋形挑灯　四張
一屋形長持
以上

七月廿六日

右之通り改、引取

一庄屋竹右衛門・覚左衛門、若者召つれ、助平・惣七、万事和熟相成候ニ付御礼申上候、御酒五升献、役人共へ弐升ツ、両人

切判形

一ソ檜・槙・松・椴・栂
栃・槻・栗元

右諸材共極印形

右、当春相触置候切判形

一ヲ檜・雑木共

右は、去二月中相触置候、尾州御領濃州七宗山より　公辺御買上ケ御用材ハ尾州御用木共、川下ケ中若散乱致し候ハヽ、其所ニ留置、失木無之様締筋之儀、川添村々え其節相触置候之所、猶又今般檜木・雑木共別段切判形取交、川下ケ相成候趣、依之右等之御用材等、出水之節散乱候共、決て隠木等不致様、其所ニ留置可訴出候、寺院之分えも村役人より右触面を以通達可致置候

辰九月

右之趣新加納御陣屋より申来ル

辰九月十二日梵鐘之儀ニ付、寺院方より書附差出し候ニ付、新加納御陣屋へ左之通差出し、当方より掛合之上、御地頭所より差出し候、十二日御三所御役人方少林寺出会之上、銘々役所え書附差出し、覚山本謙三罷出取調出来候節、山本栄助より御陣屋差出ス、左ニ

覚

一本山京都東本願寺直末　濃州各務郡前渡村
撞鐘御座候　常貞寺
但末寺無御座候
同州同郡同村
一禅宗信州松本全久院末寺　桃春院
撞鐘無御座候
但末寺無御座候
同州同郡同村
一日蓮宗尾州萱津村妙勝寺末寺　久昌寺
但末寺無御座候

当時は尾州葉栗郡犬山妙海寺兼職仕、留主居住居仕候、撞鐘無御座候

同州同郡同村
一禅宗濃州各務郡新加納少林寺末　妙智庵
撞鐘無御座候　但末寺無御座候

右之通御座候、尤梵鐘之儀は任御触、御沙汰第其筋え差上可申候、仍之御請如此御座候、以上

辰九月　　右村
妙智庵印
久昌寺印
桃春院印
常貞寺印

御地頭様
御役人中様

乍恐以書附奉願上候

一家普請仕組方　長五間半　張弐間　前通りひさし

右之通家普請仕度候ニ付、前書仕法書ヲ以奉願上候間、何卒此段御聞済被成下置度、御下知之程偏奉願上候、以上

安政三年辰九月　願人　七右衛門
親類　要助
五株　孫六
常右衛門
政右衛門
勘六
八兵衛

御地頭所
御役人中様

右之通り奉願上候ニ付取次奥印仕奉差上申候　以上

庄屋　覚左衛門

安政三辰年十月廿七日

一山東庄右衛門願出候ニ付、右は村方一統庄右衛門壱人相手取候儀は、勘定之儀ニ付行違筋有之候ニ付、庄右衛門壱人を下百姓之趣以後取計候と次定申候ニ付、欠込願と相成次第、嘉永元申年多蔵・弥右衛門両人、村方三人と寄合候所へ罷出候儀相成不申訳を有之候処、其後ニても右之者共立入、村方入組候由ニ付、取調申渡候次第、御吟味中手錠申附置候処、常貞寺・村役御詫申上候ニ付、口書取置候

多蔵
弥右衛門

其方共儀、嘉永元申年中不都合次第有之候ニ付、依て為御咎、村方相談事其外何事ニよらす三人と寄合候場所え立入候儀、急度不相成趣申付置候処、近頃御趣意ヲも不相背何事ニも立入、彼是小事ケ間敷儀企候趣相聞候ニ付、右為御咎メ手錠可申付候者也

右之趣被　仰付恐入奉畏候、依之御請新類連印奉差上候、以上

安政三年辰十月廿七日

新類　多蔵
佐右衛門
弥右衛門
新類　八蔵

御地頭所
御役所

組頭　宗七
庄屋　民右衛門

申渡候事

多蔵
弥右衛門

其方共儀、嘉永元申年中被仰渡候之通、村方相談事其外何事不寄三人と寄合場所え立入候儀、急度不相成趣、相改急度被仰付候

右之趣被仰付恐入奉畏候、仍て御請印奉差上候

安政三辰年十一月六日　太蔵
弥右衛門
組頭　惣七
庄屋　民右衛門

御地頭所
御役所

申渡候事

太蔵
弥右衛門

其方共儀、嘉永元申年心得違之儀有之候ニ付、科条申付有之候処、不顧恐をも又候今般心得違仕候ニ付、右為御咎メ手錠被仰付候処、常貞寺并村役人・親類共より追々御詫申上候ニ付、格別之思召ヲ以手錠　御免被仰付候間、難有御請奉申上候

右之趣被仰渡難有奉畏候、新類御請連印奉差上候、以上

安政三辰年十一月六日　新類　太蔵
佐右衛門

御地頭所
御役所

親類　弥右衛門
組頭　八蔵
庄屋　宗七
民右衛門

（表紙）
「安政四丁巳年記録
御用部屋」

蛙なく夜の
暖や雨催ひ
能ひ處に　猫の
昼寝や梅の花
鹿のなく山端へ入や
三日月
楳壁拝

一伊豆守様御奉書到来駿府御発足之事
一木曽川出水流材吟味之事
一永井肥前守様御家老中え御用透之節、安池藤四郎殿御稽古御頼之事
一伊豆守様御側衆被為蒙　仰候事
一北島新左衛門酒造一件
一今尾周右衛門病死一件
一正月若殿様小網島え御殺生御出之処百姓共不礼いたし候ニ付、少林寺和尚様御侘御取扱之事
一去ル四月十七日出水之節難船一件尾州小牧役場より掛合来ニ付返書之事
一五月廿七日江戸表より来状着、炮術御願済之事
一閏五月一日柔術儀ニ付、安池藤四郎殿御頼被遣候処、加納片岡左富殿より手紙之趣事
一木曽川国役御普請ニ付、江戸御普請役ニ付笠松堤方へ使者相勤候口上書
一木曽川国役御普（請脱カ）ニ付欠廻し新堤砂取場所新加納御役人え掛合之事
一炮術稽古ニ付御届書之事
一加納永井伊豆守様来ル十六日御参府之儀ニ付為知白木状箱之事
一六月二日炮術御稽古各務野原ニて有之候ニ付、八ケ村え前渡村庄屋より断申入候事
一箱館・蝦夷・松前三ケ国通用鉄銭鋳立御触之事
一松栄院様御逝去停止之事
一小牧役場四月水難ニ付一件再々問合一件返書来ル事
一七月廿日公儀御老中伊勢守様卒去ニ付御触之事
一賊悪山東源右衛門、勢州四日市信楽御支配ニて御手懸り
一山本謙三嫁取願之事
一秤御改笠松遣し置候ニ付改出来九月五日
一定例御証文御差出し之事
一永瀬四郎右衛門妹縁組願之事
一成瀬隼人正様御逝去九月下旬

一永井肥前守様御家中安池藤四郎殿柔術正達ニ付、御頼、ニ若殿様御稽古被遊度候ニ付、御家老中まて御頼御書左ニ
一筆致啓上候、春暖之節御座候えとも弥御堅勝被成御座、珍重奉存候、然は悴李太郎ニ家来共、其　御家中安池藤四郎殿相頼、門弟相成柔術為致修業度、依之藤四郎殿え、御用透之節罷越被呉候様御取計可被下候、此段御頼得御意度如斯御座候、恐惶謹言
坪内嘉兵衛
二月十四日　昌盛（花押）
片岡左富様
右白木御状箱ニて

廿二日
殿様新加納御陣屋え　伊豆守様御側衆被為蒙　仰候ニ付、御祝儀として御陣屋え御出、御供方御馬口一人・山本栄輔・御鑓持・御箱・御草履り取、尤少林寺ニて御着替ニて御出也
一三井様・平島様御儀、流行御風邪ニて御引籠ニ候間、御全快迄御延引ニ相成候
廿三日
一伊豆守様御転役被為蒙　仰候ニ付、御三所御役人方同道ニて、御陣屋御祝儀罷出候、尤上下着用、御高役金出金方之儀、来ル晦日迄上納筈、三人相談仕置候、駿府御城代之節半当金九両ニ候間、今般も金九両出金候様小島氏被申候

乍恐以書付奉願上御事
一家普請仕組方　長八間・梁り弐間・前え庇附・惣土台掛ケ右之通り家普請仕度奉存候間、仕法書ヲ以奉願上候間、御聞済被下置　御下知被成下候ハヽ難有仕合ニ奉存候、以上
願人　源三郎
親類　九右衛門
田中本家　孫六
松波本家　小兵衛
足立本家　十兵衛
永瀬本家　勘六
宮川本家　八兵衛
御地頭所
御役人中様
前顕御願奉申上候ニ付取次奥印仕奉差上候、以上
庄屋　市右衛門

嘉永五丑年奥様御乳御大病ニ付、伊豆守様御手元ニて拾両金、無利足年賦御用捨、元〆御用人え御礼左ニ

以剪紙致啓上候、然は去ル丑年　伊豆守様御手元ニて拝借仕候
金子之儀、五ヶ年賦割合ヲ以追々返上仕、当巳年・来午年ニて
皆上納相成候処、今度格別之思召ヲ以、二ヶ年分御免被仰出候
趣、御達ニ相成、誠ニ以難有仕合奉存候、右御礼申上度、貴様
より宜鋪御取繕被仰上可被下候様奉頼候、以上

月　日　　坪内嘉兵衛

河田源内様

尚以、本文之趣偏ニ貴様御取成御働と厚忝奉存候、右御礼申述
候、以上

一　炮術御稽古各務野原ニて町打之儀

以手紙致啓上候、然は知行所ニて炮術町打之儀、先達て御進達
済、其後度々出張仕候処、追々遠町相成候節ハ、御料、私領入
合之各務野原え失落相成候ニ付、差支無之様去頃奉願候処　伊
豆守様より笠松　御郡代え御懸合相成候趣、承知罷在候、然ル
処、当節是迄之振合ヲ以炮術出張、町打仕度ニ付、今尾周右衛
門え及談候処、右ハ去ル秋頃笠松表え新加納御陣屋詰呼出し、
聞済相成候趣申渡し、御郡代より御返書相渡し候ニ付、其頃早
速駿府表え申上置候処、其後何等之御沙汰も無之　御用多ニ付
御取紛、御延引ニ相成候哉之趣ニ付、今一応江戸表え御沙汰済
之上出張致候方可然哉ニ、周右衛門申聞候間、出張之儀延引罷
在候間、前書之趣御取繕被仰上、早速御沙汰御座候様、御取計
奉頼候、以上

三月四日　　坪内嘉兵衛

小松藤兵衛様

尚々、本文之次第ニ付宜鋪御取計奉頼候、猶又頃日炮術催(取カ)罷在
候間、何卒当月中御達し御座候様、御被成御取計奉存候、以
上

一　北島新酒造一件

以手紙致啓上候、然は彦坂善左衛門殿御勤役中　伊豆守様え奉
願置候酒造之儀、今度　公辺より厳敷被仰出候趣、笠松　御役
所より承候、付ては笠松御支配之内以前より休株御座候由ニ付、
今般休株所持罷在候者共、御冥加差上酒造出来候様、笠松え出
願候処、同所ニてハ御取扱六ヶ敷次第ニ付、江戸表酒造方御懸
りえ笠松　御役所より添書ヲ以、休株之者共願出仕候ニ付ては、
拙者知行所儀も右ニ准し出願仕度趣、笠松表え内輪相願、添書
貰請出願仕度旨申出候間、追々相願置候儀ニ付、当方酒造当人
代孫右衛門と申者差出候間、同人より委細御聞取之上　伊豆守
様え貴様より程能被仰上、其筋え御懸合被下置候様致度、此段
宜敷御取繕之上被仰上被下候様奉存候、以上

三月六日　　坪内嘉兵衛

小松藤兵衛様

右ニ付、新加納御陣屋ニて御添書之儀ニ付口上書左ニ

口上書取之覚

一　前渡村百姓新左衛門酒造之儀、嘉永五年中駿府表え被相願候
処、無株之儀ハ御停止之趣御座候へ共、尚又其筋え御問合篤と

御取調被成下置候趣之処、今般笠松御支配之内、休株之者共笠
松　御役場ニて添書戴、江戸表酒造方御懸りえ出願致候趣ニ
付、右ニ准し同人儀も江戸　伊豆守様御屋敷え出願度申出候ニ
付、何卒当　御役所よりも御添書御差出被下候様奉頼候、以上

三月六日　　山本謙三

新加納御陣屋役頭今尾周右衛門殿病死一件

以手紙致啓上候、然は今尾周右衛門儀病気之処、養生相不叶、
昨九日死去致候間、此段各様御承知迄可得御意如此御座候、以
上

三月十日　　小島市兵衛
古田真兵衛

山本謙三様
岩塚銖輔様
加藤連三郎様

一　御悔御使者之儀、先周右衛門殿天保二年死去之砌、振合取調候
へハ、出棺当日御三所共少林寺え相揃、同人宅ニて御使者自分
兼口上申置、引取と相記罷在候ニ付、右ニ准し候へとも、先周
右衛門殿ハ御用人格、当時之周右衛門殿儀ハ御給人格ニ付、跡
ニて御悔御使者相勤候様　御両家様共御相談之上、十二日出棺
之処、十四日少林寺え相揃、御使者自分兼山本謙三罷出ル、御
香代銀壱朱、供連レ之儀ハ若党・草履取

（四月カ）

小網島御殺生御出之処、不都合之次第左ニ

為御遺意差上申候一札之事

去ル五日、其　若様為御殺生送り長鳥え被遊御出候処、御見違
申上、御家来中様え不法之趣申出、彼是強気相働候ニ付、其於
場所ニ御手打も可被　仰付之処、厚御勘弁之上御引取相成、恐
入難有奉存候、其後新加納御陣屋え御差出相成、御吟味中御咎
被仰付、尚此上江戸表へ被　仰立、急度可被　仰付之処、少林
寺和尚様え御歎キ申上御弟子分相成、向後殺生等堅相慎候趣ヲ
以、和尚様より段々御詫被仰上候ニ付、和尚様え御免し相成
御陣屋表御解キ相成、重々難有仕合奉存候、以後急度相慎為可
申上、親類連印奉差上候、右為御遺意一札依て如件

安政四丁巳年正月

当人　庄三郎印
利兵衛印
親類　喜左衛門印
市右衛門印

坪内嘉兵衛様
御役人中様

前書之趣相違無御座候ニ付、依て奥印仕候、以上

小網島庄屋　喜八印
同　勇右衛門印

表書之趣相違無御座候

少林寺印

一尾州小牧御陣屋より、去四月十七日木曽川通り出水之砌、難船いたし候船頭文四郎・彦七・伊兵衛、右ニ犬山穢多十二人・旅人三人・鵜沼村之内小伊木村藤三郎一人・当所舟頭伊兵衛、〆死人拾六人(ママ)、右ニ付掛合手紙左ニ申来ル

以剪紙致啓達候、然ハ其御知行濃州各務郡前渡村船頭文四郎・彦七・伊兵衛儀、去月十七日尾州犬山穢多共所え相越、落チ馬有之候ニ付、革剝ニ相越可申哉、左候ハヽ手船ニて越立遣候旨申聞候由ニ付、穢多共之内別紙丸印名前之ものとも拾四人、外ニ旅人三人幷尾州領濃州各務郡鵜沼村林蔵倅藤三郎とも都合弐拾壱人乗船いたし、犬山鵜飼屋渡船場より出船、木曽川通り伊木瀬下タ迄乗下り候処、及難船、右名書之内朱丸印之外拾七人水死いたし候儀ニ相見、其之内穢多弥兵衛・綱蔵両人死骸は相知候えとも、其余死骸不相知候、付ては旅人名所等之儀文四郎・彦七手前おいて聞訂、乗船為致候儀ニ可有之哉ニ付、右之者名所幷難船之始末とも夫々御吟味、否御申聞候様致度、此段可得御意旨松平竹蔵申聞、如此御座候、以上

五月十四日　　柿崎次郎左衛門
　　三沢半左衛門
山本謙三様

小牧役所水死難舟訳写差出シ候覚、左ニ申遣し置候

乍恐以書付御達シ奉申上候

一今般私シ共難舟仕候一件逐一奉申上候、昨十七日継鹿尾勘音(観)縁日ニ付、町用兼て登り舟ニて参詣仕候所へ、三井村善光寺参り頼ミニ付、尾州木津村迄登り舟乗行申候、夫より私シ共継鹿尾え参詣仕候跡ニ、舟番ニ伊兵衛と申者壱人残シ置、此者旅人三人・穢多拾四人乗舟引合詰、鵜沼村藤三郎・犬山横越船人新七・外壱人より頼ニ付、字ナ龍宮と申所え越付、折悪敷風浪烈両舵共ニ折、縄伐、大波之中え吹流、水中ニ舟沈ミ、弐拾壱人之者不残落入仕候始末、左ニ奉申上候

一鵜沼村藤三郎義水死仕候

一旅人三人水死仕候、菅笠二かい江戸と印、名所も無御座候、揚り荷物芸州と相訳り申候

一船人文四郎義、大伊木村前中洲え廻り上り、右村ニて介抱服薬致、前渡村え帰り、未夕全快不仕候

一船人彦七義、草井村迄流来り、助舟ニて上り、酒樽壱ツ・難舟共ニ前渡村引取、同人未夕服薬仕居申候

一船人伊兵衛義、難舟共草井村迄流来り、助舟ニて上り、宿本ニて服水故相果申候

一穢多拾四人之内拾弐人水死仕候、内壱人は難舟共ニ草井村迄流来り、助舟ニて揚り申候、内壱人は帆柱ニ取付、下切村助舟ニて上り、犬山え立帰り申候

右難始末、都合拾七人落命仕候、尤芸州荷物別紙調奉差上候間、右之段乍恐以書付御達奉申上候、以上

巳四月十八日　　前渡村
　　船人　文四郎〇
　　同断　彦七〇

御地頭所
御役所

前顕奉申上候ニ付、奥印仕奉差上候、以上

右村庄屋　市右衛門〇

濃州各務郡前渡村
　　舟人　文四郎
　　同断　彦七

去月十七日難舟仕候一件、其後大病ニ付先般口上書ヲ以御達申上置、追々療養差加快方ニ趣候ニ付、去ル廿二日御届申上候処、尾州小牧　御役場より犬山穢多共より之達書面趣ト、私共御達申上候趣意ト符合不仕候ニ付、今日御呼出御吟味御尋ニ付、左ニ奉申上候

去月十七日木曽川出水之処、落馬流来り候間、私共三人掛りニて留置、町用御座候間犬山え仕立舟ニて罷越、私共三人穢多方え参り、皮剝ニ可参り旨及懸合ニ候之処、穢多共承知之旨申聞候ニ付、然処今日ハ出水ニ付我等手舟ニて参り居候由咄候えは、左様ニ候ハヽ、為乗参り呉候様、穢多共相頼候ニ付承知仕、八ツ過頃犬山中切村地崎より穢多共拾四人為乗、同所鵜飼町まて登り候処、先達申上候通、芸州旅人一人・江戸旅人二人・濃州鵜沼村小伊木分藤三郎罷越候処、出水ニ付横越も早朝より留り居候処、渡守新七ト申者幷藤三郎より私共え越立方段々相頼候間、是も同船為致出舟仕候処、大伊木村瀬下ニて乗損、先般御達申上候訳柄ニ相成、実々歎ケ鋪奉恐入候、将又穢多共申立方ト私共より之御達し面ト符合不仕候趣ニ付、御引合御吟味相成、右難舟之砌ハ実々容易(不脱カ)事ニて驚動仕居、符合不仕候段奉恐入候

一芸州左嗜郡大栗村竹松・筆吉両人之儀、御尋ニ付奉申上候、右ハ竹松ト申哉筆吉ト申哉、壱人参り候儀ニ付、名前之儀ハ承り不申候ニ付相分不申候

一江戸旅人両人之儀、御尋ニ付奉申上候、是ハ管(菅)笠ニ江戸ト有之計ニて別ニ名所ハ無之、且ハ荷物死骸等も相知不申候ニ付、此段奉申上候

右之趣一同相違無御座候ニ付、親類印形差加奉申上候、以上

安政四丁巳年五月廿六日　　右　文四郎
　　同人親類　増右衛門
　　彦七
　　同人親類　清助

御地頭所
御役所

前顕御吟味ニ付差添罷出承知仕候ニ付、依之奥印差上申候、以上

前渡村庄屋　竹右衛門〇

巳四月廿七日　公儀御触書三通、新加納御陣屋より到来いたし候、書面之趣左ニ写

国々おゐて新田畑開発之儀、一領一円之内ニ籠有之候場所ハ公儀より新開不被　仰付旨、享保ㅂ安永度被仰出候趣も有之、且又諸国川通り之附寄洲を新開取立候儀ㅂ葭・真菰等植出し候儀仕間敷、追々生立場所刈払、附寄洲不相成様心懸、且水源より海口迄一領分ニ籠候川筋附寄洲之儀も、右ニ准シ可相心得旨、寛政度相触候趣も有之候処、当節武備之儀品々御世話も有之折柄ニ付、一領一円内ニ籠有之川附之分、右類之附寄洲ニても、洪水等之節前渡村方えも後来迄全く差障り不相成分ハ、私領ニて新開申付候儀不苦、尤差障り之有無相分儀も有之節ハ、御勘定奉行え問合、得差図可申、依てハ領主・地頭ニておゐて厚く世話いたし、新開ㅂ荒地起返し可相成場所ハ開発申付、永世収納高も相増、武備之一助ニも相成候様可心懸候

但一村一給ニ無之、分郷ニても一給ニて取廻し候内ニ有之候地所同前、尤地(他)領之地先少しニても入交有之分、私領ニて開発不相成等仰出候通可相心得候

右之通り相触候間、可被得其意候

四月

一閏五月四日小島市兵衛殿方ニて、今度木曽川通国役御普請ニ付、水越留新堤弐百六拾間余之処欠廻し、相談出来之処、前渡村地内ニて砂取之儀咄合も無之ニ付、謙三申出し候ニハ、新堤之儀は承知仕候え共、砂取場所ハ如何御取計被成候哉申談候処、先年之通り前渡村地内ニて取候心得ニ候と申候間、如何之御取締ニて候哉申ニ付、今度欠廻し場入用土取場所多分入用之儀ニ付、左候ハヽ主人知行所ニて御断ニ候、其訳先年土取之儀年限を以御割合被下候え共、是ハ入土同様之処、跡は宜敷畑ニも相成哉百性共見込之所ニて知仕候え共、今般之処ハ石地ニ候間、切入之入土は御取被下候ても宜敷候え共、元地方迄承知仕候、其余は御断申候、市存より申候、先年之ふり合宜御承知相成不申節は、御普請延引ニいたし候より外いたし方無之、左様ニ候ハヽ、御物成減附候儀ニ候間、口上御引合ニて承知致かたく候間、御書附御下被下候、元高ニ相成候迄、下村より右堤所御年貢御助被下候様申候処、新加納役場ニて書附は得御渡し不申候、謙申候は、十ケ年過候ハヽ、御助不被下節は、地頭ニて永引ニも相成候心得ニ候間、何分ニも右之処私共服(復)落入不申候、併なから主人えも申談、其上御返答可申上候、御手前様御服合之処、今日拾ケ年御助被下候え共、十ケ年後ニ至、御陣屋ニて年限相済候儀ニ付、当年限りニ前渡敷地米遣し不申、尤其砌御地頭御役人えも引合置候儀ニ付、遣し不申と相成候御利解ニて帰宅、又候御年貢あれ地之場所ニ候間、御見分之上ニ御

年貢相勤り候分ハ上納仕候え共、いつれニも御引方願仕候時は、地頭より永引同様ニ相成候儀ニ付、いつれ御書附御下被下候儀出来不申儀ニ候ハヽ、当方とても御物成減し候儀後年ニ迷惑仕候間、御答不申上候、今日引取候て其上主人えも申聞、御答可申上候と答置候、帰り

閏五月六日、此頃中小島市兵衛殿え掛合相成居候新堤築立ニ付、今日猶又打合相談之様、昨日申来ルニ付罷出申候処、先方申候ニハ、亥年振合ニ取計候様仕度旨申聞候、当方存より、いつれニも内々此頃加藤氏を以申入候通、御陣屋ニて御書付御渡シ被成候ニハ、江戸表伺之上ならてハ御取計被成兼候よし、右ニて御普請差支ニも相成候ニ付、惣代共より当方へ書付差入候て当御知行高之内土取候様申候、小島存付、会所大割年々定式之帳面へ印置、年々相改候ニ付、右十ケ年之者なれハ、年限明ニ又御地所見分仕候て　引増附候方可然哉申儀、加藤氏へ其夜内談仕置、同人も宜敷旨申之、左様之御内談は当方不存儀ニ付、右故惣代より前渡村村役へ、書付下(案)安文取調申儀ニ付、今朝主人申談候儀とハ相違之儀ニ付、御手前様ニも江戸表御伺御取計之思召ニも候ハヽ、当方主人より江戸表へ伺候と申候儀迄、主人申居候間、右ニて今日新堤願書差出シ候様、江戸御役方より御さいそく之処、右ニて差支候儀候間、左候ハヽ先々右新堤入用土取之儀は亥年振合として、儀定書之処は会所持割方元帳ニ認メ入、十ケ年ニ元地へ相成不申節は、又候御上下より右場所へ御年貢御助被下候様御取計被成下候、今日と申候てハ御入帳認メと申儀ニも相成不申儀ニ候間、追て御認メ之帳面一覧いたし、猶又写子(し)取、当方之留記ニも認メ置候、左候ハヽ、引取主人えも申聞、右之趣承知被致候儀ニ候ハヽ、別段御答不及候、いつれニも宜敷御主人様へ被仰上、御聞済ニ相成候様、差懸り候儀ニ付、御取計被下候様申事、御聞済之上は地主之儀ニ候間、村方三役印形持参、早々会所御差出し被下度、此段宜敷頼と申事、尤小島市兵衛・今尾愛平両人談事之事

右ニ候間、一先掛合相済候ニ付、右筋合申上御承知之上、早行両人より引合之通り、庄屋角左衛門呼出し、三役印形取調、下中屋会所罷出候様申聞遣ス

一安政二卯年十月十八日前渡村庄屋利兵衛を以、各務原ニおいて炮術御稽古有之候節、名々八ケ村ヘ相廻り、其節下切村・成清村・新加納・高田・更木・水海道・前野・野畑村、〆八ケ村相廻り、当日野方借用いたし候間此段宜敷願入候処、村々庄屋ニて、御念入候御儀承知仕候旨、答有之

猶又今般新加納御陣屋へ六月二日申入候処、使栄助古田真兵衛面談候処、卯年取計置候通り、御知行所庄屋壱人御陣屋へ御差出し相成候様、左候ハヽ先振を以当御知行新加納村庄屋差添、八ケ村庄屋所廻村候様申附候旨、申越候ニ付、直様当表庄屋角左衛門へ申附、新加納御陣屋へ向遣ス、其上八ケ村差支も無之

儀ニ候ハヽ、笠松表へ猶又明三日届可仕旨申事ニ候

小牧御役場え

以剪紙致啓上候、然は先達て難船一条ニ付段々御打合御座候ニ付、御答申上置候之処、其後御調向も如何相成候哉、当方之儀は今以咎申附置候ニ付、手切之御仕置等相成候様、御承知も被成下度、左候ハヽ、其御役場ニおゐて　御政事向被仰付候御模様承り、当方ニて御取計ニ准、政事申渡し候義も御座候間、一応御取計向承知仕度、乍御面倒御報被仰下候様仕度奉頼候、此段可得貴意条如此御座候、以上

七月二日　　山本謙三

三沢半左衛門様

柿崎次郎左衛門様

去ル四月中難舟一条、尾州役場より手切之掛合済相成、依御咎メ之次第左ニ

文四郎

彦七

其方共義、去ル四月十七日木曽川出水之処、落馬前河原渡瀬辺え流来り候ニ付、右落馬留置、尾州犬山穢多方え参り、直段等掛合売渡し、皮剝参り呉様引合、然ル出水（処脱カ）ニ付渡舟等も留居候ニ付、右穢多拾三人・旅人三人・外壱人、手舟ニ為致乗舟、大伊木村字堅壁ト申処ニて乗損し、水亡人数多出来いたし、尾州御役場より御打合相成、御上えも御心配相懸り、且は百姓之身分柄として不相応之仕成、不届至極ニ付所払等可被仰付之処、格別御憐愍ヲ以入牢被　仰付候者也

右之趣被仰付恐入奉畏候、依て御請親類連（印脱カ）奉差上候、以上

安政四丁巳年七月

文四郎〇

同人親類　増右衛門〇

彦七〇

同人親類　清助〇

庄屋　覚左衛門〇

御地頭所

御役所

金右衛門

惣七

其方共義、去ル四月十七日木曽川出水ニ付、前川原渡瀬辺え落馬流来り候処、伊兵衛・彦七・文四郎惣方懸り合ニて取扱、身分柄不相応仕成不届至極ニ付、右之者共同罪ニも可被仰付之処、思召ヲ以、為御咎メ手錠被　仰付候者也

右之趣被仰付恐入奉畏候、依て御請親類連印奉差上候、以上

安政四丁巳年七月

金右衛門〇

同人親類　金右衛門代印　粂五郎〇

惣七〇

同人親類　利八〇

庄屋　覚左衛門〇

御地頭所

御役所

江州信楽御支配勢州四日市宿ニて、元名源右衛門と申、山東武兵衛悴、当時名は常吉と申候よし、賊悪いたし候ニ付、新加納役所え掛合申来候ニ付、七月廿八日源助親類庄屋共召つれ罷出候、右ニ付武兵衛後家ゆか当方役場え呼出し、猶又相糺候様、新加納役場古田氏打合候ニ付、同廿九日呼出し、左ニ口取、申新加納役場送り遣し候

武兵衛後家　ゆか

同人親類　藤右衛門

庄屋　栄助

戌年冬より源助江戸表御奉公中、亥年冬賊源右衛門参り、内々ニて軒ニて一夜明し候事も有之、子年四月頃参り候ニ付、為寄付不申旨申聞候へ共、不聞入小屋ニ一夜明し、夜明方送り出し申候

一丑年夏頃彦根様御登り之節、荷持いたし参り候とか立寄、詫事相頼候へ共、直様送り出し申候、但是ハ昼中之事ニ御座候

一辰年五月、尾州般若村私親里周右衛門方蛹草物其外取出し、其砌小杁村賊悪いたし、下役之手懸り、尾州北方役場被召捕候よし

右丑年より当年迄ハ一度も立入不申候

七月廿九日

右之趣申上候ニ付、御陣屋差送り申候

一当四月十七日難舟一件済口申渡覚

申渡候事

文四郎

其方儀、先般心得違之取計いたし候ニ付、為御咎メ入牢被　仰付置候処、親類并村役を以段々御侘申上候ニ付、御咎メ　御免被仰付候、此以後ハ舟持急度御差留被　仰付候、其方共身分として落馬売買取扱之儀不埒之次第ニ付、向後右様之義急度相慎可申候、其外是迄風分不宜趣相聞候ニ付、隠居被　仰付候、附ては家名相続之儀ハ追て思召ヲ以可被　仰付候事

右之通り御咎メ　御免、隠居被　仰付奉畏候、難有仕合奉存候、依て御請連印奉差上候

安政四丁巳年八月

文四郎〇印

同人親類　増右衛門〇印

御地頭所

御役所

申渡候事

彦七

其方儀、先般心得違之取計仕候ニ付、為御咎メ入牢被　仰付候